

## 10.6 動物



## 10.6 動物

### 10.6.1 調査

#### (1) 調査内容

##### 1) 動物相の状況

事業実施区域及びその周辺の生息種及び動物相の特徴を調査した。

##### 2) 保全すべき種の状況

事業実施区域及びその周辺に生息する保全すべき種の生息域（特に営巣地、繁殖地、採餌場所等に留意）及び個体数又は生息密度等について調査した。あわせて、保全すべき種の生息環境を調査した。

##### 3) その他の予測・評価に必要な事項

広域的な動物相及び動物分布の状況、過去の動物相の変遷、地域住民その他の人との関わりの状況について調査した。

#### (2) 調査方法

調査方法は、表 10.6-1 に示すとおりである。

表 10.6-1(1) 調査方法

調査項目	調査方法		
動物相の状況	既存資料調査	文献その他の資料を整理・解析した。	
	現地調査	哺乳類	1. フィールドサイン法 2. 無人撮影法 3. トラップ法 4. バットディテクター法
		鳥類	1. ラインセンサス法 2. ポイントセンサス法 3. 保全対象種の重点調査 4. 生息環境条件調査
		鳥類 (猛禽類)	1. 営巣地確認調査(猛禽類) 2. 繁殖状況調査(猛禽類) 3. 行動圏調査(猛禽類)
		爬虫類	1. 直接観察 2. カメトラップ
		両生類	1. 直接観察
		昆虫類	1. 任意採集・直接観察 2. ライトトラップ法 3. ベイトトラップ法
		魚類	1. 網等による採捕 (タモ網、投網、セル瓶、カゴ網、カニ籠、定置網、はえなわ、刺網等)
		底生動物	1. 定性採集 2. 定量採集(サーバーネット、エクマンバージ)
		陸産貝類	1. 任意採集・直接観察

表 10.6-1(2) 調査方法

調査項目	調査方法		
保全すべき種の状況	既存資料調査	動物相の状況の調査結果をもとに、「環境省レッドリスト2020」（令和2年3月）、「埼玉県レッドデータブック2018（動物編）」（平成30年3月）等の整理、専門家・地元有識者へのヒアリング等により、保全すべき種の抽出を行った。	
	現地調査	生息域	動物相の状況の調査により把握する。また、必要に応じて保全すべき種の分布地、営巣地、産卵地、採餌場所、ねぐら等を把握する調査を行う。
		個体数	動物相の状況の調査により把握する。また、必要に応じて直接観察、区画等を用いたカウント等を行う。
		生息環境	動物相の状況の調査により把握する。また、必要に応じて餌となる動植物、営巣木、産卵場、物理環境等の分布状況を把握する調査を行う。
その他の予測評価に必要な事項 ・広域的な動物相及び動物分布の状況 ・過去の動物相の変遷 ・地域住民その他の人との関わりの状況	既存資料調査	既存資料、専門家・地元有識者からの聞き取りにより調査を実施した。	

(3) 調査地域・調査地点

調査地域、調査地点及び調査経路は、図 10.6-1～図 10.6-7 に示すとおりである。

調査地域は、事業実施区域及びその周辺 200m の範囲並びに地下水の水位の変化の可能性がある地域を包括した範囲とした。

調査地点は、調査地域の代表的な環境を網羅することを基本とし、動物の生態特性や生息環境等を勘案し、分類群ごとに調査地点及び調査経路を設定した。

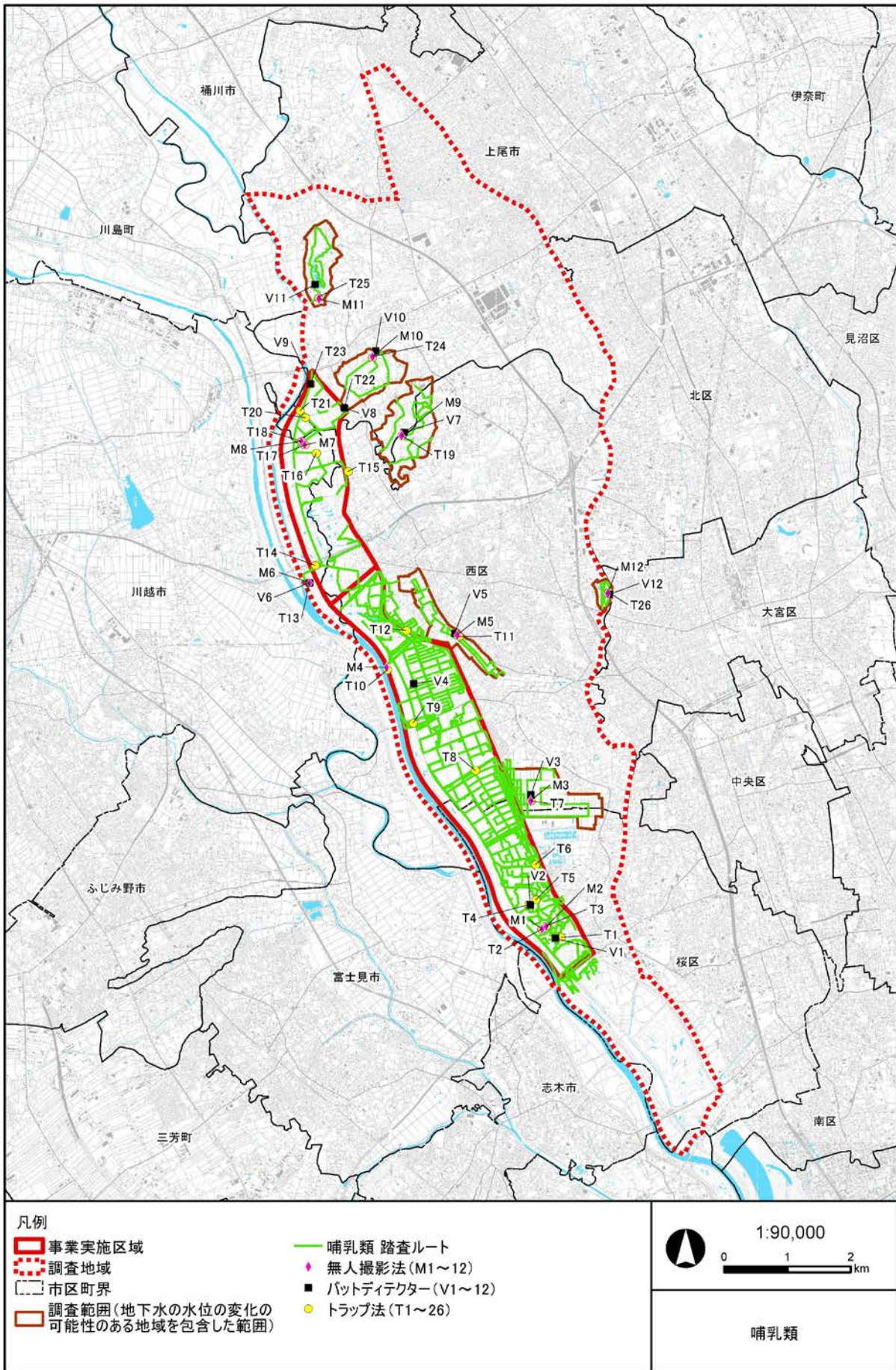


図 10.6-1 哺乳類の調査地域、調査地点及び調査経路



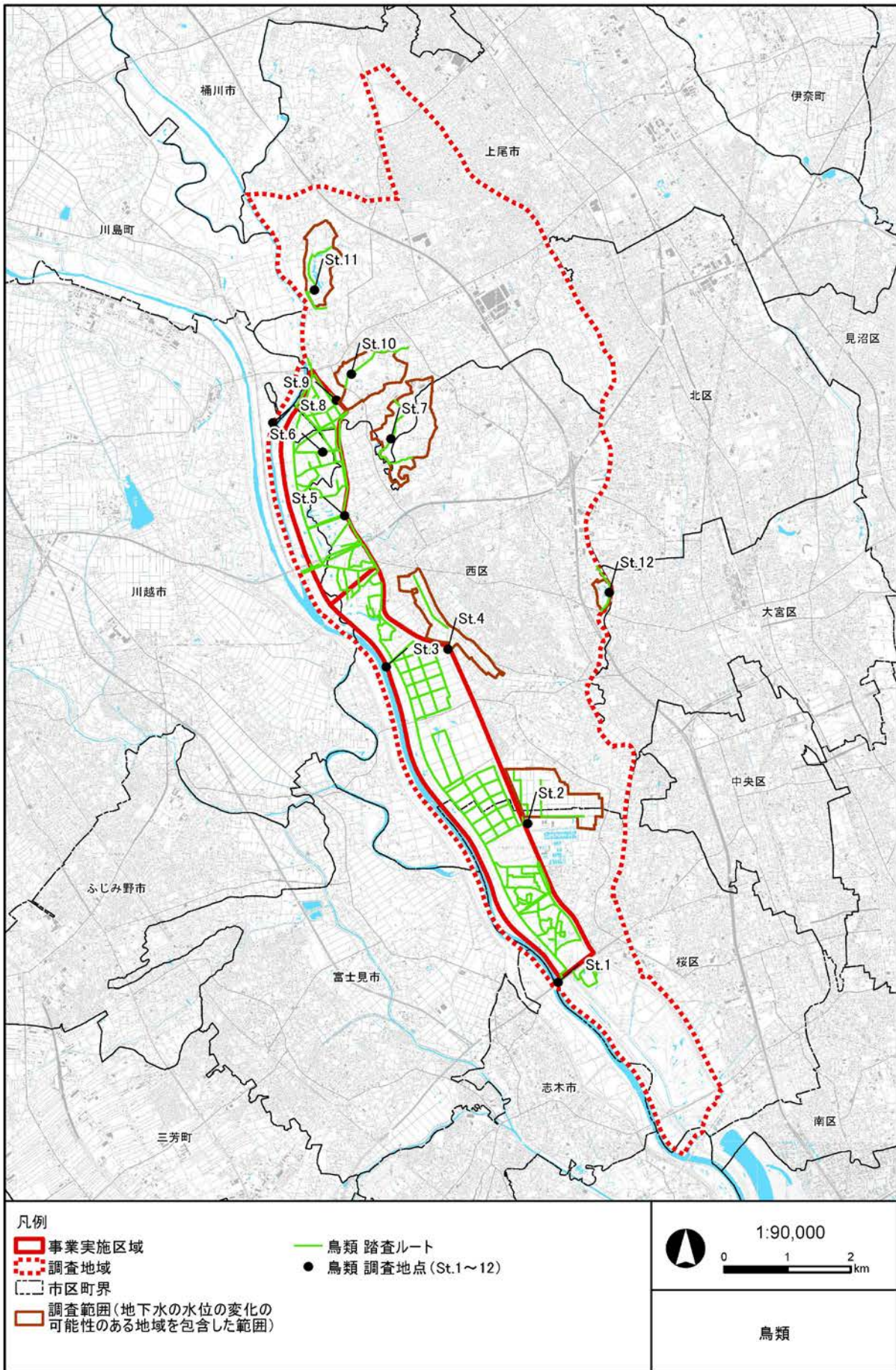


図 10.6-2 鳥類の調査地域、調査地点及び調査経路



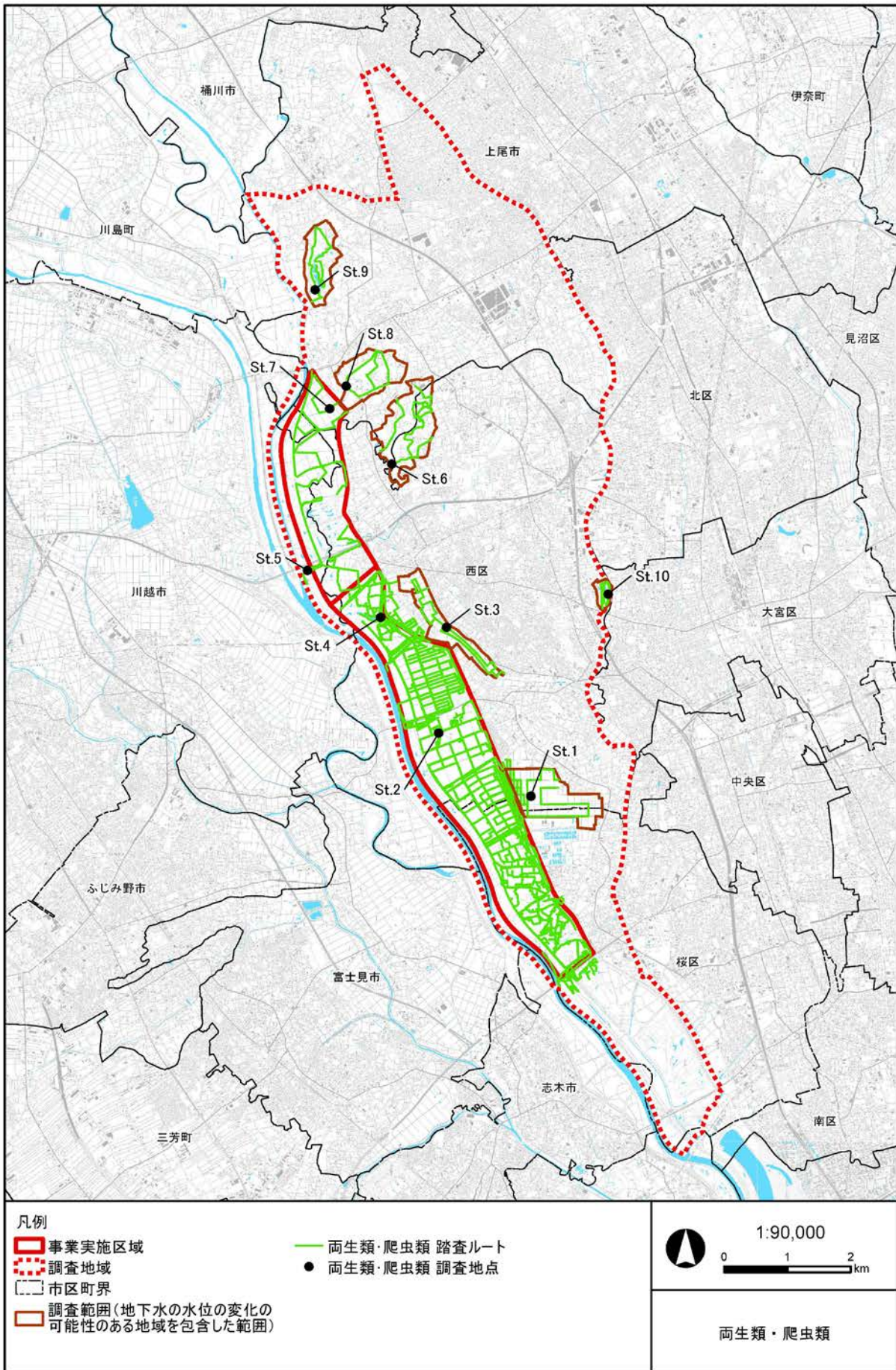


図 10.6-3 両生類・爬虫類の調査地域、調査地点及び調査経路



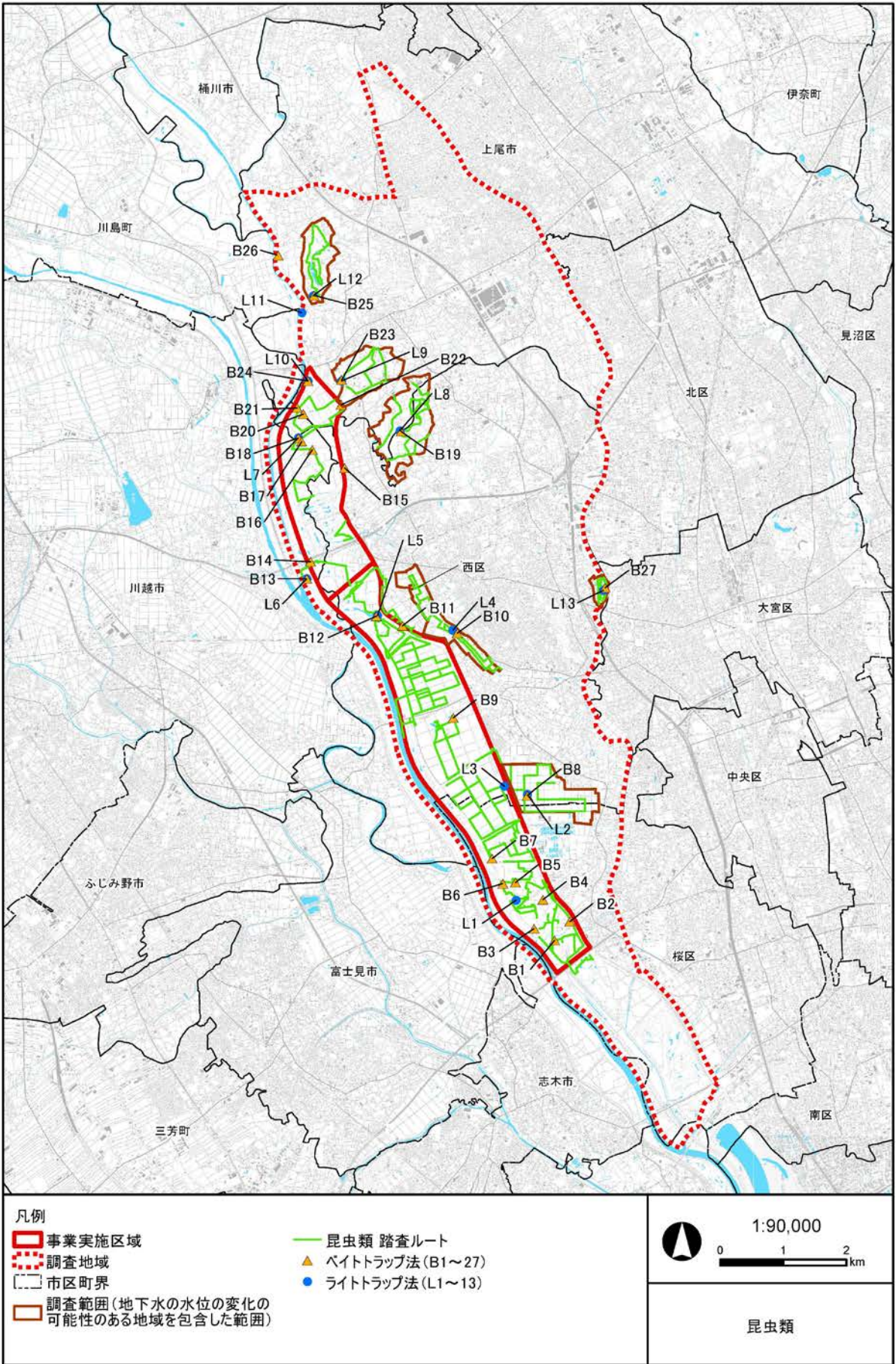


図 10.6-4 昆虫類の調査地域、調査地点及び調査経路



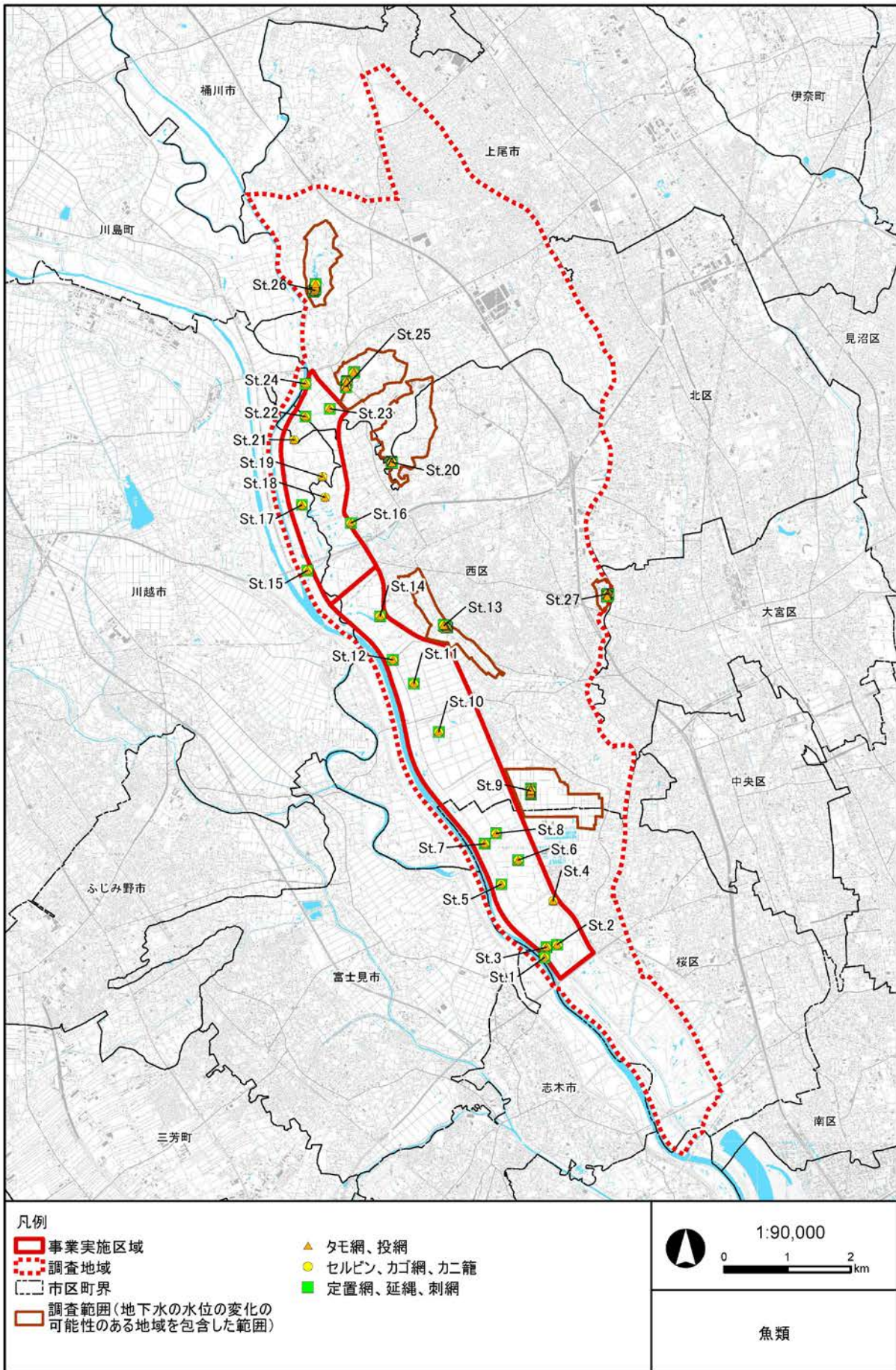


図 10.6-5 魚類の調査地域、調査地点及び調査経路



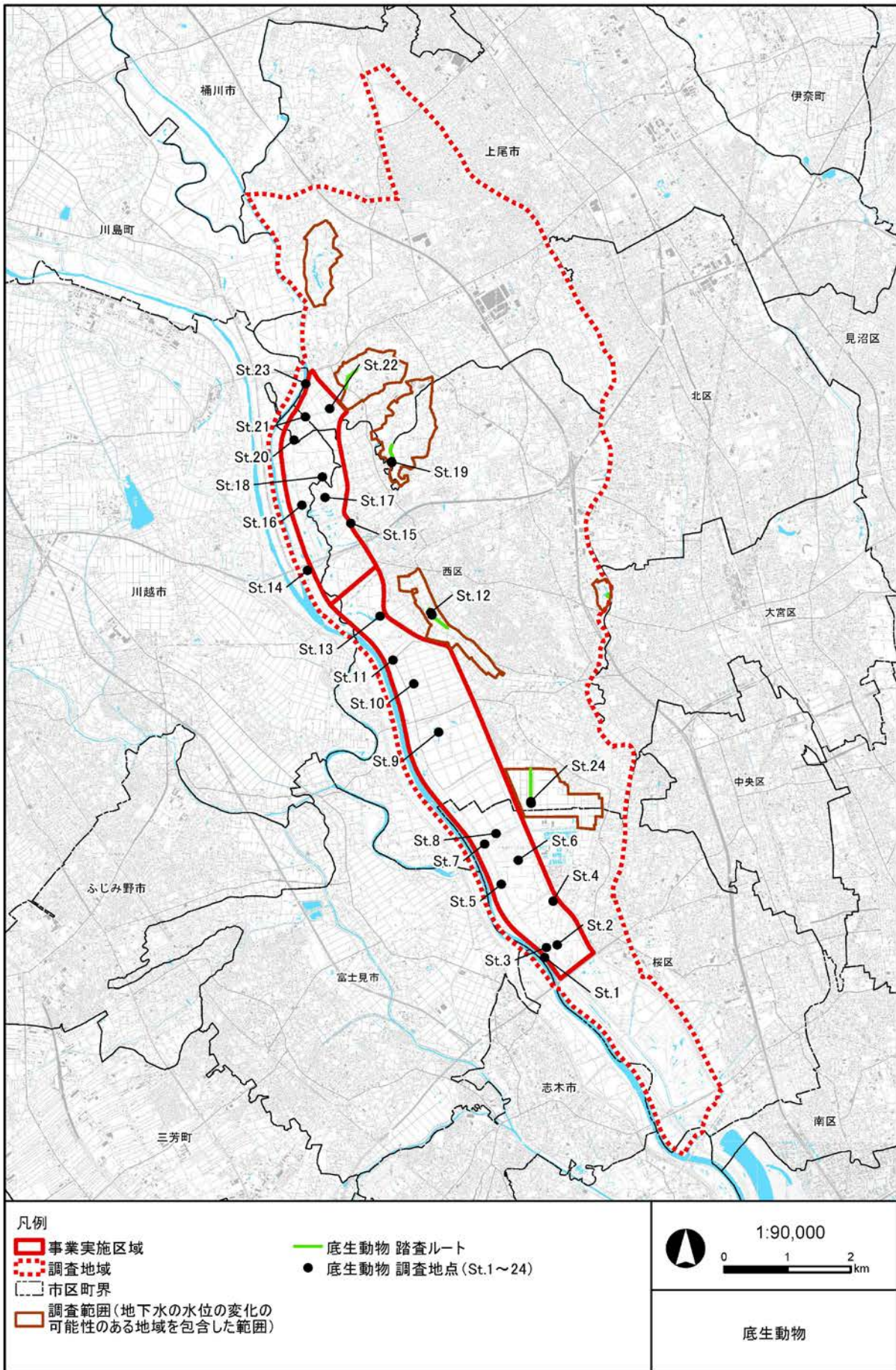


図 10.6-6 底生動物の調査地域、調査地点及び調査経路



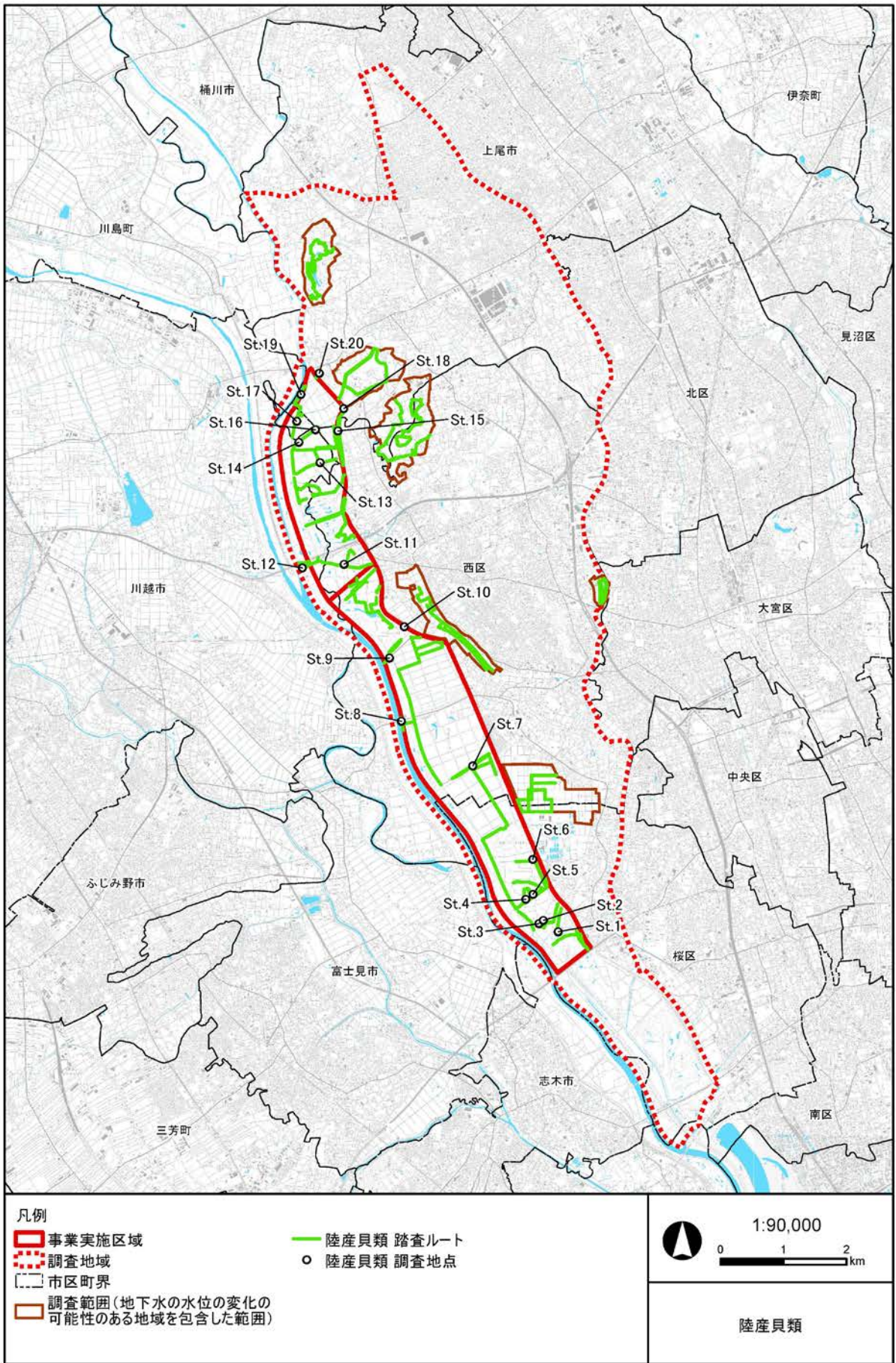


図 10.6-7 陸産貝類の調査地域、調査地点及び調査経路

#### (4) 調査期間・頻度

現地調査の調査期間、頻度は、表 10.6-2 に示すとおりである。

調査時期は四季の調査を基本とし、動物の生態特性や活動盛期等を踏まえ、分類群ごとに設定した。

表 10.6-2(1) 現地調査の調査期間、頻度（哺乳類）

分類群	時期	第三調節池予定地 及びその周辺	第二調節池予定地 及びその周辺	地下水の水位変化のおそれ のある地域を包含した範囲
哺乳類	春季	平成 28 年 5 月 18 日～20 日	平成 26 年 5 月 9 日 平成 26 年 5 月 14 日 平成 26 年 5 月 26 日～30 日	平成 29 年 5 月 29 日～31 日 平成 30 年 5 月 21 日～26 日
	夏季	平成 28 年 7 月 27 日～29 日	平成 26 年 7 月 31 日～8 月 1 日 平成 26 年 8 月 4 日～6 日	平成 29 年 8 月 7 日～9 日 平成 29 年 8 月 16 日～19 日
	秋季	平成 28 年 10 月 10 日～12 日	平成 26 年 10 月 15 日～18 日	平成 29 年 10 月 11 日～13 日 平成 29 年 10 月 16 日～18 日
	冬季	平成 28 年 2 月 16 日～19 日	平成 26 年 2 月 24 日～28 日	平成 29 年 2 月 15 日～16 日 平成 29 年 2 月 19 日～21 日

表 10.6-2(2) 現地調査の調査期間、頻度（鳥類）

分類群	時期	第三調節池予定地 及びその周辺	第二調節池予定地 及びその周辺	地下水の水位変化のおそれ のある地域を包含した範囲
鳥類	春季	平成 28 年 4 月 4 日～8 日 令和元年 5 月 10 日 令和元年 5 月 13 日～14 日	平成 28 年 4 月 26 日 平成 28 年 4 月 29 日 平成 28 年 5 月 13 日 平成 28 年 5 月 18 日 平成 28 年 5 月 31 日 令和元年 5 月 10 日 令和元年 5 月 13 日～14 日	平成 29 年 5 月 1 日～2 日 平成 29 年 5 月 10 日～12 日 平成 29 年 5 月 18 日～19 日
	夏季	平成 28 年 6 月 1 日～2 日 平成 28 年 6 月 19 日～21 日	平成 28 年 6 月 15 日～16 日 平成 28 年 7 月 4 日 平成 28 年 7 月 15 日 平成 28 年 8 月 19 日	平成 29 年 6 月 12 日～23 日 平成 29 年 7 月 11 日～12 日 平成 29 年 7 月 17 日
	秋季	平成 28 年 9 月 12 日～16 日	平成 26 年 9 月 22 日 平成 26 年 9 月 30 日 平成 26 年 10 月 2 日 平成 26 年 10 月 6 日 平成 26 年 10 月 9 日	平成 29 年 9 月 15 日～16 日 平成 29 年 9 月 18 日～21 日
	冬季	平成 28 年 1 月 26 日～27 日 平成 28 年 2 月 1 日～2 日 平成 28 年 2 月 29 日	平成 26 年 12 月 3 日 平成 26 年 12 月 11 日 平成 26 年 12 月 19 日 平成 26 年 12 月 24 日 平成 27 年 1 月 8 日	平成 29 年 1 月 15 日～20 日



表 10.6-2(3) 現地調査の調査期間、頻度（鳥類(猛禽類)）

分類群	時期	第三調節池予定地 及びその周辺	第二調節池予定地 及びその周辺	地下水の水位変化のおそれ のある地域を包含した範囲
鳥類 (猛禽類)	春季	平成 28 年 4 月 21～22 日 平成 28 年 4 月 28 日 平成 28 年 5 月 24 日～25 日 平成 29 年 4 月 22 日 平成 29 年 4 月 29 日～30 日 平成 29 年 5 月 10 日 平成 29 年 5 月 27 日	平成 28 年 4 月 13 日～14 日 平成 28 年 4 月 20 日、25 日 平成 28 年 5 月 26 日～27 日 平成 28 年 5 月 31 日 平成 29 年 4 月 22 日、25 日 平成 29 年 4 月 29 日 平成 29 年 5 月 11 日、28 日	平成 29 年 5 月 1 日～2 日 平成 29 年 5 月 10 日～12 日 平成 29 年 5 月 18 日～19 日
	夏季	平成 29 年 6 月 5 日 平成 29 年 6 月 23 日	平成 28 年 6 月 20 日～21 日 平成 28 年 6 月 24 日 平成 28 年 7 月 20 日～21 日 平成 28 年 7 月 25 日 平成 28 年 8 月 9 日～10 日 平成 28 年 8 月 12 日 平成 29 年 6 月 6 日 平成 29 年 6 月 21 日	平成 29 年 6 月 12 日～23 日 平成 29 年 7 月 11 日～12 日 平成 29 年 7 月 17 日
	秋季	-	-	平成 29 年 9 月 15 日～16 日 平成 29 年 9 月 18 日～21 日
	冬季	平成 28 年 1 月 21 日～22 日 平成 28 年 2 月 22 日～23 日 平成 29 年 1 月 10 日～23 日	平成 26 年 1 月 30 日～31 日 平成 26 年 2 月 13 日～14 日 平成 26 年 2 月 20 日～21 日 平成 28 年 1 月 26 日～27 日 平成 28 年 1 月 29 日 平成 28 年 2 月 17 日～18 日 平成 28 年 2 月 29 日	平成 30 年 1 月 15 日～20 日
	早春季	平成 28 年 3 月 10 日～11 日 平成 28 年 3 月 24 日	平成 26 年 2 月 13 日～14 日 平成 26 年 3 月 4 日～5 日 平成 28 年 3 月 28 日～29 日、 平成 28 年 3 月 30 日	-

表 10.6-2(4) 現地調査の調査期間、頻度（爬虫類）

分類群	時期	第三調節池予定地 及びその周辺	第二調節池予定地 及びその周辺	地下水の水位変化のおそれ のある地域を包含した範囲
爬虫類	春季	平成 28 年 5 月 18 日～20 日	平成 26 年 5 月 9 日、5 月 13 日 ～14 日	平成 29 年 5 月 29 日～31 日 平成 30 年 5 月 22 日～23 日、 5 月 25 日～26 日
	夏季	平成 28 年 7 月 27 日～29 日	平成 26 年 7 月 31 日～8 月 1 日、8 月 4 日～8 月 6 日	平成 29 年 8 月 7 日～9 日、8 月 18 日～19 日
	秋季	平成 28 年 10 月 10 日～12 日	平成 26 年 10 月 15 日～18 日	平成 29 年 10 月 11 日～13 日、10 月 16 日～18 日
	冬季	平成 27 年 2 月 16 日～19 日	平成 25 年 2 月 24 日～28 日	平成 30 年 2 月 16 日、2 月 20 日

表 10.6-2(5) 現地調査の調査期間、頻度（両生類）

分類群	時期	第三調節池予定地 及びその周辺	第二調節池予定地 及びその周辺	地下水の水位変化のおそれ のある地域を包含した範囲
両生類	春季	平成 28 年 5 月 18 日～20 日	平成 26 年 5 月 9 日、5 月 13 日 ～14 日	平成 29 年 5 月 29 日～31 日
	夏季	平成 28 年 7 月 27 日～29 日	平成 26 年 7 月 31 日～8 月 1 日、8 月 4 日～6 日	平成 29 年 8 月 7 日～9 日、8 月 18 日～19 日
	秋季	平成 28 年 10 月 10 日～12 日	平成 26 年 10 月 15 日～18 日	平成 29 年 10 月 11 日～13 日、10 月 16 日～18 日
	冬季	平成 28 年 2 月 16 日～19 日	平成 26 年 2 月 24 日～28 日	平成 30 年 2 月 16 日、2 月 20 日

表 10.6-2(6) 現地調査の調査期間、頻度（昆虫類）

分類群	時期	第三調節池予定地 及びその周辺	第二調節池予定地 及びその周辺	地下水の水位変化のおそれ のある地域を包含した範囲
昆虫類	春季	平成 28 年 5 月 18 日～19 日	平成 26 年 5 月 12 日～13 日	平成 29 年 5 月 29 日～31 日、 6 月 23 日 平成 30 年 5 月 8 日～10 日、 5 月 22 日～23 日
	夏季	平成 28 年 7 月 21 日～22 日 2019 年 8 月 13 日～14 日、 8 月 21 日～22 日	平成 26 年 7 月 3 日、8 月 4 日 2019 年 8 月 13 日～14 日、8 月 21 日～22 日	平成 29 年 7 月 24 日～28 日、 8 月 8 日～9 日
	秋季	平成 28 年 9 月 28 日～29 日	平成 26 年 10 月 15 日～18 日	平成 29 年 10 月 10 日～12 日

表 10.6-2(7) 現地調査の調査期間、頻度（魚類）

分類群	時期	第三調節池予定地 及びその周辺	第二調節池予定地 及びその周辺	地下水の水位変化のおそれ のある地域を包含した範囲
魚類	春季	平成 28 年 4 月 19 日～21 日	平成 28 年 4 月 13 日～15 日	平成 30 年 5 月 1 日～2 日、5 月 14 日～18 日
	夏季	平成 28 年 8 月 8 日～10 日	平成 26 年 8 月 18 日～21 日	平成 29 年 7 月 5 日～6 日、7 月 18 日～19 日
	秋季	平成 28 年 10 月 18 日～20 日	平成 26 年 10 月 15 日～18 日	平成 29 年 9 月 19 日～21 日、 9 月 25 日～26 日

表 10.6-2(8) 現地調査の調査期間、頻度（底生動物）

分類群	時期	第三調節池予定地 及びその周辺	第二調節池予定地 及びその周辺	地下水の水位変化のおそれ のある地域を包含した範囲
底生動物	春季	平成 28 年 4 月 25 日～28 日	平成 28 年 4 月 13 日～15 日	平成 30 年 5 月 2 日、5 月 15 日～18 日
	夏季	平成 28 年 8 月 12 日、8 月 15 日～16 日	平成 26 年 8 月 18 日～21 日	平成 29 年 7 月 6 日、7 月 18 日～19 日
	早春	平成 27 年 3 月 16 日～18 日	平成 26 年 2 月 9 日～10 日、2 月 12 日	平成 30 年 3 月 5 日～6 日、3 月 8 日



表 10.6-2(9) 現地調査の調査期間、頻度（陸産貝類）

分類群	時期	第三調節池予定地 及びその周辺	第二調節池予定地 及びその周辺	地下水の水位変化のおそれ のある地域を包含した範囲
陸産貝類	夏季	令和元年6月11日～13日	令和元年6月11日～13日	令和元年6月11日～13日
	秋季	平成30年10月31日、11月12日～14日、19日～21日	平成30年10月31日、11月12日～14日、19日～21日	平成30年10月31日、11月12日～14日、19日～21日

## (5) 調査結果

### 1) 動物相の状況

#### ① 既存資料調査

既存資料における動物相の状況は、「第3章 地域特性 3.2 自然的状況 3.2.5 動物の生息・種類、植物の生育、植生、緑の量及び生態系の状況 (1)動物」に示すとおりである。

#### ② 現地調査

現地調査による分類群ごとの確認状況は以下に示すとおりである。

##### (A) 哺乳類

現地調査の結果、5目9科14種の哺乳類が確認された。なお、哺乳類の重要な種は確認されなかった。

##### (B) 鳥類

現地調査の結果、16目40科114種の鳥類が確認された。このうち、重要な種は表10.6-3に示すとおり50種であった。

表 10.6-3 重要な種の確認状況（鳥類）

No.	目和名	科和名	種和名	学名	重要な種の選定基準				
					文化財保護法	種の保存法	環境省RL2020	埼玉県RDB2018 繁殖鳥全 県評価	越冬鳥全 県評価
1	ツル	クイナ	クイナ	Rallus aquaticus					VU
2			ヒクイナ	Porzana fusca			NT	CR	
3			バン	Gallinula chloropus				NT2	
4			オオバン	Fulica atra				NT1	
5	カイツブリ	カイツブリ	カンムリカイツブリ	Podiceps cristatus					VU
6	ハト	ハト	アオハト	Treron sieboldii				RT	
7	ペリカン	サギ	ヨシゴイ	Ixobrychus sinensis			NT	VU	
8			ササゴイ	Butorides striata				EN	
9			アマサギ	Bubulcus ibis				LP	
10			チュウサギ	Egretta intermedia			NT	VU	
11			コサギ	Egretta garzetta				NT2	
12	カッコウ	カッコウ	ホトギス	Cuculus poliocephalus				RT	
13			ツツドリ	Cuculus saturatus				LP	
14			カッコウ	Cuculus canorus				NT2	
15	アマツバメ	アマツバメ	ヒメアマツバメ	Apus affinis				LP	VU
16	チドリ	チドリ	タゲリ	Vanellus vanellus					NT2
17			ケリ	Vanellus cinereus			DD	NT1	EN
18		シギ	タンシギ	Gallinago gallinago					RT
19			タカブシギ	Tringa glareola			VU		
20		セイタカシギ	セイタカシギ	Himantopus himantopus			VU		
21		カモメ	コアジサシ	Sterna albifrons			VU	CR	
22	タカ	ミサゴ	ミサゴ	Pandion haliaetus			NT		
23		タカ	トビ	Milvus migrans				DD	
24			ハイタカ	Accipiter nisus			NT	DD	NT2
25			オオタカ	Accipiter gentilis			NT	VU	VU
26			サシバ	Buteo indicus			VU	CR	
27			ノスリ	Buteo buteo				NT2	NT2
28	フクロウ	フクロウ	フクロウ	Strix uralensis				RT	NT2
29	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	Alcedo atthis				RT	
30	キツツキ	キツツキ	アオゲラ	Ficus awokera				RT	
31	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	Falco tinnunculus				NT2	
32			ハヤブサ	Falco peregrinus		国内	VU		VU
33	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ	Pericrocotus divaricatus			VU	EN	
34		サンコウチョウ	サンコウチョウ	Terpsiphone atrocaudata				EN	
35		ツバメ	コシアカツバメ	Hirundo daurica				DD	
36		ウグイス	ウグイス	Cettia diphone				RT	
37		ムシクイ	エノムシクイ	Phylloscopus borealoides				NT2	
38			センダイムシクイ	Phylloscopus coronatus				NT2	
39		ヨシキリ	オオヨシキリ	Acrocephalus orientalis				NT2	
40		ムクドリ	コムクドリ	Agropsar philippensis				DD	
41		ヒタキ	トラツグミ	Zoothera dauma				NT2	
42			アカハラ	Turdus chrysolaus				NT2	
43			ルリビタキ	Tarsiger cyanurus					RT
44			コサメビタキ	Muscicapa dauurica				EN	
45			キビタキ	Ficedula narcissina				RT	
46		アトリ	ベニマシコ	Uragus sibiricus					RT
47		ホオジロ	ホオジロ	Emberiza cioides				RT	
48			ホオアカ	Emberiza fucata				CR	
49			アオジ	Emberiza spodocephala				DD	
50			クロジ	Emberiza variabilis					RT
合計	13目	26科		50種	0種	1種	13種	39種	14種

注1. 和名、科の配列等は、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成30年度版生物リスト」(2018年11月19日)に従った。

注2. 保全すべき種の選定基準は以下のとおりである。

- ・文化財保護法：「文化財保護法」(昭和二十五年五月三十日法律第二百四号)に基づき指定された天然記念物
- ・種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成四年六月五日法律第七十五号)に基づき指定されている種
- ・環境省RL2020：「環境省レッドリスト2020の公表について」(令和2年3月、環境省)  
EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧I類、CR:絶滅危惧1A類、EN:絶滅危惧IB類、VU:絶滅危惧II類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足種  
LP:絶滅のおそれある地域個体群
- ・埼玉県RDB2018：「埼玉県レッドデータブック動物編2018」(2018年、埼玉県)  
EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧I類、CR:絶滅危惧1A類、EN:絶滅危惧IB類、VU:絶滅危惧II類、NT:準絶滅危惧、NT1:準絶滅危惧1型  
NT2:準絶滅危惧2型、DD:情報不足種、LP:絶滅のおそれある地域個体群、RT:地帯別危惧種



(C) 爬虫類

現地調査の結果、2目8科14種の爬虫類が確認された。このうち、重要な種は表 10.6-4 に示すとおり11種であった。

表 10.6-4 重要な種の確認状況（爬虫類）

No.	目と名	科と名	種と名	学名	重要な種の選定基準			
					文化財保護法	種の保存法	環境省RL2020	埼玉県RDB2018全県評価
1	カメ	イシガメ	ニホンイシガメ	Mauremys japonica			NT	DD
2		スッポン	ニホンスッポン	Pelodiscus sinensis			DD	DD
3	有鱗	トカゲ	ヒガシニホトカゲ	Plestiodon finitimus				NT2
4		カナヘビ	ニホンカナヘビ	Takydromus tachydromoides				RT
5		ナミヘビ	シマヘビ	Elaphe quadrivirgata				VU
6			アオダイショウ	Elaphe climacophora				NT2
7			ジムグリ	Euprepiophis conspicillatus				NT1
8			シロマダラ	Dinodon orientale				VU
9			ヒバカリ	Hebius vibakari vibakari				NT1
10			ヤマカガシ	Rhabdophis tigrinus				NT1
11			クサリヘビ	ニホンマムシ	Gloydius blomhoffii			
合計	2目	6科	11種		0種	0種	2種	11種

注1. 和名、科の配列等は、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成30年度版生物リスト」(2018年11月19日)に従った。  
 注2. 保全すべき種の選定基準は以下のとおりである。  
 ・文化財保護法:「文化財保護法」(昭和二十五年五月三十日法律第二百四号)に基づき指定された天然記念物  
 ・種の保存法:「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成四年六月五日法律第七十五号)に基づき指定されている種  
 ・環境省RL2020:「環境省レッドリスト2020の公表について」(令和2年3月、環境省)  
 EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧I類、CR:絶滅危惧1A類、EN:絶滅危惧IB類、VU:絶滅危惧II類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足種  
 LP:絶滅のおそれある地域個体群  
 ・埼玉県RDB2018:「埼玉県レッドデータブック動物編2018」(2018年、埼玉県)  
 EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧I類、CR:絶滅危惧1A類、EN:絶滅危惧IB類、VU:絶滅危惧II類、NT:準絶滅危惧、NT1:準絶滅危惧1型  
 NT2:準絶滅危惧2型、DD:情報不足種、LP:絶滅のおそれある地域個体群、RT:地帯別危惧種

(D) 両生類

現地調査の結果、1目4科6種の両生類が確認された。このうち、重要な種は表 10.6-5 に示すとおり3種であった。

表 10.6-5 重要な種の確認状況（両生類）

No.	目と名	科と名	種と名	学名	重要な種の選定基準			
					文化財保護法	種の保存法	環境省RL2020	埼玉県RDB2018全県評価
1	無尾	アカガエル	ニホンアカガエル	Rana japonica				VU
2			トウキョウダルマガエル	Pelophylax porosus porosus			NT	NT1
3		アオガエル	シュレーゲルアオガエル	Rhacophorus schlegelii				NT2
合計	1目	2科	3種		0種	0種	1種	3種

注1. 和名、科の配列等は、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成30年度版生物リスト」(2018年11月19日)に従った。  
 注2. 保全すべき種の選定基準は以下のとおりである。  
 ・文化財保護法:「文化財保護法」(昭和二十五年五月三十日法律第二百四号)に基づき指定された天然記念物  
 ・種の保存法:「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成四年六月五日法律第七十五号)に基づき指定されている種  
 ・環境省RL2020:「環境省レッドリスト2020の公表について」(令和2年3月、環境省)  
 EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧I類、CR:絶滅危惧1A類、EN:絶滅危惧IB類、VU:絶滅危惧II類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足種  
 LP:絶滅のおそれある地域個体群  
 ・埼玉県RDB2018:「埼玉県レッドデータブック動物編2018」(2018年、埼玉県)  
 EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧I類、CR:絶滅危惧1A類、EN:絶滅危惧IB類、VU:絶滅危惧II類、NT:準絶滅危惧、NT1:準絶滅危惧1型  
 NT2:準絶滅危惧2型、DD:情報不足種、LP:絶滅のおそれある地域個体群、RT:地帯別危惧種

(E) 昆虫類

現地調査の結果、16目238科1,275種の昆虫類が確認された。このうち、重要な種は表10.6-6に示すとおり40種であった。

なお、このうちエサキアメンボ、キベリマメゲンゴロウ、コガムシの3種は、底生動物調査でも確認されている。

表 10.6-6 重要な種の確認状況（昆虫類）

No.	目と名	科と名	種と名	学名	重要な種の選定基準			
					文化財保護法	種の保存法	環境省RL2020	埼玉県RDB2018全県評価
1	カゲロウ	シロイロカゲロウ	アカツキシロカゲロウ	<i>Ephoron eophilum</i>			NT	
2	トンボ	イトトンボ	キイトンボ	<i>Ceragrion melanurum</i>				NT2
3		ヤンマ	アオヤンマ	<i>Aeschnophlebia longistigma</i>			NT	VU
4			サラサヤンマ	<i>Sarasaeschna pryri</i>				NT2
5		トンボ	ハラビロトンボ	<i>Lyriothemis pachygastra</i>				NT2
6	ハサミムシ	クギヌキハサミムシ	キバネハサミムシ	<i>Forficula mikado</i>				DD
7			クギヌキハサミムシ	<i>Forficula scudderii</i>				NT2
8	バッタ	キリギリス	ヒガシキリギリス	<i>Gampsocleis mikado</i>				NT1
9			ヒサゴクサキリ	<i>Palaeoagraecia lutea</i>				DD
10		コオロギ	クマコオロギ	<i>Mitius minor</i>				NT1
11		バッタ	クルマバッタ	<i>Gastrimargus marmoratus</i>				NT2
12			ヒナバッタ	<i>Glyptothorax maritimus maritimus</i>				NT1
13			ショウリョウバッタモドキ	<i>Gonista bicolor</i>				NT2
14		イナゴ	ハネナガイナゴ	<i>Oxya japonica</i>				NT1
15	カメムシ	サンガメ	ピロウドサンガメ	<i>Ectrychotes andreae</i>				VU
16			キイロサンガメ	<i>Sirthena flavipes</i>				VU
17		カスミカメムシ	リンゴクロカスミカメ	<i>Pseudophylus flavipes</i>			NT	
18		カメムシ	ヒメナガメ	<i>Eurydema dominulus</i>				NT2
19		アメンボ	オオアメンボ	<i>Aquarius elongatus</i>				NT2
20			エサキアメンボ	<i>Limnoporus esakii</i>			NT	NT2
21		ミズギワカメムシ	モンシロミズギワカメムシ	<i>Chartoscirta elegantula longicornis</i>				NT1
22		ミズムシ(昆)	ミゾナシミズムシ	<i>Cymatia apparens</i>			NT	VU
23		キジラミ	エノキカイガラキジラミ	<i>Celtisaspis japonica</i>			NT	
24	チョウ	ボクノウガ	ハイロボクノウ	<i>Phragmataecia castaneae</i>			NT	
25		セセリチョウ	ギンイチモンジセセリ	<i>Leptalina unicolor</i>			NT	NT2
26			コチャバネセセリ	<i>Thoressa varia</i>				NT2
27		シジミチョウ	ミドリシジミ	<i>Neozephyrus japonicus japonicus</i>				NT1
28		タテハチョウ	アサマイチモンジ	<i>Limenitis glorifica</i>				NT2
29		ドクガ	スゲドクガ	<i>Laelia coenosa sangaica</i>			NT	
30		ヤガ	コシロシタバ	<i>Catocala actaea</i>			NT	
31			イチモジヒメトウ	<i>Xylomoia fusei</i>			VU	NT2
32	ハエ	ハナアブ	ハチモドキハナアブ	<i>Monoceromyia pleuralis</i>				NT2
33	コウチュウ	オサムシ	アリスアトキリゴミムシ	<i>Lachnoderma asperum</i>			DD	NT2
34		ゲンゴロウ	キベリマメゲンゴロウ	<i>Platambus fimbriatus</i>			NT	
35		コガシラミズムシ	マダラコガシラミズムシ	<i>Haliphys sharpi</i>			VU	VU
36		コガムシ	コガムシ	<i>Hydrochara affinis</i>			DD	
37			クナシリシジミガムシ	<i>Laccobius kunashiricus</i>				NT1
38		テントウムシ	ムモンチャイロテントウ	<i>Micraspis kurosai</i>				NT2
39	ハチ	スズメバチ	モンズズメバチ	<i>Vespa crabro</i>				DD
40		ハキリバチ	クズハキリバチ	<i>Megachile pseudomonticola</i>				DD
合計	9目	30科		40種	0種	0種	17種	30種

注1. 和名、科の配列等は、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成30年度版生物リスト」(2018年11月19日)に従った。

注2. 保全すべき種の選定基準は以下のとおりである。

- ・文化財保護法:「文化財保護法」(昭和二十五年五月三十日法律第二百四十四号)に基づき指定された天然記念物
- ・種の保存法:「絶滅のおそれのある野生動物の種の保存に関する法律」(平成四年六月五日法律第七十五号)に基づき指定されている種
- ・環境省RL2020:「環境省レッドリスト2020の公表について」(令和2年3月、環境省)
  - EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧I類、CR:絶滅危惧1A類、EN:絶滅危惧B類、VU:絶滅危惧II類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足種
  - LP:絶滅のおそれある地域個体群
- ・埼玉県RDB2018:「埼玉県レッドデータブック動物編2018」(2018年、埼玉県)
  - EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧I類、CR:絶滅危惧1A類、EN:絶滅危惧B類、VU:絶滅危惧II類、NT:準絶滅危惧、NT1:準絶滅危惧1型
  - NT2:準絶滅危惧2型、DD:情報不足種、LP:絶滅のおそれある地域個体群、RT:地帯別危惧種

(F) 魚類

現地調査の結果、6目11科30種の魚類が確認された。このうち、重要な種は表 10.6-7 に示すとおり4種であった。

表 10.6-7 重要な種の確認状況（魚類）

No.	目と名	科と名	種と名	学名	重要な種の選定基準			
					文化財保護法	種の保存法	環境省RL2020	埼玉県RDB2018全県評価
1	コイ	コイ	キンブナ	<i>Carassius buergeri</i> subsp.2			VU	VU
2		ドジョウ	ドジョウ	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>			NT	
3		フクドジョウ	ホトケドジョウ	<i>Lefua echigonia</i>			EN	CR
4	ダツ	メダカ	ミナミメダカ	<i>Oryzias latipes</i>			VU	NT2
合計	2目	4科		4種	0種	0種	4種	3種

注1. 和名、科の配列等は、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成30年度版生物リスト」(2018年11月19日)に従った。

注2. 保全すべき種の選定基準は以下のとおりである。

- ・文化財保護法:「文化財保護法」(昭和二十五年五月三十日法律第二百四十四号)に基づき指定された天然記念物
- ・種の保存法:「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成四年六月五日法律第七十五号)に基づき指定されている種
- ・環境省RL2020:「環境省レッドリスト2020の公表について」(令和2年3月、環境省)
  - EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧I類、CR:絶滅危惧II類、EN:絶滅危惧I類、VU:絶滅危惧II類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足種
  - LP:絶滅のおそれある地域個体群
- ・埼玉県RDB2018:「埼玉県レッドデータブック動物編2018」(2018年、埼玉県)
  - EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧I類、CR:絶滅危惧II類、EN:絶滅危惧I類、VU:絶滅危惧II類、NT:準絶滅危惧、NT1:準絶滅危惧1型、NT2:準絶滅危惧2型、DD:情報不足種、LP:絶滅のおそれある地域個体群、RT:地帯別危惧種

(G) 底生動物

現地調査の結果、20目66科162種の底生動物が確認された。このうち、重要な種は表 10.6-8 に示すとおり11種であった。

なお、このうちエサキアメンボ、キベリマメゲンゴロウ、コガムシの3種は、昆虫類調査でも確認されている。

表 10.6-8 重要な種の確認状況（底生動物）

No.	綱名	目と名	科と名	種と名	学名	重要な種の選定基準				備考
						文化財保護法	種の保存法	環境省RL2020	埼玉県RDB2018全県評価	
1	有様状体	三岐腸	サンカクアタマズムシ	ナミズムシ	<i>Dugesia japonica</i>				LP	
2		新生腹足	タニシ	オオタニシ	<i>Cipangopaludina japonica</i>			NT	VU	
3	汎有肺	イシガイ	モノアラガイ	コシダカヒメモノアラガイ	<i>Fossaria truncatula</i>			DD		
4			モノアラガイ	モノアラガイ	<i>Radix auricularia japonica</i>			NT	NT2	
5			カワコザラガイ	カワコザラガイ	<i>Laevapex nipponica</i>			CR	VU	
6	二枚貝	イシガイ	イシガイ	ドブガイ <sup>※3</sup>	<i>Sinanodonta woodiana lauta</i>				NT2	
7		マルズダレガイ	ドブシジミ	ドブシジミ	<i>Sphaerium japonicum</i>				NT2	
8	昆虫	カメムシ	アメンボ	エサキアメンボ	<i>Limnoporus esakii</i>			NT	NT2	昆虫類調査でも確認
9			ババアメンボ	Gerris babai				NT	NT1	
10			コウチュウ	ゲンゴロウ	キベリマメゲンゴロウ	<i>Platambus fimbriatus</i>			NT	
11			ガムシ	コガムシ	<i>Hydrochara affinis</i>			DD		昆虫類調査でも確認
合計	4綱	7目	9科		11種	0種	0種	8種	8種	

注1. 和名、科の配列等は、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成30年度版生物リスト」(2018年11月19日)に従った。

注2. 保全すべき種の選定基準は以下のとおりである。

- ・文化財保護法:「文化財保護法」(昭和二十五年五月三十日法律第二百四十四号)に基づき指定された天然記念物
  - ・種の保存法:「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成四年六月五日法律第七十五号)に基づき指定されている種
  - ・環境省RL2019:「環境省レッドリスト2019の公表について」(2019年、環境省)
    - EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧I類、CR:絶滅危惧II類、EN:絶滅危惧I類、VU:絶滅危惧II類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足種、LP:絶滅のおそれある地域個体群
  - ・埼玉県RDB2018:「埼玉県レッドデータブック動物編2018」(2018年、埼玉県)
    - EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧I類、CR:絶滅危惧II類、EN:絶滅危惧I類、VU:絶滅危惧II類、NT:準絶滅危惧、NT1:準絶滅危惧1型、NT2:準絶滅危惧2型、DD:情報不足種、LP:絶滅のおそれある地域個体群、RT:地帯別危惧種
- 注3. ・近年「ドブガイ」は「タガイ」と「ヌマガイ」に細分されているが、埼玉県RDBでは「ドブガイ」が指定されているため、「ドブガイ」の指定を適用した。



(H) 陸産貝類

現地調査の結果、3目19科46種の陸産貝類が確認された。このうち、重要な種は表10.6-9に示すとおり12種であった。

表 10.6-9 重要な種の確認状況（陸産貝類）

No.	目と名	科と名	種と名	学名	重要な種の選定基準			
					文化財保護法	種の保存法	環境省RL2020	埼玉県RDB2018全県評価
1	中腹足	ヤマタニシ	ミジンヤマタニシ	Nakadaella micron				VU
2	柄眼	オカモノアラガイ	コウフオカモノアラガイ	Neosuccinea kofui			VU	
3			ナガオカモノアラガイ	Oxyloma hirasei			NT	VU
4		キササナギガイ	スナガイ	Gastrocopta armigerella			NT	
5			ナタネキササナギガイ	Vertigo eogea			VU	
6		マキノメガイ	マルナタネガイ	Parazoogenetes orcula				VU
7		キセルガイ	ナミコギセル	Euphaedusa tau				LP
8		ベッコウマイマイ	ヒメハリマキビ	Parakaliella pagoduloides			NT	EN
9			マルシダラガイ	Parasitala reinhardti				VU
10			ウメムラシタラガイ	Sitalina japonica				EN
11			オオウエキビ	Trochochlamys fraterna				DD
12			オナジマイマイ	トウキョウコオオベソマイマイ	Aegista tokyoensis			NT
合計		2目	7科		12種	0種	0種	7種

注1. 和名、科の配列等は、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成30年度版生物リスト」(2018年11月19日)に従った。

注2. 保全すべき種の選定基準は以下のとおりである。

- ・文化財保護法:「文化財保護法」(昭和二十五年五月三十日法律第二百四号)に基づき指定された天然記念物
- ・種の保存法:「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成四年六月五日法律第七十五号)に基づき指定されている種
- ・環境省RL2020:「環境省レッドリスト2020の公表について」(令和2年3月、環境省)
  - EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧I類、CR:絶滅危惧1A類、EN:絶滅危惧IB類、VU:絶滅危惧II類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足種
  - LP:絶滅のおそれある地域個体群
- ・埼玉県RDB2018:「埼玉県レッドデータブック動物編2018」(2018年、埼玉県)
  - EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧I類、CR:絶滅危惧1A類、EN:絶滅危惧IB類、VU:絶滅危惧II類、NT:準絶滅危惧、NT1:準絶滅危惧1型
  - NT2:準絶滅危惧2型、DD:情報不足種、LP:絶滅のおそれある地域個体群、RT:地帯別危惧種

## 2) 保全すべき種の状況（生息域、個体数、生息環境）

動物相の確認状況、天然記念物等の法令指定種、レッドデータブック記載種等を踏まえ、以下に示すとおり保全すべき種を選定した。

### ① 哺乳類

現地調査において哺乳類の重要な種は確認されておらず、保全すべき種を選定はなしとした。

### ② 鳥類

現地調査において確認された鳥類の重要な種（50種）について、一般生態、現地での確認状況を踏まえた保全すべき種を選定結果は表 10.6-10 に示すとおりである。

なお、現地調査で確認された重要な種のうち、保全すべき種として選定しなかった理由は、表 10.6-12 に示すとおりである。

表 10.6-10(1) 保全すべき種を選定結果等（鳥類）

種名	一般生態（主な生息環境）	現地での確認状況等	保全すべき種 の選定結果
クイナ	埼玉県では冬鳥として県内の低地帯から台地・丘陵帯にかけての水辺地に分布 <sup>1)</sup> 。河岸や池沼のヨシ原、休耕地の放棄地のある水田等の湿地環境に生息する <sup>1)</sup> 。	本種は、湿性草地、水田の環境で計 8 例が確認された。	○
ヒクイナ	埼玉県では、低地帯を中心に生息しているが著しく減少している <sup>28)</sup> 。河川や池沼の周辺、水田、湿原等に生息するが、なかなか姿が見られない鳥である <sup>28)</sup> 。本州中部以西で留鳥とされているが、埼玉県内でも越冬の記録がある <sup>28)</sup> 。	本種は、湿性草地、竹林の環境で計 2 例が確認された。	○
バン	埼玉県には県内の低地帯を中心に繁殖するが、全県的に繁殖記録が減少しており、荒川以西の低地及び台地・丘陵帯においても少数の繁殖記録がある <sup>1)</sup> 。湖沼、川、池、などの岸の湿地やヨシ原、水田などにすみ、地上や浅水中を歩いて、草の種子、昆虫、貝、甲殻類などをあさる <sup>21)</sup> 。	本種は、湿性草地、植栽樹林、水田、市街地、池沼の環境で計 11 例が確認された。	○
オオバン	埼玉県では、かつては飛来数は多くなかったが、現在では越冬する個体数が増加傾向で、普通に見られるようになった <sup>28)</sup> 。湖沼や川、水田などのアシやマコモ、ハス等の茂る水辺に生息するが、広い水面を好み、群れを作ることが多い <sup>38)</sup> 。	本種は、湿性草地、落葉広葉樹林、本川・支川、池沼の環境で計 51 例が確認された。	○
カンムリカイツブリ	埼玉県では、利根川、荒川で越冬する <sup>1)</sup> 。冬鳥として渡来し、内湾、河口、湖沼等に生息する <sup>1)</sup> 。流れの緩やかな淀みや淵、湖沼、内湾等にて潜水して魚類を捕食する <sup>1)</sup> 。	本種は、本川・支川の環境で計 12 例が確認された。	○
アオバト	埼玉県では、山地帯から亜高山帯下部の落葉広葉樹林や針広混交林に生息するが、個体数は多くない <sup>28)</sup> 。森林性の鳥で、開けた場所に出ることは少ないが、初夏から秋には塩分を取るために海岸に出て海水を飲む <sup>39)</sup> 。	本種は、落葉広葉樹林、竹林の環境で計 2 例が確認された。	○

※一般生態の出典一覧は表 10.6-11 に示すとおりである。

表 10.6-10(2) 保全すべき種の選定結果等（鳥類）

種名	一般生態（主な生息環境）	現地での確認状況等	保全すべき種の選定結果
ヨシゴイ	埼玉県内の低地から台地・丘陵帯のヨシやガマが茂る水辺で普通に繁殖する夏鳥であったが、そうした環境の埋め立てや護岸化により、現在の繁殖地は非常に局所的 <sup>1)</sup> 。夏鳥として渡来し、全国の水生植物帯の豊かな河川・湿地・池沼等の水辺で繁殖する <sup>1)</sup> 。 池や沼、川岸、休耕田などで、アシ、マコモ、ガマ類など背の高い単子葉植物が茂った湿地に生息する。水の中から草が生えている所に好んで営巣するが、池の中の島などに、数つがいが集まって営巣することもある。巣は周囲のアシやマコモの茎や葉を折り曲げて束ねたもので皿型をしている。 <sup>42)</sup> 単独または集団で繁殖するが、営巣場所はヨシよりヒメガマなどを好み、巣の下に水がある場所を好む。 <sup>43)</sup>	本種は、湿性草地、水田の環境で計16例が確認された。	○
ササゴイ	埼玉県では、主に河川において観察されるが、繁殖地は限定される <sup>28)</sup> 。川や水田、湖沼に生息し、まれに海岸にも現れる <sup>38)</sup> 。	本種は、本川・支川の環境で計2例が確認された。	×
アマサギ	埼玉県では、主に低地帯の水田で観察されていたが、確認数は減少している <sup>28)</sup> 。農耕地や川原、湖沼などで繁殖する <sup>38)</sup> 。	本種は、水田の環境で計4例が確認された。	○
チュウサギ	本種は、埼玉県内の低地帯を中心として渡りの時期には広く見られるが、個体数は少ない <sup>1)</sup> 。夏鳥として、本州、四国、九州等に渡来する <sup>1)</sup> 。河川、池沼等の水域や水田を採食地として利用する <sup>1)</sup> 。	本種は、湿性草地、畑、水田、ゴルフ場、市街地、その他の環境で計128例が確認された。	○
コサギ	埼玉県では、各地の水田、河川、湖沼、湿地で見られるが、最近著しく減少している <sup>28)</sup> 。平地から盆地の川や湖沼、水田にも住み、干潟や海岸にも現れる <sup>38)</sup> 。	本種は、水田、公園・グラウンド、本川・支川の環境で計16例が確認された。	○
ホトトギス	埼玉県には、夏鳥として渡来し、低地帯から亜高山帯の森林に生息する <sup>28)</sup> 。平地から山地の高原、草地、林などに生息し、1羽で生活するものが多い <sup>39)</sup> 。	本種は、落葉広葉樹林、ゴルフ場、公園・グラウンドの環境で計10例が確認された。	○
ツツドリ	埼玉県には、夏鳥として渡来し、低山帯から亜高山帯の森林に生息する <sup>28)</sup> 。山地の林などに生息する <sup>39)</sup> 。1羽で生活し、開けた場所に出ることは少なく、林内での行動が多い <sup>39)</sup> 。	本種は、公園・グラウンドの環境で計2例が確認された。	×
カッコウ	埼玉県には、夏鳥として低山帯から台地・丘陵帯、低地帯に渡来するが、低山帯での生息数は多くない <sup>28)</sup> 。平地から山地の林や草原などに生息する <sup>39)</sup> 。	確認位置情報なし <sup>注1)</sup>	○
ヒメアマツバメ	本種は、市街地に分布し、建造物に造った巣で繁殖し、ねぐらとしている。コシアカツバメやイワツバメの巣を利用することが多い。日中はねぐらの周りや近くの山の頂上や川の上など広範囲に飛びまわって、飛んでいる虫をとる。 <sup>18)</sup>	本種は、乾性草地、湿性草地、本川・支川の環境で計9例が確認された。	○
タゲリ	本種は、冬鳥として渡来し、本州中部以西の広い水田や河岸、池湖畔等で越冬する <sup>1)</sup> 。広い水田を好み越冬するが、大群の渡来地はいずれも水位の高い湿田であった <sup>1)</sup> 。	本種は、水田、公園・グラウンドの環境で計36例が確認された。	○

※一般生態の典拠一覧は表 10.6-11 に示すとおりである。

注 1) 本種は「埼玉県レッドデータブック 2018」で新たに重要な種として追加された種である。本種はレッドデータブックの改訂以前の調査で確認され、調査範囲内での確認記録はあるが確認位置に関する記録はない。



表 10.6-10(3) 保全すべき種の選定結果等（鳥類）

種名	一般生態（主な生息環境）	現地での確認状況等	保全すべき種の選定結果
ケリ	本種は、埼玉県内では主に低地帯の湿地で少数の越冬が知られている <sup>1)</sup> 。吉見町、さいたま市で繁殖記録が、北川辺町、越谷市等で繁殖期の記録がある <sup>1)</sup> 。水田、河原、牧草地等平坦で開けた場所にすむ <sup>27)</sup> 。	本種は、水田の環境で計 2 例が確認された。	○
タシギ	埼玉県には、冬鳥として渡来し、水田、河川、湖沼などの湿地に生息する <sup>28)</sup> 。水田、湿地、川原、池や沼の湿泥地、干潟などに生息する <sup>39)</sup> 。	本種は、湿性草地、落葉広葉樹林、水田、公園・グラウンド、市街地の環境で計 65 例が確認された。	○
タカブシギ	本種は、日本には冬鳥または旅鳥として渡来し、北海道、本州、四国、九州、琉球列島に分布 <sup>21)</sup> 。内陸の湖沼畔、川の岸や中州、水田やはす田などに渡来し、本州中部以北では冬も残る場合がある <sup>21)</sup> 。日本では繁殖しない <sup>21)</sup> 。	本種は、水田の環境で計 2 例が確認された。	×
セイタカシギ	本種は、日本全国に記録があり、千葉県、東京都、愛知県、大阪府では繁殖記録がある <sup>22)</sup> 。主に海岸に近い水田、浅い池沼などに生息し、周辺の砂泥地で繁殖する <sup>22)</sup> 。非繁殖期には湿地、河口部や入り江の干潟、河川の氾濫原、水を張った水田、湖沼の砂泥地等に現れる <sup>27)</sup> 。	本種は、水田の環境で計 6 例が確認された。	×
コアジサシ	本種は夏鳥として渡来し、本州以南で繁殖する <sup>1)</sup> 。埼玉県内の安定的な繁殖地は、荒川・利根川の中流域 <sup>1)</sup> 。繁殖期は5～7月、巣は捕食者が近づきにくい、小島や中州等の砂地に浅い窪みを掘って作る <sup>27)</sup> 。	本種は、乾性草地の環境で計 2 例が確認された。	×
ミサゴ	本種は北海道から沖縄で繁殖する留鳥だが、冬に海が氷結する地域からは暖地に移動する <sup>23)</sup> 。海岸、大きな川、湖などで採食し、人気のない海岸の岩の上や岩棚、水辺に近い大きな木の上に巣を作る <sup>23)</sup> 。魚を捕獲して常食とする <sup>23)</sup> 。	本種は、乾性草地の環境で計 1 例が確認された。	×
トビ	本種は、日本では九州以北に留鳥としてふつうに生息する <sup>1)</sup> 。埼玉県内では、低地帯から低山帯に留鳥として生息する <sup>28)</sup> 。留鳥として各地の海岸、市街地、農耕地、川や湖沼の近くに多いが、山地の湖沼にもいる <sup>21)</sup> 。	本種は、乾性草地、湿性草地、畑、水田、ゴルフ場、本川・支川の環境で計 33 例が確認された。	○
ハイタカ	本種は埼玉県においては、夏は県内の山地帯から低山帯にかけて生息し、冬は台地・丘陵帯から低地帯でも少数が越冬する <sup>1)</sup> 。本州中部以北の低山帯で繁殖し、高木の枝上に営巣し、巣は毎年つくることが多い <sup>21)</sup> 。	本種は、竹林、水田、市街地の環境で計 64 例が確認された。	○
オオタカ	本種は、埼玉県内では、低地帯から山地帯の森林で繁殖し、冬は低山帯以下に漂行し生息する <sup>1)</sup> 。繁殖期は森林地域が主な生息地となるが、冬は水鳥類の豊富な水辺等にも渡来し、低地での出現が増す <sup>1)</sup> 。アカマツやモミの大木に営巣し、周辺の草地や林縁で小鳥類等を捕食、最近では、マツ枯れに伴い、スギや広葉樹に営巣する例が増えている <sup>1)</sup> 。	本種は、乾性草地、湿性草地、落葉広葉樹林、竹林、畑、水田、市街地、本川・支川、その他の環境で計 328 例が確認された。	○

※一般生態の出典一覧は表 10.6-11 に示すとおりである。

表 10.6-10(4) 保全すべき種の選定結果等（鳥類）

種名	一般生態（主な生息環境）	現地での確認状況等	保全すべき種の選定結果
サシバ	本種は、埼玉県内では低地帯～低山平野の森林周辺で繁殖し、春・秋の通過時は市街地の上空等でも観察される <sup>1)</sup> 。日本には夏鳥として渡来し、本州中部以西の低山帯に棲む <sup>21)</sup> 。斜面のアカマツ林で営巣し、採食場所となる湿地や草地環境を必要とする <sup>1)</sup> 。	本種は、湿性草地、水田の環境で計 11 例が確認された。	○
ノスリ	本種は、埼玉県では県内では低山帯～山地帯で繁殖し、冬期は山地帯から低地帯にかけて分散し越冬する <sup>1)</sup> 。日本では四国以北で繁殖し、低山帯の森林に生息し、付近の草原や耕地など開けた場所で採餌する <sup>21)</sup> 。	本種は、乾性草地、湿性草地、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、竹林、畑、水田、公園・グラウンドの環境で計 164 例が確認された。	○
フクロウ	本種は、九州以北の平地・山地の森林で繁殖する留鳥 <sup>1)</sup> 。埼玉県内では低地帯から亜高山帯で繁殖し、冬も同所で越冬するが、低地帯へ漂行するものもいる <sup>1)</sup> 。 平地から山地の林に留鳥として棲息し繁殖する。社寺の森、林の大木の樹洞に 1～5 卵を生んで営巣するほか、地上や廃屋、カラスやタカの子巣でも営巣する。ネズミを主食とし、小鳥やイタチなども食べるほか、時には昆虫や小動物も食べる <sup>42)</sup> 。	本種は、乾性草地、落葉広葉樹林、ゴルフ場の環境で計 15 例が確認された。	○
カワセミ	本種は、埼玉県内の低地帯から低山帯にかけての河川・池沼に周年生息する <sup>1)</sup> 。低地帯から低山帯にかけての河川・池沼に周年生息する <sup>1)</sup> 。	本種は、乾性草地、湿性草地、落葉広葉樹林、植栽樹林、水田、ゴルフ場、公園・グラウンド、市街地、本川・支川、池沼、その他の環境で計 109 例が確認された。	○
アオゲラ	本種は、本州、四国、九州、屋久島の平地や森林に留鳥として生息する <sup>1)</sup> 。埼玉県内では、山地帯～台地・丘陵帯で繁殖し、低地帯でも少数が繁殖する <sup>1)</sup> 。	本種は、落葉広葉樹林、植栽樹林の環境で計 4 例が確認された。	○
チョウゲンボウ	本種は、埼玉県内ではかつて秩父山地の岩棚でごく少数が繁殖していたが、近年、平野部の橋桁や建物等で局所的に繁殖する例が報告されている <sup>1)</sup> 。近くに林のある農耕地、原野、河原、海岸、沼沢地など開けた場所で餌をあさり、頻りに停空飛翔をしながら、急降下して昆虫やネズミをとることが多い <sup>21)</sup> 。	本種は、乾性草地、湿性草地、落葉広葉樹林、植栽樹林、畑、水田、ゴルフ場、公園・グラウンド、市街地、その他の環境で計 112 例が確認された。	○
ハヤブサ	本種は、埼玉県内の河川を中心とした低地帯で記録されるが、短期間の通過のみで越冬例は少ない。本庄市利根川、さいたま市（旧浦和市）荒川等で越冬記録がある <sup>1)</sup> 。	本種は、植栽樹林、水田、ゴルフ場の環境で計 46 例が確認された。	○
サンショウクイ	本種は、標高の低い山地や山麓の大きな落葉樹のある林に生息する <sup>28)</sup> 。巣は大木の地上から数m以上の横枝につくる <sup>28)</sup> 。樹上で昆虫などを捕り、高い枯れ枝や梢に直立した姿勢で留まる <sup>28)</sup> 。埼玉県内では、2000 年代に入って夏季の記録はほとんどない <sup>28)</sup> 。	本種は、その他の環境で計 1 例が確認された。	○
サンコウチヨウ	本種は、平地から低山の針葉樹が混ざる暗い林で、近くに川があると好んで営巣する <sup>28)</sup> 。埼玉県内では入間市、飯能市等で繁殖期の記録があるが多くない <sup>28)</sup> 。	本種は、畑の環境で計 1 例が確認された。	○

※一般生態の出典一覧は表 10.6-11 に示すとおりである。

表 10.6-10(5) 保全すべき種の選定結果等（鳥類）

種名	一般生態（主な生息環境）	現地での確認状況等	保全すべき種の選定結果
コシアカツバメ	埼玉県では、1980年代に熊谷市や川口市での繁殖記録があるが、現在は確認記録がほとんどなく、詳細は不明である <sup>28)</sup> 。海岸から市街地の開けたところや農耕地、丘陵地などに生息する <sup>39)</sup> 。	本種は、水田の環境で計2例が確認された。	×
ウグイス	本種は、全国の低地から山地の林の下藪で繁殖し、山地や寒冷地で繁殖するものは暖地へ移動して越冬する <sup>1)</sup> 。埼玉県内では台地・丘陵帯以上の森林や下藪で普通に繁殖しており、冬には低地帯のヨシ原や住宅地の庭等にもやってくる <sup>1)</sup> 。	本種は、乾性草地、湿性草地、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、竹林、植栽樹林、果樹園、畑、水田、ゴルフ場、公園・グラウンド、市街地、池沼、その他の環境で計257例が確認された。	○
エゾムシクイ	埼玉県には、秩父山地の山地帯から亜高山帯の山地に夏鳥として渡来し、樹林地に生息し、繁殖する <sup>28)</sup> 。亜高山針葉樹林帯の下部から落葉広葉樹林帯の上部で生活し、崖が多い急峻な山麓でよく見られる <sup>38)</sup> 。	本種は、落葉広葉樹林、植栽樹林、畑、市街地の環境で計8例が確認された。	×
センダイムシクイ	埼玉県には、低山帯から山地帯の山地に夏鳥として渡来し、落葉広葉樹林に生息繁殖する <sup>28)</sup> 。主に山麓や丘陵地帯の落葉広葉樹林で生活し急斜面の谷間や沢沿いにいることが多い <sup>38)</sup> 。	本種は、湿性草地、落葉広葉樹林、植栽樹林、ゴルフ場、公園・グラウンド、市街地の環境で計14例が確認された。	×
オオヨシキリ	埼玉県では、低地帯のヨシ原を中心に繁殖している <sup>28)</sup> 。川や湖沼の岸、休耕田などのアシ原が主な生息地で、特に水中からアシが生えている場所を好む <sup>38)</sup> 。	本種は、乾性草地、湿性草地、落葉広葉樹林、竹林、植栽樹林、畑、水田、ゴルフ場、公園・グラウンド、市街地、本川・支川、池沼、その他の環境で計337例が確認された。	○
コムクドリ	本種は、夏鳥として渡来し、本州中部以北の山地の明るい林、北海道の平地林で繁殖する <sup>1)</sup> 。埼玉県内での繁殖は極めて局地的 <sup>1)</sup> 。低山帯の皆野町と秩父市の数か所で繁殖が確認されている <sup>1)</sup> 。	本種は、湿性草地、落葉広葉樹林の環境で計4例が確認された。	×
トラツグミ	埼玉県では、丘陵帯から亜高山帯までの森林で繁殖するが、現在では丘陵部での繁殖記録が途絶えている <sup>28)</sup> 。丘陵や低山の広葉樹林に住む。積雪の多い地方で繁殖するものは暖地に移動して越冬する <sup>38)</sup> 。	本種は、落葉広葉樹林、竹林の環境で計8例が確認された。	○
アカハラ	埼玉県では、山地帯から亜高山帯の森林に生息し、繁殖する <sup>28)</sup> 。平地から山地の比較的明るい林や針葉樹の中高木植林地に生息する <sup>39)</sup> 。	本種は、落葉広葉樹林の環境で計4例が確認された。	○
ルリビタキ	本種は、夏は主に亜高山帯の針葉樹林で繁殖し、冬は低山～低地の森林に漂行し越冬する <sup>1)</sup> 。埼玉県では奥秩父の亜高山帯では普通に繁殖しており、冬期は山麓部で越冬するものが多く、低山帯での越冬例は少ない。低地帯での越冬地は、北本自然観察公園、伊奈町小室無線山、川越市今福、ふじみ野市（旧大井町亀久保）等いずれも成熟度の高い森林が広域に残っているところである <sup>1)</sup> 。	本種は、湿性草地、落葉広葉樹林、竹林の環境で計10例が確認された。	○

※一般生態の出典一覧は表 10.6-11 に示すとおりである。

表 10.6-10(6) 保全すべき種の選定結果等（鳥類）

種名	一般生態（主な生息環境）	現地での確認状況等	保全すべき種の選定結果
コサメビタキ	埼玉県では、かつては草加市、熊谷市、北本市、東松山などの低地帯の林でも繁殖していたが、現在は低地帯での繁殖は見られない <sup>28)</sup> 。針葉樹林から広葉樹林まで、様々な林内に住むが、飛び回りやすい空間のある雑木林やカラマツ林などを好む <sup>38)</sup> 。	本種は、湿性草地、落葉広葉樹林、植栽樹林の環境で計 6 例が確認された。	×
キビタキ	埼玉県での、主な繁殖地は低山から山地帯である <sup>28)</sup> 。平地から山地の林に生息する <sup>39)</sup> 。繁殖期には、主に樹冠下に空間が広がる高木の多い林に生息する <sup>39)</sup> 。	本種は、湿性草地、落葉広葉樹林、竹林、ゴルフ場の環境で計 13 例が確認された。	○
ベニマシコ	本種は、北海道と青森県で繁殖し、本州以南の山地で越冬する <sup>1)</sup> 。埼玉県内では秩父地方の低山帯では、普通に越冬しているが、低地帯～台地・丘陵帯での越冬例は少なく、また年により不定期である <sup>1)</sup> 。	本種は、乾性草地、湿性草地、落葉広葉樹林、水田、ゴルフ場の環境で計 22 例が確認された。	○
ホオジロ	本種は、全国の低地や山地に主に留鳥として生息し、冬は暖地や低地へ漂行する <sup>1)</sup> 。埼玉県内では低地帯から山地帯まで広く分布するが、近年特に県南部の荒川沿いや見沼田園等の低地帯での繁殖事例が顕著に少なくなっている <sup>1)</sup> 。	本種は、乾性草地、湿性草地、落葉広葉樹林、竹林、植栽樹林、果樹園、畑、水田、ゴルフ場、公園・グラウンド、市街地、本川・支川、池沼、その他の環境で計 666 例が確認された。	○
ホオアカ	埼玉県には、冬鳥または留鳥として、低地帯、台地・丘陵帯の草地や休耕田、ヨシ原などに生息し、繁殖するものもある <sup>28)</sup> 。平地から山地の草原、川原、農耕地などに生息する <sup>39)</sup> 。	本種は、畑、水田、その他の環境で計 6 例が確認された。	×
アオジ	埼玉県には、冬鳥として渡来し、県内各地の林や藪、ヨシ原、公園、人家の庭などに普通に生息する <sup>28)</sup> 。平地から山地の疎林や低木の植林地、林や草原に生息する <sup>39)</sup> 。	本種は、乾性草地、湿性草地、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、竹林、植栽樹林、果樹園、畑、水田、ゴルフ場、公園・グラウンド、市街地、本川・支川、その他の環境で計 260 例が確認された。	○
クロジ	埼玉県では、山地帯から亜高山帯の林床がスズタケに覆われた森林に生息する <sup>28)</sup> 。冬季は平地の雑木林などに生息する <sup>28)</sup> 。繁殖期以外は小群で生活するものが多い。常に暗いところを選んで生活する <sup>39)</sup> 。	本種は、落葉広葉樹林の環境で計 2 例が確認された。	○

※一般生態の出典一覧は表 10.6-11 に示すとおりである。



表 10.6-11(1) 重要な種の一般生態情報の出典一覧

1)	埼玉県レッドデータブック 2008 動物編 (埼玉県環境部 2008)
2)	京都府レッドデータブック 上巻 野生生物編(京都府企画環境部環境企画課 2002年4月)
3)	レッドデータブックとちぎ (栃木県自然環境課 2005年3月)
4)	いしかわレッドデータブック動物編2009 (石川県環境部自然環境課 2009年3月)
5)	日本の哺乳類 改訂2版 (阿部永、石井信夫、金子之史、前田四雄、三浦慎悟、米田政明著 財団法人自然環境研究センター 編 2008年7月 東海大学出版会)
6)	原色爬虫類・両生類検索図鑑 (高田榮一、大谷勉 著 2011年 株式会社 北隆館)
7)	日本の淡水魚 (川那部浩哉、水野信彦 監修 1989年11月 株式会社 山と溪谷社)
8)	千葉県の保護上重要な野生生物-千葉県レッドデータブック-動物編 2011年改訂版 (千葉県 2011年4月)
9)	茨城県自然博物館総合調査報告書-2012年 茨城県の昆虫類およびその他の無脊椎動物の動向- (茨城県自然博物館 2013年3月)
10)	バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑 (日本直翅類学会編 北海道大学出版会 2006年9月)
11)	いわてレッドデータブック Web版 2014年版 (岩手県 2014年3月)
12)	レッドデータブックおおいた2011 大分県の絶滅のおそれのある野生生物 (大分県生活環境企画課 2011年3月)
13)	神奈川県レッドデータブック2006 WEB版 (神奈川県 2006年)
14)	都市のスズメバチHP (山内博美 名古屋市生活衛生センター 2008年1月： <a href="http://www2u.biglobe.ne.jp/~vespa/menu.htm">http://www2u.biglobe.ne.jp/~vespa/menu.htm</a> )
15)	岡山県版レッドデータブック2009 絶滅のおそれのある野生生物 (岡山県 2009年)
16)	福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック2014 (福岡県 2014年8月)
17)	レッドデータブックまつやま2012 (松山市 2012年)
18)	ケブカハチモドキハナアブとヒサマツハチモドキハナアブ(双翅目, ハナアブ科)の成虫の行動 (市川俊英、大原賢二 香川大学農学部学術報告 61(114) 2009年2月)
19)	岐阜県レッドデータブック2010 -岐阜県レッドデータブック(動物編)改訂版- (岐阜県環境生活部自然環境保全課 2010年8月)
20)	川の生物図典(奥田重俊、柴田敏隆、島谷幸広、水野信彦、矢島稔、山岸哲 監 財団法人リバーフロント整備センター 編 1996年4月 株式会社 山海堂)
21)	日本産鳥類図鑑(高野伸二 著 1981年11月 東海大学出版会)
22)	レッドデータブック2014 -日本の絶滅のおそれのある野生生物- 5 昆虫類 (環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 2015年2月)
23)	原色日本野鳥生態図鑑〈陸鳥編〉 (中村登流、中村雅彦 著 1995年 株式会社 保育社)
24)	日本原色カメムシ図鑑 第2巻 (安永智秀、高井幹夫、中谷至伸著 2001年 全国農村教育協会)
25)	日本産淡水貝類図鑑①琵琶湖・淀川産の淡水化衣類 (紀平肇、松田征也、内山りゅう 著 2003年 株式会社ピーシーズ)
26)	レッドデータブック東京2013~東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版~ (東京都環境局自然環境部 2013年3月)
27)	原色日本野鳥生態図鑑〈水鳥編〉 (中村登流、中村雅彦 著 1995年 株式会社 保育社)
28)	埼玉県レッドデータブック2018 動物編(第4版) (埼玉県環境部みどり自然課 2018年3月)
29)	山溪ハンディ図鑑10 日本のカメ・トカゲ・ヘビ (松橋利光、富田京一 著 2007年 株式会社 山と溪谷社)
30)	山溪ハンディ図鑑15 日本の淡水魚 (細谷和海 編・監修 2015年 株式会社 山と溪谷社)
31)	原色日本トンボ幼虫・成虫大図鑑 (杉村光俊 石田昇三 小島圭三 石田勝義 青木典司 著 1999年 北海道大学図書刊行会)
32)	日本産蝶類標準図鑑 (白水隆 著 2006年 株式会社学習研究社)
33)	改訂しまねレッドデータブック 島根県の絶滅のおそれのある野生動植物 2014 動物編 (島根県環境生活部自然環境課 2014年3月)
34)	秋田県の絶滅のおそれのある野生生物2002 -秋田県版レッドデータブック-動物編 (秋田県生活環境文化部自然保護課 2002年3月)

表 10.6-11(2) 重要な種の一般生態情報の出典一覧

35)	群馬県の絶滅のおそれにある野生生物（群馬県レッドデータブック）動物編 2012年改訂版（群馬県環境森林部自然環境課 2012年12月）
36)	改訂版 福井県の絶滅のおそれにある野生動植物（福井県 2016年）
37)	日本産淡水貝類図鑑②汽水域を含む全国の淡水貝類（増田修 内山りゅう 著 2004年 株式会社ピーシーズ）
38)	色と大きさで分かる野鳥観察図鑑（杉坂学 監修 2009年 成美堂出版）
39)	山溪ハンディ図鑑7 日本の野鳥（叶内拓哉 安部直哉 上田秀雄 著 2006年 株式会社山と溪谷社）
40)	レッドデータブック 2014 -日本の絶滅のおそれのある野生生物- 6 貝類（環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室 2014年9月）
41)	改訂レッドリスト 付属説明資料 貝類（環境省自然環境局野生生物課 2010年3月）
42)	山溪カラー名鑑 日本の野鳥（高野伸二 著、1985年 山と溪谷社）
43)	ヨシゴイ <i>Ixobrychus sinensis</i> の集団繁殖（内田 博・松田 喬、1990年 日本鳥学会誌 39巻 2号 p. 53-62）
44)	荒川の自然図鑑 荒川の動物（国土交通省関東地方整備局荒川上流事務所、2004年）
45)	日本産トンボ大図鑑（浜田康・井上清、1985年 講談社）

表 10.6-12(1) 保全すべき種として選定しなかった理由（鳥類）

保全すべき種として選定しなかった重要な種	保全すべき種として選定しなかった理由
ササゴイ	現地調査結果において本種の確認例数は少なく、本種の集団繁殖地（繁殖コロニー）は存在しないことから、渡りの途中に偶発的に確認された個体と推測された。本種が調査地域を主たる生息環境として利用する可能性は低いと考えられることから、予測の対象としなかった。
ツツドリ	現地調査結果において本種の確認例数は少なく、一般生態を踏まえると、本種の繁殖に適した低山帯から亜高山帯の樹林環境は存在しないことから、秋の渡りの途中に偶発的に確認された個体と推測された。本種が調査地域を主たる生息環境として利用する可能性は低いと考えられることから、予測の対象としなかった。
タカブシギ	現地調査結果において本種の確認例数は少なく、一般生態を踏まえると、本種は日本国内では繁殖しておらず、秋の渡りの途中に偶発的に確認された個体と推測された。本種が調査地域を主たる生息環境として利用する可能性は低いと考えられることから、予測の対象としなかった。
セイタカシギ	現地調査結果において本種の確認例数は少なく、一般生態を踏まえると、本種の繁殖に適した海岸に近い水田や浅い池沼、砂泥地の環境は存在しないことから、春の渡りの途中に偶発的に確認された個体と推測された。本種が調査地域を主たる生息環境として利用する可能性は低いと考えられることから、予測の対象としなかった。
コアジサシ	現地調査結果において本種の確認例数は少なく、一般生態を踏まえると、本種の繁殖に適した一定規模の中州は存在しないことから、春の渡りの途中に偶発的に確認された個体と推測された。本種が調査地域を主たる生息環境として利用する可能性は低いと考えられることから、予測の対象としなかった。
ミサゴ	現地調査結果において本種の確認例数は少なく、一般生態を踏まえると、埼玉県内での本種の繁殖記録はなく、また現地調査でも繁殖は確認されなかったことから、他の地域に生息する個体が偶発的に確認されたものと推測された。本種が調査地域を主たる生息環境として利用する可能性は低いと考えられることから、予測の対象としなかった。

表 10.6-12(2) 保全すべき種として選定しなかった理由（鳥類）

保全すべき種として選定しなかった重要な種	保全すべき種として選定しなかった理由
コシアカツバメ	<p>現地調査結果において本種の確認例数は少なく、一般生態を踏まえると、現在は埼玉県内では繁殖記録がほとんどなく、また本種が好んで営巣するコンクリート構造物等でも繁殖は確認されていないことから、秋の渡りの途中に偶発的に確認された個体と推測された。本種が調査地域を主たる生息環境として利用する可能性は低いと考えられることから、予測の対象としなかった。</p>
エゾムシクイ	<p>現地調査結果において本種の確認例数は少なく、一般生態を踏まえると、本種の繁殖に適した山地帯から亜高山帯の樹林環境は存在しないことから、春の渡りの途中に偶発的に確認された個体と推測された。本種が調査地域を主たる生息環境として利用する可能性は低いと考えられることから、予測の対象としなかった。</p>
センダイムシクイ	<p>現地調査結果において本種の確認例数は少なく、一般生態を踏まえると、本種の繁殖に適した低山帯から山地帯の落葉広葉樹林の環境は存在しないことから、秋の渡りの途中に偶発的に確認された個体と推測された。本種が調査地域を主たる生息環境として利用する可能性は低いと考えられることから、予測の対象としなかった。</p>
コムクドリ	<p>現地調査結果において本種の確認例数は少なく、一般生態を踏まえると、本種の繁殖に適した低山帯の樹林環境は存在しないことから、春の渡りの途中に偶発的に確認された個体と推測された。本種が調査地域を主たる生息環境として利用する可能性は低いと考えられることから、予測の対象としなかった。</p>
コサメビタキ	<p>現地調査結果において本種の確認例数は少なく、一般生態を踏まえると、現在は埼玉県の低地帯では繁殖は見られないことから、秋の渡りの途中に偶発的に確認された個体と推測された。本種が調査地域を主たる生息環境として利用する可能性は低いと考えられることから、予測の対象としなかった。</p>
ホオアカ	<p>現地調査結果において本種の確認例数は少なく、一般生態を踏まえると、埼玉県内の低地帯での繁殖地は局限されており、また確認が冬季であることから、越冬中に偶発的に確認された個体と推測された。本種が調査地域を主たる生息環境として利用する可能性は低いと考えられることから、予測の対象としなかった。</p>

### ③ 爬虫類

現地調査において確認された爬虫類の重要な種（11種）について、一般生態、現地での確認状況を踏まえた保全すべき種の選定結果は表 10.6-13 に示すとおりである。

表 10.6-13(1) 保全すべき種の選定結果等（爬虫類）

種名	一般生態（主な生息環境）	現地での確認状況等	保全すべき種の選定結果
ニホンイシガメ	本種は、埼玉県では、低地帯から台地・丘陵帯の河川や池沼に生息する <sup>1)</sup> 。地帯から台地・丘陵帯の河川や池沼に生息する <sup>1)</sup> 。	本種は、落葉広葉樹林の環境で計 2 例が確認された。	○
ニホンスッポン	埼玉県では、台地・丘陵帯から低地帯の河川中・下流部、流れの緩やかな水路、池沼に生息する <sup>28)</sup> 。砂泥質の河床を好み潜航して活動するため、人目に付きにくい <sup>28)</sup> 。	本種は、水田の環境で計 2 例が確認された。	○
ヒガシニホントカゲ	本種は、埼玉県では、低地帯から山地帯（標高 1,300m 以上）にかけて広く分布している <sup>1)</sup> 。低地帯から山地に広く生息し、昼行性で日当たりがよく、身を隠す場所が多い環境を好む <sup>6)</sup> 。	本種は、公園・グラウンド、市街地の環境で計 6 例が確認された。	○
ニホンカナヘビ	埼玉県では台地・丘陵帯を中心に、低山帯から低地帯まで広く分布している <sup>28)</sup> 。昼行性で、主に草むらや藪、人家の庭先などに生息する。特に巣穴はもたない <sup>29)</sup> 。	本種は、乾性草地、湿性草地、落葉広葉樹林、植栽樹林、畑、水田、裸地、ゴルフ場、公園・グラウンド、市街地、本川・支川、池沼、その他の環境で計 54 例が確認された。	○
シマヘビ	埼玉県では、低山帯から低地帯にかけて分布している <sup>28)</sup> 。田んぼや小川に多く、石の上や道ばたなどでよく日光浴をする <sup>29)</sup> 。地上生だが木にも登る <sup>29)</sup> 。	本種は、乾性草地、畑、水田、ゴルフ場、その他の環境で計 30 例が確認された。	○
アオダイショウ	本種は、埼玉県では、低地帯から山地帯まで広く分布する <sup>1)</sup> 。低地帯から山地に広く生息し、森林内だけではなく田畑、草地、水辺、人家とその周辺など様々な環境に適応する <sup>6)</sup> 。	本種は、乾性草地、水田、公園・グラウンド、その他の環境で計 10 例が確認された。	○
ジムグリ	本種は、埼玉県では、低地帯から山地帯まで広く分布する <sup>1)</sup> 。動きは鈍く、日陰で湿地を好む。暗い林の中の朽木や落葉の下に潜んでいることが多い <sup>1)</sup> 。	本種は、乾性草地、落葉広葉樹林の環境で計 4 例が確認された。	○
シロマダラ	埼玉県では、低地帯から山地帯まで広く分布する <sup>28)</sup> 。分布の中心は台地・丘陵帯から低山帯にかけて <sup>28)</sup> 。人家の周辺から林地まで広く生息している <sup>28)</sup> 。夜行性で日中は石の間などに隠れていることが多い <sup>29)</sup> 。	本種は、落葉広葉樹林、水田の環境で計 4 例が確認された。	○
ヒバカリ	本種は、埼玉県では、行田市、鴻巣市（旧川里町）、北本市、草加市、さいたま市（旧浦和市、大宮市）で確認記録がある <sup>1)</sup> 。低地帯から低山帯までの森林あるいは、それに続く田園地帯に広く分布する。水辺や多湿な環境を好む <sup>1)</sup> 。	本種は、湿性草地、落葉広葉樹林、竹林、植栽樹林、畑、水田、その他の環境で計 36 例が確認された。	○
ヤマカガシ	本種は、埼玉県では、低地帯から低山帯に広く分布する <sup>1)</sup> 。林床や水田、河川や池沼などの湿地帯を好む <sup>1)</sup> 。	本種は、湿性草地の環境で計 2 例が確認された。	○

※一般生態の出典一覧は前掲表 10.6-11 に示すとおりである。



表 10.6-13(2) 保全すべき種の選定結果等（爬虫類）

種名	一般生態（主な生息環境）	現地での確認状況等	保全すべき種の選定結果
ニホンマムシ	本種は、埼玉県では、近年の確実な生息記録は、さいたま市（旧浦和市秋ヶ瀬）、北本市石戸宿、低山帯では小鹿野町日尾である <sup>1)</sup> 。低地から山地の林床や林縁部、河川、池、沼など、水辺や湿潤な場所に多く生息し、活動期は4～11月である <sup>6)</sup> 。	本種は、落葉広葉樹林、竹林、水田、ゴルフ場の環境で計8例が確認された。	○

④ 両生類

現地調査において確認された両生類の重要な種（3種）について、一般生態、現地での確認状況を踏まえた保全すべき種の選定結果は表 10.6-14 に示すとおりである。

表 10.6-14 保全すべき種の選定結果等（両生類）

種名	一般生態（主な生息環境）	現地での確認状況等	保全すべき種の選定結果
ニホンアカガエル	本種は、埼玉県内の低地帯から台地－丘陵帯にかけて幅広く分布する。中川・加須低地、大宮台地の一部、荒川水系の支流、本川中流域に残る旧流路沿い、狭山丘陵、加治丘陵、比企丘陵の一部など <sup>1)</sup> 。低地から丘陵地帯の水田や湿地周辺の草地に生息し、餌は小型の徘徊性クモ類や飛翔昆虫の小さな幼虫を好む <sup>6)</sup> 。 近くに林のある田んぼや湿地で生活する。林などで冬眠し、2～3月に水たまりに産卵する <sup>44)</sup> 。	本種は、湿性草地、水田の環境で計4例が確認された。	○
トウキョウダルマガエル	本種は、埼玉県では、低地帯から低山帯にかけて水田地帯を中心に分布 <sup>1)</sup> 。生息地の大部分は水田とその周辺であるが、河川や沼、湿地、草地などでも成体が確認されている <sup>3)</sup> 。	本種は、乾性草地、湿性草地、落葉広葉樹林、竹林、畑、水田、ゴルフ場、公園・グラウンド、市街地、その他の環境で計592例が確認された。	○
シュレーゲルアオガエル	本種は、埼玉県では、低地帯から低山帯にかけて分布する。さいたま市（旧浦和市）、上尾市、草加市、騎西町、寄居町で記録がある <sup>1)</sup> 。水田、池、沼、湿原などで産卵し、非繁殖期は周辺の樹林地で生活するため、水辺と林が隣接している必要がある <sup>3)</sup> 。 谷戸の田んぼや湿地で生活する。ヨシの葉の上やヤナギの樹上で見られる。4～5月に湿地や田んぼの畔に白いメレンゲ状の卵塊を産む <sup>44)</sup> 。	本種は、乾性草地、水田、その他の環境で計22例が確認された。	○

※一般生態の出典一覧は前掲表 10.6-11 に示すとおりである。

## ⑤ 昆虫類

現地調査において確認された昆虫類の重要な種（40種）について、一般生態、現地での確認状況を踏まえた保全すべき種の選定結果は表 10.6-15 に示すとおりである。

表 10.6-15(1) 保全すべき種の選定結果等（昆虫類）

種名	一般生態（主な生息環境）	現地での確認状況等	保全すべき種の選定結果
アカツキシロカゲロウ	本種は、本州（利根川、荒川）に分布する <sup>8)</sup> 。河川の中・下流域に生息する <sup>9)</sup> 。幼虫の生息場所が河川の中・下流域で河床が粘土質のところである <sup>9)</sup> 。	本種は、その他の環境で計2例が確認された。	○
キイトトンボ	埼玉県では、大宮台地以東の既知産地は数ヶ所残るのみだが、丘陵帯から低山帯にかけては安定した産地が点在している <sup>28)</sup> 。成虫・幼虫とも平地ないし低山地の挺水植物や沈水植物が茂る池沼や、湿地の浅い滞水・水田・水郷のほとんど流れを感じない溝川などに生息する <sup>31)</sup> 。	本種は、湿性草地の環境で計2例が確認された。	○
アオヤンマ	本種は、埼玉県では、中川・加須低地では幸手市・加須市・久喜市などで記録があり、大宮台地や荒川以西低地帯にも産地は点在する <sup>1)</sup> 。ヨシ、ガマ、マコモなどが繁茂する明るい池沼や水郷地帯の溝川に生息している <sup>3)</sup> 。平野部から丘陵帯にあるヨシ群落の発達した池沼に生息する <sup>1)</sup> 。	本種は、湿性草地の環境で計16例が確認された。	○
サラサヤンマ	本種は、埼玉県では、これまでに平野部では越谷市で記録があるが、多くの生息地は大宮台地と台地－丘陵帯に集中する <sup>1)</sup> 。低山地、丘陵地の湿地などに生息し、5～7月頃に成虫は姿を見せる <sup>1)</sup> 。 幼虫は平地や低山地の木立の多い湿地に生息。羽化後の未熟なときは、林間や湿地の上を飛びながら餌を取り活動、成熟すると湿地に続く林の縁や、道の上などで縄張りを持つ。雌は単独で湿地の樹下で苔、朽木、湿土などに産卵する <sup>45)</sup> 。	本種は、落葉広葉樹林の環境で計2例が確認された。	○
ハラビロトンボ	埼玉県では、低地帯から低山帯にかけて分布は広いが、成虫の環境選好性の幅が狭い <sup>28)</sup> 。主に平地や丘陵地の挺水植物が繁茂する腐植栄養型の沼沢地や湿地に生息する。休耕田でもよく見かける <sup>31)</sup> 。	本種は、水田の環境で計4例が確認された。	○
キバネハサミムシ	本種は、埼玉県では、山地には広く分布していると考えられる。台地・丘陵帯では、皆野町や熊谷市（旧江南町）における荒川の河川敷から記録されている <sup>1)</sup> 。山地においては、日当たりのよい落葉広葉樹の林縁や沢沿いなどの植物上に見られる。丘陵地や低地では、荒川の河川敷の河畔林から見出されている <sup>1)</sup> 。	本種は、湿性草地の環境で計2例が確認された。	○
クギヌキサミムシ	本種は、埼玉県では、さいたま市「田島ヶ原サクラソウ自生地」から記録されている。三郷市や吉川市、幸手市では江戸川の河川敷から記録されている <sup>1)</sup> 。下流域の河川敷の河畔林やヨシ群落、サクラソウ自生地から見出されている <sup>1)</sup> 。	本種は、湿性草地、植栽樹林の環境で計4例が確認された。	○

※一般生態の出典一覧は前掲表 10.6-11 に示すとおりである。

表 10.6-15(2) 保全すべき種の選定結果等（昆虫類）

種名	一般生態（主な生息環境）	現地での確認状況等	保全すべき種の選定結果
ヒガシキリギリス	本種は、埼玉県内では低地から低山地にかけて広く分布するが、低地帯では少ない <sup>1)</sup> 。埼玉県北西部では、荒川、利根川等の河川敷や農耕地周辺に広く分布し、個体数も多い <sup>1)</sup> 。乾性草地に生息し、湿地や樹木が優占する植生には生息しない <sup>1)</sup> 。	本種は、乾性草地、湿性草地、落葉広葉樹林、畑、公園・グラウンドの環境で計 18 例が確認された。	○
ヒサゴクサキリ	埼玉県では、2007 年に北本自然公園で初めて発見され、2014 年には川島町でも確認された <sup>28)</sup> 。メダケ、マダケなどの竹林に生息し、大きな河川や海岸に近い地域に見つかることが多い <sup>10)</sup> 。	確認位置情報なし <sup>注1)</sup>	○
クマコオロギ	本種は、埼玉県では、低地帯においては羽生市や幸手市などから記録があり、台地・丘陵帯においては、主に谷津田の休耕地に生息している <sup>1)</sup> 。低地から丘陵地にかけて分布し、河川敷や休耕地などの湿地に生息している <sup>1)</sup> 。	本種は、乾性草地、湿性草地、落葉広葉樹林、その他の環境で計 28 例が確認された	○
クルマバッタ	本種は、埼玉県では低地から低山地にかけて記録があり、近年、さいたま市、戸田市、志木市、深谷市、本庄市、坂戸市、北川辺町などの平野部からの記録があいついでいる <sup>1)</sup> 。シバ型の半自然草地に生息する傾向が強い <sup>1)</sup> 。イネ科植物の葉を食べる <sup>1)</sup> 。	本種は、乾性草地、裸地の環境で計 6 例が確認された	○
ヒナバッタ	本種は、埼玉県では低地から低山地に分布するが生息地は限定される <sup>1)</sup> 。荒川水系の平野部での記録は広く見当たらない <sup>1)</sup> 。一般にシバ型の草地に生息する <sup>1)</sup> 。	本種は、湿性草地の環境で計 2 例が確認された	○
ショウリョウバッタモドキ	本種は、埼玉県では、熊谷市（旧熊谷市、江南町）、飯能市などの低地から丘陵地に分布しているが、生息地は限定されている <sup>1)</sup> 。ススキなど高茎のイネ科草本が優占する乾性草地を、生息環境としている <sup>1)</sup> 。	本種は、乾性草地、湿性草地、落葉広葉樹林、公園・グラウンド、池沼の環境で計 14 例が確認された	○
ハネナガイナゴ	埼玉県では、1960 年頃を境に急速に減少したが、近年になり各地で生息地及び生息数が増加している <sup>28)</sup> 。水田やその周辺、湿性の草地にいる。イネ科植物を食害し、良く飛ぶ <sup>10)</sup> 。	本種は、湿性草地、水田の環境で計 10 例が確認された	○
ピロウドサシガメ	本種は、埼玉県では、東松山市、小川町、毛呂山町、嵐山町のいずれも比企地方から記録が確認されている <sup>1)</sup> 。植物の根際や落ち葉の下などに生活し、他の見虫やヤスデなどの多足類を捕食する <sup>1)</sup> 。	本種は、植栽樹林、公園・グラウンド、その他の環境で計 6 例が確認された	○
キイロサシガメ	埼玉県では、旧騎西町（現加須市）、久喜市、杉戸町、さいたま市、日高市、三郷市、寄居町で生息が確認されている <sup>28)</sup> 。水田近くの雑草間や休耕地など湿気の多い地表で生活する <sup>28)</sup> 。	本種は、水田、市街地の環境で計 6 例が確認された	○
リンゴクロカスミカメ	本種は、北海道、本州中部以北に分布する <sup>22)</sup> 。成虫は年 1 回、6 月下旬～7 月上旬に出現する <sup>24)</sup> 。主に里山のバラ科樹木に依存するが、一部の産地ではフジ類にもつくという <sup>22)</sup> 。	本種は、落葉広葉樹の環境で計 2 例が確認された	○

※一般生態の出典一覧は前掲表 10.6-11 に示すとおりである。

注 1) 本種は「埼玉県レッドデータブック 2018」で新たに重要な種として追加された種である。本種はレッドデータブックの改訂以前の調査で確認され、調査範囲内での確認記録はあるが確認位置に関する記録はない。

表 10.6-15(3) 保全すべき種の選定結果等（昆虫類）

種名	一般生態（主な生息環境）	現地での確認状況等	保全すべき種の選定結果
ヒメナガメ	本種は、埼玉県では、毛呂山町、皆野町、秩父市（旧大滝村）、小鹿野町（旧両神村）の記録が知られている <sup>1)</sup> 。丘陵から山地にかけてのアブラナ科植物に生活する。春期、ダイコンやアブラナ等の作物上に近似種ナガメと混生することも多い。ナズナやタネツケバナ等の野草にも生活する <sup>1)</sup> 。	本種は、乾性草地、湿性草地、畑、その他の環境で計 12 例が確認された。	○
オオアメンボ	埼玉県では、大宮台地から低山帯にかけて広く分布するが、低標高地の生息地は少ない <sup>28)</sup> 。池沼などの止水域や河川の緩流域に生息し、日陰となる水面を好む <sup>28)</sup> 。	本種は、落葉広葉樹、池沼の環境で計 4 例が確認された。	○
エサキアメンボ	本種は、埼玉県では 1988 年に初めて確認されて以来、大宮台地（さいたま市、上尾市など 7 ヶ所）から記録 <sup>1)</sup> 。ヨシ・マコモなど抽水植物が繁茂する池沼の水際近くに生息し、植物間のやや暗くて狭い水面にみられる <sup>1)</sup> 。	本種は、湿性草地、水田の環境で計 16 例が確認された。	○
モンシロミズギワカメムシ	本種は、埼玉県では、1992 年に秩父から確認されているほか、寄居町、鳩山町、日高市等から記録されている <sup>1)</sup> 。湿地の雑草間（地上）に生息する <sup>1)</sup> 。湿地のヨシ、ガマなどの雑草間で発見される <sup>3)</sup> 。	本種は、湿性草地の環境で計 2 例が確認された。	○
ミズナシミズムシ	本種は、北海道から九州にかけて分布する <sup>1)</sup> 。主として低地～丘陵地の池沼に生息する <sup>1)</sup> 。	本種は、湿性草地の環境で計 10 例が確認された。	○
エノキカイガラキジラミ	本州、九州に分布する <sup>33)</sup> 。主にエノキの大木がまとまって生える場所に生息する <sup>33)</sup> 。	本種は、湿性草地、植栽樹林、市街地の環境で計 6 例が確認された。	○
ハイイロボクトウ	本種は、北海道から九州まで分布 <sup>3)</sup> 。平野部の沼沢地および、昔蛇行していた川の直線化で残された河道跡の沼地などに生息し、幼虫が植物の茎に潜る蛾の通例として、成虫の体の大きさには大きな個体差がある <sup>3)</sup> 。	本種は、湿性草地、落葉広葉樹林、竹林の環境で計 6 例が確認された。	○
ギンイチモンジセセリ	本種は、埼玉県では、荒川、利根川などの河川流域の低湿地や谷戸の湿地に生息するものと、秩父市（旧大滝村）内の山地の草地に生息するものがある <sup>1)</sup> 。山地草原から河川流域の草地、休耕田跡の草地などに生息し、多くは年 2 回の発生 <sup>1)</sup> 。	本種は、水田、ゴルフ場、その他の環境で計 8 例が確認された。	○
コチャバネセセリ	埼玉県では、低地から亜高山帯にかけて分布しているが、平野部の産地でも個体数は多くはない <sup>28)</sup> 。北海道、東北地方山地、関東・中部地方の高地帯では、年 1 回の発生 <sup>32)</sup> 。暖地では通常年 2 回の発生（春型 4～5 月、夏型 7～8 月）で、時と場所によっては第 3 化を見ることがある <sup>32)</sup> 。クマザサ、ネザサ、アズマネザサなどが生える平地～山地の雑木林や樹林縁に生息する <sup>28)</sup> 。	確認位置情報なし 注 1	○

※一般生態の出典一覧は前掲表 10.6-11 に示すとおりである。

注 1) 本種は「埼玉県レッドデータブック 2018」で新たに重要な種として追加された種である。本種はレッドデータブックの改訂以前の調査で確認され、調査範囲内での確認記録はあるが確認位置に関する記録はない。



表 10.6-15(4) 保全すべき種の選定結果等（昆虫類）

種名	一般生態（主な生息環境）	現地での確認状況等	保全すべき種の選定結果
ミドリシジミ	本種は、埼玉県では、外秩父や、上武山地、三峰山などの山地のヤマハンノキ、ミヤマハンノキにも生息する <sup>1)</sup> 。低地の河川敷や田んぼ周辺に発達するハンノキ林に主に生息する <sup>1)</sup> 。 湿地のハンノキ林で生活する。ミドリシジミは壮齢期のハンノキ林よりも若齢期のハンノキ林を好むことが知られています。荒川でもメスは若齢期のハンノキに卵を産む傾向があります。成虫はクリなどの花の蜜やクヌギの樹液などを吸う <sup>44)</sup> 。	本種は、乾性草地、湿性草地、落葉広葉樹林、水田の環境で計 16 例が確認された。	○
アサマイチモンジ	本種は、本州特産種 <sup>1)</sup> 。低地～低山地の雑木林の林縁周辺、平野部の中小河川周辺など、開けた明るい環境を好む <sup>8)</sup> 。 成虫はイボタノキやスイカズラなど白色の花によく集まり、蜜を吸う。幼虫はスイカズラの葉を食べる。林の縁で生活する <sup>44)</sup> 。	本種は、乾性草地、湿性草地、落葉広葉樹林、竹林、植栽樹林、公園・グラウンド、市街地の環境で計 32 例が確認された。	○
スゲドクガ	本種は、北海道、本州に分布 <sup>19)</sup> 。陵帯から山地帯の低地から丘陵地の湿地に生息し、発生地は限定され湿地を離れると生息できない <sup>19)</sup> 。	本種は、乾性草地、湿性草地の環境で計 8 例が確認された。	○
コシロシタバ	本種は、全国各地に分布 <sup>4)</sup> 。幼虫はクヌギ及びアベマキにつき、人為的に管理された里山的環境下のクヌギを混生する暖温帯落葉二次林に生息する <sup>8)</sup> 。	本種は、落葉広葉樹林の環境で計 2 例が確認された。	○
イチモジヒメヨトウ	本種は、埼玉県では、春日部市、北本市、旧浦和市（現さいたま市）、戸田市、川口市に記録がある <sup>28)</sup> 。ヨシなどの生えた低標高の沼地や河川敷付近の湿地に生息する <sup>3)</sup> 。	本種は、落葉広葉樹林の環境で計 2 例が確認された。	○
ハチモドキハナアブ	本種は、埼玉県では、長瀨町で 1966 年に 1♂と 1968 年に 1♂が記録されており、近年嵐山町や川島町からも、樹液に飛来する本種の成虫がしばしば観察または採集されている。平地性の種と推察される <sup>1)</sup> 。平地から丘陵にかけて分布する。田畑や都市に隣接した目に触れやすい環境に生息する <sup>2)</sup> 。	本種は、竹林、公園・グラウンドの環境で計 4 例が確認された。	○
アリスアトキリゴミムシ	本種は、埼玉県内ではさいたま市、島ヶ原で最初に記録された <sup>1)</sup> 。その後東松山市、嵐山町の都幾川河川敷、小川町、東秩父村でも記録された <sup>1)</sup> 。ケアリ類と関わりを持つ好蟻性のゴミムシ <sup>1)</sup> 。県内では河川敷のススキやヨモギが生える礫と土の混ざった河原において、カワラケアリの巣や行列がその周囲から見つかった <sup>1)</sup> 。	本種は、水田の環境で計 2 例が確認された。	○
キベリマメゲンゴロウ	本種は、北海道、本州、四国、九州に分布する <sup>22)</sup> 。主な生息地は平地の中流域 <sup>22)</sup> 。河川の流水やよどみに生息し、岸辺の植物周辺でも見られる <sup>22)</sup> 。	本種は、落葉広葉樹林、本川・支川の環境で計 4 例が確認された。	○
マダラコガシラミズムシ	埼玉県では、川口市の荒川河川敷、北本市、嵐山町、小川町で記録がある <sup>28)</sup> 。低山帯から平地帯にかけて、水を張った水田や河川の堰の上流、池沼などに生息し、水生植物が生える環境を好む <sup>28)</sup> 。	本種は、市街地の環境で計 2 例が確認された。	○
コガムシ	本種は、北海道、本州、四国、九州に分布する <sup>4)</sup> 。平野部～丘陵部の有機物の豊富な浅い池沼、湿地、水田に生息する <sup>4)</sup> 。	本種は、湿性草地、水田の環境で計 8 例が確認された。	○

※一般生態の出典一覧は前掲表 10.6-11 に示すとおりである。

表 10.6-15(5) 保全すべき種の選定結果等（昆虫類）

種名	一般生態（主な生息環境）	現地での確認状況等	保全すべき種の選定結果
クナシリシジミガムシ	埼玉県では、低山地の秩父市大野原と台地・丘陵帯の寄居町折原から記録されている <sup>28)</sup> 。止水性で、低山帯から低地帯までの水生植物の豊富な湖沼やため池、水田、休耕田、湿地、河川敷の溜まりなどに生息する <sup>28)</sup> 。	確認位置情報なし <sup>注1</sup>	○
ムモンチャイロテントウ	本種は、埼玉内では低地帯から台地・丘陵帯にかけての湿地環境に生息するが分布は局所的である <sup>1)</sup> 。平野部とその周辺に点在する良好な湿地環境にのみ生息する小型のテントウムシで、スゲ類が生い茂るような植生とその周辺部に見られることが多い <sup>1)</sup> 。	本種は、湿性草地、植栽樹林の環境で計 6 例が確認された。	○
モンスズメバチ	本種は、北海道、本州、四国、九州の平地から低山地にかけて分布 <sup>14)</sup> 。営巣場所は樹洞、天井裏、壁間、戸袋などの閉鎖的な場所であるが、稀に軒下などにも営巣し、鳥の巣箱に営巣する例もある <sup>14)</sup> 。	本種は、乾性草地、落葉広葉樹林、植栽樹林、公園・グラウンド、本川・支川の環境で計 18 例が確認された。	○
クズハキリバチ	本種は、本州、九州、屋久島に分布 <sup>2)</sup> 。老木の洞や竹筒やカミキリの脱出坑などに営巣するハキリバチ <sup>2)</sup> 。	本種は、水田の環境で計 2 例が確認された。	○

※一般生態の出典一覧は前掲表 10.6-11 に示すとおりである。

注 1) 本種は「埼玉県レッドデータブック 2018」で新たに重要な種として追加された種である。本種はレッドデータブックの改訂以前の調査で確認され、調査範囲内での確認記録はあるが確認位置に関する記録はない。

## ⑥ 魚類

現地調査において確認された魚類の重要な種（4種）について、一般生態、現地での確認状況を踏まえた保全すべき種の選定結果は表 10.6-16 に示すとおりである。

表 10.6-16 保全すべき種の選定結果等（魚類）

種名	一般生態（主な生息環境）	現地での確認状況等	保全すべき種の選定結果
キンブナ	本種は、埼玉県には台地・丘陵帯以下の県内ほぼ全域に分布 <sup>1)</sup> 。台地や丘陵地の支流小河川に多く生息し、定着性が強い。大河川の本流や湖沼に生息する場合は、水生植物のある浅所の底層であまり移動せず生活している <sup>1)</sup> 。	本種は、水田、その他の環境で計 36 例が確認された。	○
ドジョウ	本種は、ほぼ日本全国に分布するが、北海道と琉球列島のものは移植の可能性が高い <sup>7)</sup> 。水田や湿地と、周辺の細流にすみ、圃場整備されていない水田が近くにあれば、かなり上流域にもいる <sup>7)</sup> 。	本種は、乾性草地、湿性草地、落葉広葉樹林、竹林、植栽樹林、畑、水田、ゴルフ場、公園・グラウンド、本川・支川、池沼、その他の環境で計 210 例が確認された。	○
ホトケドジョウ	埼玉県では、荒川水系の荒川、柳瀬川、入間川、都幾川、槻川、吉田川、赤平川、新河岸川流域の支川、利根川水系の小山川、女堀川などに生息する <sup>28)</sup> 。湧水を水源とする湿地や細流、芹田やワサビ田、樹林と水田の境界にある小溝、河川敷内の水たまりなどに生息する <sup>30)</sup> 。	本種は、池沼の環境で計 6 例が確認された。	○
ミナミメダカ	本種は、北海道を除く日本列島に天然分布する <sup>1)</sup> 。水田や池沼、溜まりのある湿地、中小河川などで水生植物の繁茂した場所に生息する <sup>1)</sup> 。	本種は、乾性草地、湿性草地、落葉広葉樹林、竹林、植栽樹林、畑、水田、ゴルフ場、公園・グラウンド、市街地、本川・支川の環境で計 176 例が確認された。	○

※一般生態の出典一覧は前掲表 10.6-11 に示すとおりである。

## ⑦ 底生動物

現地調査において確認された底生動物の重要な種（11種）について、一般生態、現地での確認状況を踏まえた保全すべき種の選定結果は表 10.6-17 に示すとおりである。

なお、このうちエサキアメンボ、キベリマメゲンゴロウ、コガムシの3種は、昆虫類調査でも確認されており、現地での確認状況等は前掲表 10.6-15 に示したとおりである。

表 10.6-17(1) 保全すべき種の選定結果等（底生動物）

種名	一般生態（主な生息環境）	現地での確認状況等	保全すべき種の選定結果
ナミウズムシ	本種は、北海道北部(宗谷)を除いた日本列島全域に分布する <sup>1)</sup> 。埼玉県内では、山地帯では普通に見られる <sup>28)</sup> 。小鹿野町の河原沢諏訪山付近、秩父市大滝地区中津川、同地区小倉沢、同地区バケモノ沢、秩父市大宮地区押堀川、飯能市岩渕で確認されている <sup>28)</sup> 。本州では平地から山地帯にかけて広く分布する。山地では溪流や湧水流、平地では湧水部かその流れの小石や木片、落葉の下で生息している <sup>1)</sup> 。	本種は、乾性草地の環境で計4例が確認された。	○
オオタニシ	埼玉県では、低山帯から台地・丘陵帯に分布するが、分布は局所的である <sup>28)</sup> 。流れの緩やかな河川や用水路、ため池や湖などの水量と水質の安定した（僅かに湧水のある）場所に生息する <sup>37)</sup> 。	本種は、水田の環境で計4例が確認された。	○
コシダカヒメモノアラガイ	本種は、日本各地に分布する <sup>37)</sup> 。主に水田の畦や湿地などの水際に生息する <sup>37)</sup> 。	本種は、池沼の環境で計3例が確認された。	○
モノアラガイ	埼玉県では、台地・丘陵帯から低地帯に分布する <sup>28)</sup> 。池沼やため池などの止水域をはじめ、河川の細流や浅瀬で挺水植物などが繁茂する水域に生息する <sup>28)</sup> 。	本種は、池沼の環境で計2例が確認された。	○
カワコザラガイ	本種は、埼玉県内では東部低地(鷲宮町、久喜市)、行田市新田、川越市伊佐沼、荒川旧河川の池沼に普通に見られたが、現在は激減 <sup>1)</sup> 。池沼、クリーク、細流、上流域の河川などで、礫や水生植物の葉に付着している <sup>25)</sup> 。	本種は、乾性草地、湿性草地、植栽樹林、水田、池沼の環境で計16例が確認された。	○
ドブガイ(タガイ、ヌマガイ)	本種は、埼玉県内では中川低地から荒川低地、比企丘陵でも目撃できる <sup>1)</sup> 。湖、池沼、河川、クリークなどの砂礫底、砂泥底、泥底に生息する <sup>25)</sup> 。なお近年「ドブガイ」は「タガイ」と「ヌマガイ」に細分されているが、埼玉県 RDB では「ドブガイ」が指定されているため、「ドブガイ」の指定を適用した <sup>1)</sup> 。	本種は、植栽樹林の環境で計2例が確認された。	○
ドブシジミ	本種は、埼玉県内では中川・加須低地の久喜市青毛の水田や小流で採集されたが、激減している <sup>1)</sup> 。緩やかな流水域を好むようである <sup>1)</sup> 。	本種は、乾性草地、落葉広葉樹林、水田の環境で計16例が確認された。	○
エサキアメンボ	本種は、埼玉県では、1988年に初めて確認されて以来、大宮台地(さいたま市、上尾市など7カ所)から記録 <sup>1)</sup> 。ヨシ・マコモなど抽水植物が繁茂する池沼の水際近くに生息し、植物間のやや暗くて狭い水面にみられる <sup>1)</sup> 。	(昆虫類の項目を参照)	○

※一般生態の出典一覧は前掲表 10.6-11 に示すとおりである。



表 10.6-17(2) 保全すべき種の選定結果等（底生動物）

種名	一般生態（主な生息環境）	現地での確認状況等	保全すべき種の選定結果
ババアメンボ	埼玉県では、東部低地から低山帯にかけて広い範囲から記録されているが、分布は局地的である <sup>28)</sup> 。抽水植物群落が発達した池沼に生息し、抽水植物群落と開放水面の境界付近を好む <sup>28)</sup> 。	本種は、湿性草地、池沼の環境で計 10 例が確認された。	○
キベリマメゲンゴロウ	本種は、北海道、本州、四国、九州に分布する <sup>22)</sup> 。主な生息地は平地の中流域 <sup>22)</sup> 。河川の流水やよどみに生息し、岸辺の植物周辺でも見られる <sup>22)</sup> 。	（昆虫類の項目を参照）	○
コガムシ	本種は、北海道、本州、四国、九州に分布する <sup>4)</sup> 。平野部～丘陵部の有機物の豊富な浅い池沼、湿地、水田に生息する <sup>4)</sup> 。	（昆虫類の項目を参照）	○

※一般生態の出典一覧は前掲表 10.6-11 に示すとおりである。

## ⑧ 陸産貝類

現地調査において確認された陸産貝類の重要な種（12種）について、一般生態、現地での確認状況を踏まえた保全すべき種の選定結果は表 10.6-18 に示すとおりである。

表 10.6-18(1) 保全すべき種の選定結果等（陸産貝類）

種名	一般生態（主な生息環境）	現地での確認状況等	保全すべき種の選定結果
ミジンヤマ タニシ	本種は、台地や丘陵地、低山地の落葉広葉樹林の自然林下にみられるが、落葉下の隙間で活動し微小で発見は困難である <sup>28)</sup> 。埼玉県内では、低山帯や山地帯に分布し、主に落葉広葉樹林下に生息するが希産 <sup>28)</sup> 。	本種は落葉広葉樹林、植栽樹林、市街地の環境で計4例が確認された	○
コウフオカ モノアラガイ	本種は、水田や湿地に生息する <sup>40)</sup> 。埼玉県内にも分布するが、生息地は少ない <sup>40)</sup> 。	本種は湿生草地の環境で計1例が確認された	○
ナガオカモ ノアラガイ	本種は、低地の湿地や水辺の草地、湿潤な水路脇や草地に生息する <sup>40)</sup> 。埼玉県内では、低地帯に分布し、荒川低地や中川・加須低地の水辺のヨシの茎や葉上にみられる <sup>40)</sup> 。	本種は湿生草地の環境で計2例が確認された	○
スナガイ	本種は、日本固有種 <sup>41)</sup> 。房総半島以南（伊豆諸島および琉球列島を含む）の海岸近くの落葉下や転石の下に生息する <sup>41)</sup> 。産地によっては多産するが、沿岸地域の開発によって生息地（とくに日本本土）は減少している <sup>41)</sup> 。	本種は乾性草地、植栽樹林、その他の環境で計14例が確認された	○
ナタネキバ サナギガイ	本種は、北海道、本州、四国、九州の広い範囲の湿地に生息する <sup>40)</sup> 。	本種は水田の環境で計2例が確認された	○
マルナタネ ガイ	本種は、低木の林に生息している <sup>35)</sup> 。柑橘類の小枝に生息することが多い <sup>35)</sup> 。卵胎生である <sup>35)</sup> 。	本種は落葉広葉樹林、植栽樹林、ゴルフ場、公園・グラウンド、市街地の環境で計12例が確認された	○
ナミコギセル	本種は、落葉広葉樹林の自然林下で大樹の洞や朽木の樹幹部や樹皮下に付着する <sup>28)</sup> 。埼玉県内では、台地・丘陵帯に分布する <sup>28)</sup> 。	本種は乾性草地、湿生草地、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、竹林、公園・グラウンド、市街地の環境で計18例が確認された	○
ヒメハリマ キビ	本種は、低山帯の落葉広葉樹林下に見られるが希産である <sup>28)</sup> 。埼玉県内では、低山帯に分布し、山地の落葉広葉樹林の自然林下に生息する <sup>28)</sup> 。	本種は植栽樹林の環境で計2例が確認された	○
マルシタラ ガイ	本種は、低地や低山地の記録があり、低山地では落葉広葉樹林の自然林下や石灰岩地の落葉下に見られる <sup>28)</sup> 。埼玉県内では、低山帯に分布するが希産 <sup>28)</sup> 。	本種は乾性草地、湿生草地、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、ゴルフ場、公園・グラウンド、市街地の環境で計18例が確認された	○
ウメムラン シタラガイ	本種は、落葉広葉樹林の自然林で、比較的安定した湿潤な落葉中に見られる <sup>28)</sup> 。埼玉県内では、低山帯から台地・丘陵帯に分布し、外秩父山地に見られるが希産 <sup>28)</sup> 。武甲山や秩父市浦山の落葉広葉樹林の自然林下に生息する <sup>28)</sup> 。	本種は乾性草地、湿生草地、落葉広葉樹林、植栽樹林、ゴルフ場の環境で計10例が確認された	○

※一般生態の出典一覧は前掲表 10.6-11 に示すとおりである。

表 10.6-18(2) 保全すべき種の選定結果等（陸産貝類）

種名	一般生態（主な生息環境）	現地での確認状況等	保全すべき種の選定結果
オオウエキ ビ	本種は、丘陵地～低山地の落葉広葉樹林の自然林下に生息する <sup>28)</sup> 。埼玉県内では、低山帯に分布し、外秩父山地や武甲山系などの落葉広葉樹林下に生息する <sup>28)</sup> 。	本種は落葉広葉樹林、竹林、植栽樹林の環境で計 10 例が確認された	○
トウキョウ コオオベソ マイマイ	本種は、日本固有種 <sup>41)</sup> 。関東地方に分布するカドコオオベソマイマイ（ <i>A. p. oniosoma</i> ）に類似するが、それよりも小型であること、生殖器の鞭状器に輪状のくびれがあることで識別される <sup>41)</sup> 。	本種は乾性草地、落葉広葉樹林、植栽樹林、その他の環境で計 8 例が確認された	○

※一般生態の出典一覧は前掲表 10.6-11 に示すとおりである。

### 3) その他の予測・評価に必要な事項

#### ① 広域的な動物相及び動物分布の状況

事業実施区域周辺の広域的な動物相及び動物分布の状況については、第3章の3.2.5動物の生息・種類、植物の生育、植生、緑の量及び生態系の状況で示したとおりである。

#### ② 過去の動物相の変遷

事業実施区域周辺の土地利用の変遷は表 10.6-19 に示すとおりである。

昭和20年代までの荒川上流改修工事中の水田の開墾期には、水田を主な生息環境とする動物相が増加し、その後、昭和39年の新河川法の改正以降に、ゴルフ場の開設、公園の造成に伴う植栽木の増加、屋敷林の整備等により、これらの環境を主な生息環境とする動物相が増加したと考えられる。

一方で、これまでの河川改修や圃場整備等により自然的環境が変化し、生息環境の単調化等の変化が生じている。

対象事業実施区域周辺の河川敷は、出水に伴う河川の氾濫により繰り返し攪乱されながら、植生も遷移していると考えられ、植生の遷移に伴い動物相も変化していると考えられる。

表 10.6-19 事業実施区域周辺の土地利用の変遷の年表

年代	主な出来事
1883(明治16)年	河川法の制定。
1907(明治40)年	荒川洪水。死傷者・行方不明52人。家屋の損壊・流出124戸、浸水17,850戸。
1910(明治43)年	荒川大洪水。埼玉県内の平野部全域が浸水。死傷者401人、住宅の損壊・流出18,147戸、浸水約85,000戸。
1918(大正7)年	荒川上流改修工事開始。用地調査を開始。
1920(大正9)年	荒川上流改修工事、本工事着手。荒川の河道付け替えによる直線化、堤防の築堤、横堤の築堤等。
1942(昭和17)年 ～1948(昭和23)年	荒川上流改修工事は中止状態。完成した堤防・低水路は荒廃が進む。高水敷や堤防等は開墾され農地となる。
1948(昭和24)年	荒川上流改修工事再開。
1954(昭和29)年	荒川上流改修工事終了。計画開始から37年で完成。
1955(昭和30)年～	およそ10年間にわたり、ゴルフ場、自動車練習場、私企業の運動場等の施設が進出。
1964(昭和39)年	新河川法の制定。
1965(昭和40)年～	昭和40年代の農業構造改善事業の実施。道路・用水・圃場等の整備。
1966(昭和41)年～	およそ10年間にわたり、公園緑地、地方公共団体や学校関係の運動場が進出する。
1976(昭和51)年～	およそ10年間にわたり、公園緑地、地方公共団体の運動場の進出が増加する。
1990(平成2)年～	堤外地に残っていた集落の全面移転。最後まで残っていた川越市握津集落の移転は、2006(平成18)年に完了。

### ③ 地域住民その他の人との関わりの状況

地域住民その他の人との関わりの状況について、前項で示した事業実施区域周辺の土地利用を踏まえると、水田、ゴルフ場、公園の造成に伴う植栽木、屋敷林といった人の手が加わることで維持されるような環境を基盤とした動物種が、事業実施区域周辺には生息していると考えられる。なお、事業実施区域において、食物資源や観光資源に利用されている動物種は特に確認されていない。



## 10.6.2 予測

### (1) 予測内容

#### 1) 工事の実施に伴う影響

##### ① 堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度

直接改変により、生息地が消失することに伴う動物への影響について予測した。

直接改変による影響予測は、前項で抽出した保全すべき種を予測対象種とした。予測対象種は表 10.6-20 に示すとおりである。

なお、予測内容は「土地又は工作物の存在・供用」の「調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度」と同じ内容である。

##### ② 建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境への影響の程度

建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴い発生する騒音により、生息環境が変化することに伴う動物への影響について予測した。

騒音による影響予測は、視覚的あるいは聴覚的な生態特性を踏まえ、哺乳類及び鳥類の分類群を対象とし、このうち前項で抽出した保全すべき種を予測対象種とした。予測対象種は表 10.6-20 に示すとおりである。

##### ③ 堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響の程度

堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴い発生する濁水及びアルカリ排水が流出することにより、生息環境が変化することに伴う動物への影響について予測した。

濁水及びアルカリ排水の流出による影響予測は、前項で抽出した保全すべき種のうち、生活史の全て又は一部を水域（本川、支川）で過ごす種とした。予測対象種は表 10.6-20 に示すとおりである。

#### 2) 土地又は工作物の存在・供用

##### ① 調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度

直接改変により、生息地が消失することに伴う動物への影響について予測した。

直接改変による影響予測は、前項で抽出した保全すべき種を予測対象種とした。予測対象種は表 10.6-20 に示すとおりである。

なお、予測内容は「工事の実施に伴う影響」の「堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度」と同じ内容である。

##### ② 調節池の存在・供用に伴う河川の冠水頻度の変化による生息環境の影響の程度

調節池の存在・供用に伴い河川の冠水頻度が減少することにより、高水敷の植生が変化し、生息環境が変化することに伴う動物への影響について予測した。

冠水頻度が減少することによる影響予測は、前項で抽出した保全すべき種のうち、冠水により攪乱された環境（氾濫原）にのみ生息する種を予測対象種とした。ただし、予測対象とする種は、現地調査の結果確認されなかった。

### ③ 調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度

調節池の存在・供用に伴い地下水位が低下することにより、調査地域の植生が変化し、生息環境が変化することに伴う動物への影響について予測した。

地下水位が低下することによる影響予測は、前項で抽出した保全すべき種のうち、主な生息環境に湿生草場が含まれる種を予測対象種とした。予測対象種は表 10.6-20 に示すとおりである。

### ④ 調節池からの放水に伴う濁水の流出による生息環境の影響の程度

出水後の調節池からの放水により、河川域（本川）の水質が変化することに伴う動物への影響について予測した。

調節池からの放水による影響予測は、魚類及び底生動物の分類群を対象とし、このうち前項で抽出した保全すべき種を予測対象種とした。予測対象種は表 10.6-20 に示すとおりである。

表 10.6-20(1) 予測対象とする動物の保全すべき種及び影響要因

予測対象種	影響要因	工事の実施に伴う影響			土地又は工作物の存在・供用				
		堤体等の 工事(掘削 含む)及び 工事用道 路等の設 置工事の 実施に伴 う保全す べき種の 生息地の 改変の程 度	建設機械 の稼働及 び資材運 搬等の車 両の走行 に伴う騒 音による生 息環境へ の影響の 程度	堤体等の 工事(掘削 含む)及び 工事用道 路等の設 置工事の 実施に伴 う濁水及 びアルカリ 排水の流 出等による 生息環境 への影響 の程度	調節池の 存在・供用 に伴う保 全すべき 種の生息 地の改変 の程度	調節池の 存在・供用 に伴う河 川の冠水 頻度の変 化による生 息環境の 影響の程 度	調節池の 存在・供用 に伴う地 下水位の変 化による 生息環境 の影響の 程度	調節池か らの放水 に伴う濁 水の流出 による生息 環境の影 響の程度	
鳥類	1	クイナ	●	●		●		●	
	2	ヒクイナ	●	●		●		●	
	3	バン	●	●	●	●		●	
	4	オオバン	●	●	●	●		●	
	5	カンムリカイツブリ	●	●	●	●		●	
	6	アオバト	●	●		●			
	7	ヨシゴイ	●	●		●		●	
	8	アマサギ	●	●		●			
	9	チュウサギ	●	●	●	●		●	
	10	コサギ	●	●	●	●		●	
	11	ホトギス	●	●		●			
	12	カッコウ	●	●		●		●	
	13	ヒメアマツバメ	●	●		●			
	14	タゲリ	●	●		●		●	
	15	ケリ	●	●		●		●	
	16	タシギ	●	●		●		●	
	17	トビ	●	●		●			
	18	ハイタカ	●	●		●			
	19	オオタカ	●	●		●			
	20	サンバ	●	●		●			
	21	ノスリ	●	●		●			
	22	フクロウ	●	●		●			
	23	カワセミ	●	●	●	●		●	
	24	アオゲラ	●	●		●			
	25	チョウゲンボウ	●	●		●		●	
	26	ハヤブサ	●	●		●		●	
	27	サンショウクイ	●	●		●			
	28	サンコウチョウ	●	●		●			
	29	ウグイス	●	●		●		●	
	30	オオヨシキリ	●	●		●		●	
	31	トラツグミ	●	●		●			
	32	アカハラ	●	●		●			
	33	ルリビタキ	●	●		●			
	34	キビタキ	●	●		●			
	35	ベニマシコ	●	●		●		●	
	36	ホオジロ	●	●		●		●	
	37	アオジ	●	●		●		●	
	38	クロジ	●	●		●			

表 10.6-20(2) 予測対象とする動物の保全すべき種及び影響要因

予測対象種	影響要因	工事の実施に伴う影響			土地又は工作物の存在・供用			
		堤体等の工事(掘削含む)及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度	建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境への影響の程度	堤体等の工事(掘削含む)及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響の程度	調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度	調節池の存在・供用に伴う河川の冠水頻度の変化による生息環境の影響の程度	調節池の存在・供用に伴う地下水水位の変化による生息環境の影響の程度	調節池からの放水に伴う濁水の流出による生息環境の影響の程度
爬虫類	39 ニホンイシガメ	●		●	●		●	
	40 ニホンスッポン	●		●	●		●	
	41 ヒガシニホントカゲ	●			●		●	
	42 ニホンカナヘビ	●			●		●	
	43 シマヘビ	●			●		●	
	44 アオダイショウ	●			●		●	
	45 ジムグリ	●			●			
	46 シロマダラ	●			●			
	47 ヒバカリ	●			●		●	
	48 ヤマカガシ	●			●		●	
49 ニホンマムシ	●			●		●		
両生類	50 ニホンアカガエル	●			●		●	
	51 トウキョウダルマガエル	●			●		●	
	52 シュレーゲルアオガエル	●			●		●	
昆虫類	53 アカツキシロカゲロウ	●		●	●			●
	54 キイトンボ	●		●	●		●	
	55 アオヤンマ	●		●	●		●	
	56 サラサヤンマ	●			●		●	
	57 ハラビロトンボ	●		●	●		●	
	58 キバネハサミムシ	●			●		●	
	59 クギヌキハサミムシ	●			●		●	
	60 ヒガシキリギリス	●			●			
	61 ヒサゴクサキリ	●			●			
	62 クマコオロギ	●			●		●	
	63 クルマバッタ	●			●		●	
	64 ヒナバッタ	●			●		●	
	65 ショウリョウバッタモドキ	●			●		●	
	66 ハネナガイナゴ	●			●		●	
	67 ビロウドサシガメ	●			●		●	
	68 キイロサシガメ	●			●		●	
	69 リンゴクロカスミカメ	●			●			
	70 ヒメナガメ	●			●			
	71 オオアメンボ	●		●	●		●	
	72 エサキアメンボ	●		●	●		●	
73 モンシロミズギワカメムシ	●		●	●		●		
74 ミヅナシミズムシ	●		●	●		●		
75 エノキカイガラキジラミ	●			●				
76 ハイイロボクトウ	●			●		●		
77 ギンイチモンジセセリ	●			●		●		
78 コチャバネセセリ	●			●				

表 10.6-20(3) 予測対象とする動物の保全すべき種及び影響要因

予測対象種	影響要因	工事の実施に伴う影響			土地又は工作物の存在・供用				
		堤体等の 工事（掘 削含む） 及び工事 用道路等 の設置工 事の実施 に伴う保 全すべき 種の生息 地の改変 の程度	建設機 械の稼働 及び資材 運搬等の 車両の走 行に伴う 騒音によ る生息環 境への影 響の程度	堤体等の 工事（掘 削含む） 及び工事 用道路等 の設置工 事の実施 に伴う濁 水及びア ルカリ排 水の流出 等による 生息環 境への影 響の程度	調節池の 存在・供 用に伴う 保全すべ き種の生 息地の改 変の程度	調節池の 存在・供 用に伴う 河川の冠 水頻度の 変化によ る生息環 境の影響 の程度	調節池の 存在・供 用に伴う 地下水位 の変化に よる生息 環境の影 響の程度	調節池か らの放水 に伴う濁 水の流出 による生 息環境の 影響の程 度	
昆虫類	79	ミドリシジミ	●			●			
	80	アサマイチモンジ	●			●			
	81	スゲドクガ	●			●		●	
	82	コシロシタバ	●			●			
	83	イチモジヒメヨトウ	●			●		●	
	84	ハチモドキハナアブ	●			●			
	85	アリスアトキリゴミムシ	●			●		●	
	86	キベリマメゲンゴロウ	●		●	●		●	●
	87	マダラコガシラミズムシ	●		●	●		●	
	88	コガムシ	●		●	●		●	
	89	クナシリシジミガムシ	●		●	●		●	
	90	ムモンチャイロテントウ	●			●		●	
	91	モンズズメバチ	●			●			
92	クズハキリバチ	●			●				
魚類	93	キンブナ	●		●	●			●
	94	ドジョウ	●		●	●		●	●
	95	ホトケドジョウ	●		●	●		●	●
	96	ミナメダカ	●		●	●		●	●
底生動物	97	ナミウズムシ	●		●	●			●
	98	オオタニシ	●		●	●		●	●
	99	コシダカヒメモノアラガイ	●		●	●		●	●
	100	モノアラガイ	●		●	●		●	●
	101	カワコザラガイ	●		●	●		●	●
	102	ドブガイ	●		●	●		●	●
	103	ドブシジミ	●		●	●		●	●
	104	ババアメンボ	●		●	●		●	●
陸産貝類	105	ミジンヤマタニシ	●			●			
	106	コウフオカモノアラガイ	●		●	●		●	
	107	ナガオカモノアラガイ	●		●	●		●	
	108	スナガイ	●			●		●	
	109	ナタネキバサナギガイ	●			●		●	
	110	マルナタネガイ	●			●			
	111	ナミコギセル	●			●			
	112	ヒメハリマキビ	●			●			
	113	マルシトラガイ	●			●			
	114	ウメムラシトラガイ	●			●			
	115	オオウエキビ	●			●			
	116	トウキョウコオオベソマイマイ	●			●			



## (2) 予測方法

### 1) 予測の基本的な考え方

予測の基本的な考え方は、図 10.6-8 に示すインパクト・レスポンスフローのとおりである。

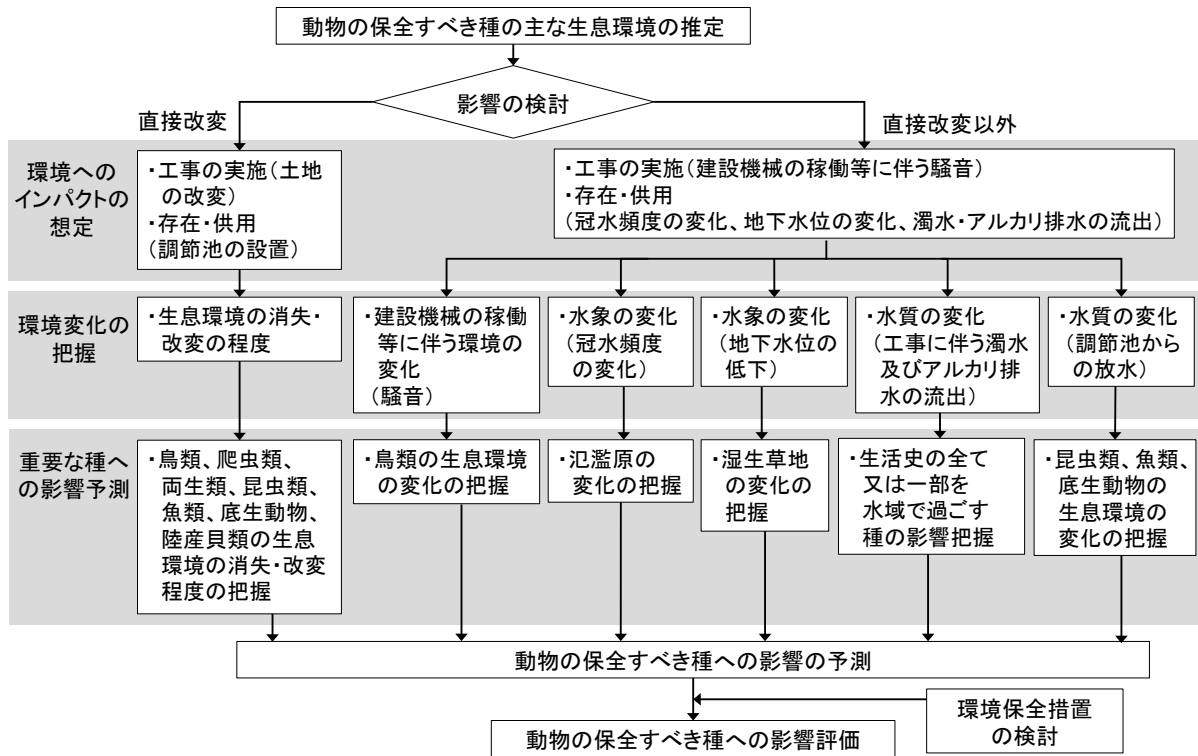


図 10.6-8 動物の影響予測に関するインパクト・レスポンスフロー

### 2) 予測対象種の主な生息環境の推定

予測対象種の生息環境の推定にあたっては、以下の方針に基づき検討した。

#### <予測対象種の生息環境の推定の考え方>

現地での確認状況（確認地点位置、確認地点の環境状況）を整理し、図鑑や学術文献等により予測対象種の生態特性（通常の生息場、食性、繁殖場等の繁殖生態等）の情報を抽出した。

上記で整理した情報を基に、環境ベースマップ（植生分布の状況）を作成した上で、予測地域においてその種が利用すると考えられる範囲（植生の類型区分の別）を推定した。

### 3) 予測の基本的な手法（工事の実施に伴う影響）

#### ① 堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度

予測にあたっては、事業計画における改変区域と保全すべき種の主な生息環境の重ね合わせにより、保全すべき種の生息環境への影響を予測した。

#### ② 建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境への影響の程度

予測にあたっては、「10.2 騒音」の工事中の騒音の予測結果等に基づき、生息環境の変化の程度を推定し、予測対象種への影響を予測した。

#### ③ 堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響の程度

予測にあたっては、「10.4 水質」の工事中の水質の予測結果等に基づき、生息環境の変化の程度を推定し、予測対象種への影響を予測した。

### 4) 予測の基本的な手法（土地又は工作物の存在・供用）

#### ① 調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度

予測にあたっては、事業計画における改変区域と保全すべき種の主な生息環境の重ね合わせにより、保全すべき種の生息環境への影響を予測した。

なお、「①堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度」と同様の方法とした。

② 調節池の存在・供用に伴う河川の冠水頻度の変化による生息環境の影響の程度

予測にあたっては、事業計画における事業実施区域内の冠水頻度の変化に基づき、生息環境の変化の程度を推定し、予測対象種への影響を予測した。

冠水頻度に係る予測条件は以下のとおりである。

(A) 予測条件

(a) 出水時の確率規模別の水位（距離別）

ア) 現況の水位

出水時の確率規模別の現況水位（距離別）は図 10.6-9 に示すとおりである。

30～42km では年超過確率 1/2～1/3、42～54km では年超過確率 1/5～1/10 程度の降雨で、高水敷に水が流入し冠水している。

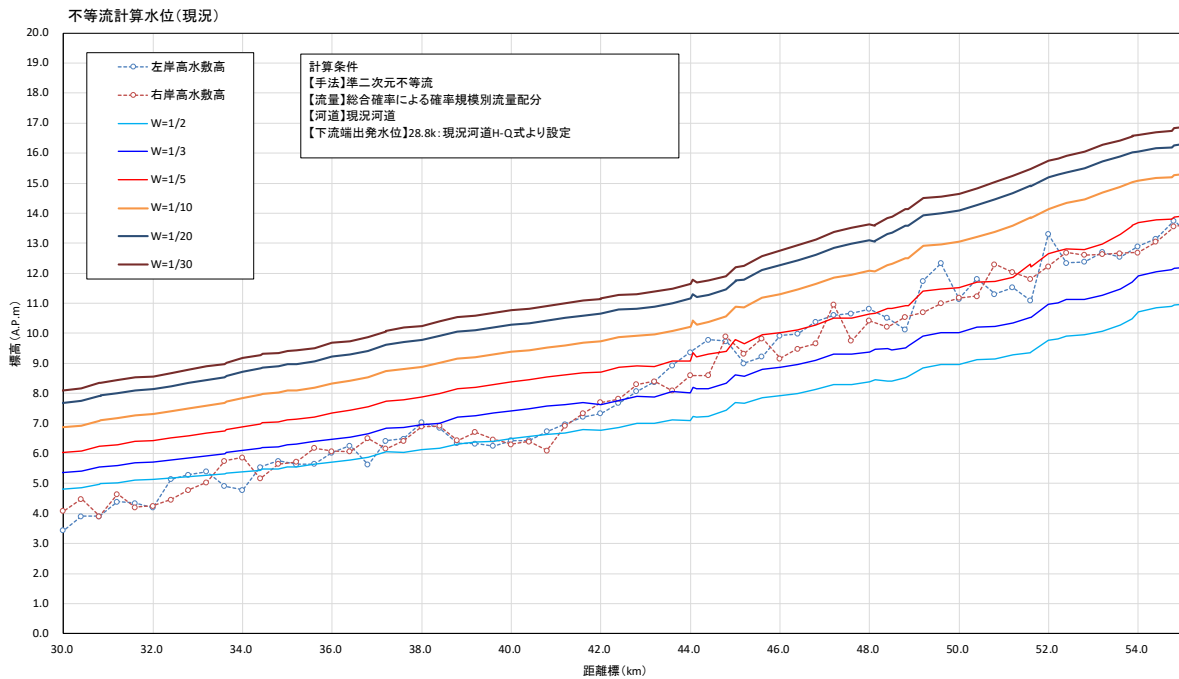


図 10.6-9 距離別の出水時の確率規模別の水位（現況）

## イ) 供用後の水位

事業計画による出水時の確率規模別の供用後の水位（距離別）は図 10.6-10 に示すとおりである。

調節池に一時貯留が開始されるまでの間は、囲繞堤の設置により、確率規模別の水位は現況と比較して、第二・三調節池の区間（37.2～48.0km）の平均で 0.33m 程度、最大で 0.69m 程度上昇すると予測された。

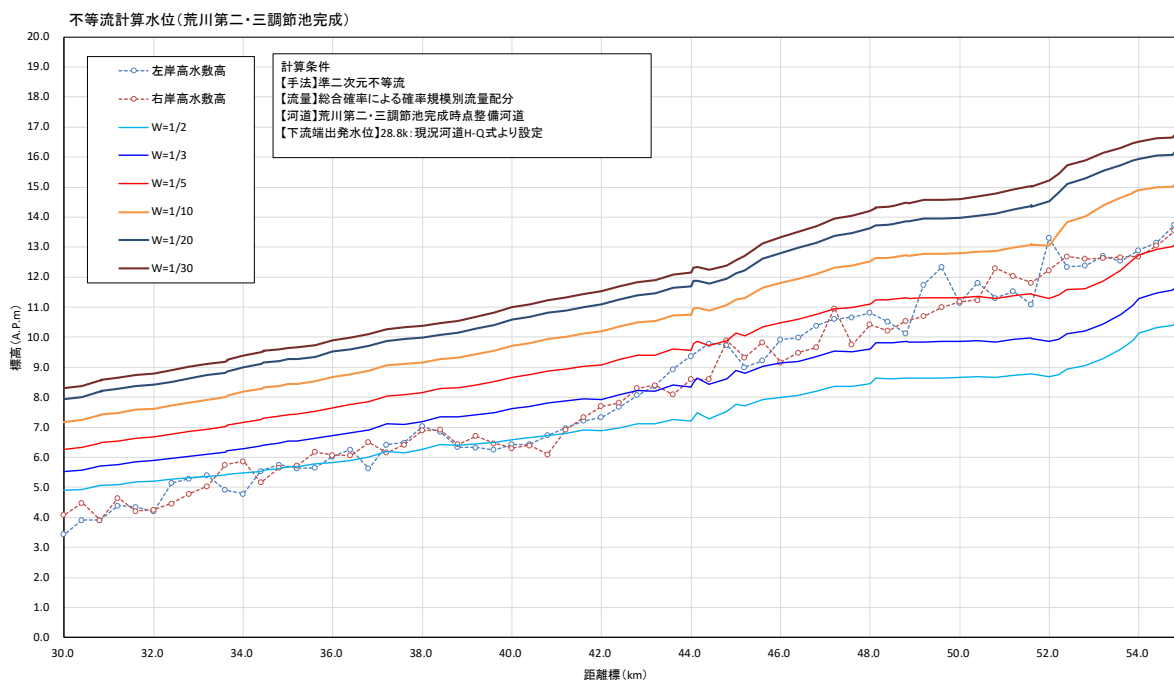


図 10.6-10 距離別の出水時の確率規模別の水位（供用後）

※年超過確率：毎年1年間にその規模を超える洪水が発生する確率。

例えば、年超過確率 1/20 とは、毎年1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が 1/20 (5%) であることを示す。

## (b) 高水敷の冠水頻度の変化

第二・第三調節池の高水敷の冠水頻度の変化の想定は図 10.6-11 に示すとおりである。

現況は、年超過確率 1/2～1/10 程度の洪水で冠水するのに対して、供用後は 1/10～1/20 程度の洪水で冠水すると想定されるが、1/2 程度の洪水では高水敷の湿性草地群落が生育するエリアは冠水しない区間が多く存在する。

このことから、現況の事業実施区域内の湿性草地群落の多くは、年に数回規模の頻繁な冠水や、出水に伴う攪乱を受けることで維持されている環境ではないと考えられた。

また、冠水頻度の減少に伴うハンノキ等の河畔林の壮齢樹化、河畔林の単純化等については、樹林の倒木等に至るような大規模攪乱の頻度は変わらないことから、影響は想定していない。

以上から、供用後に高水敷の冠水頻度が減少した場合でも動植物の生息環境の大きな変化は想定されないため、冠水頻度の変化に伴う影響検討を行う予測対象種は無しとした。

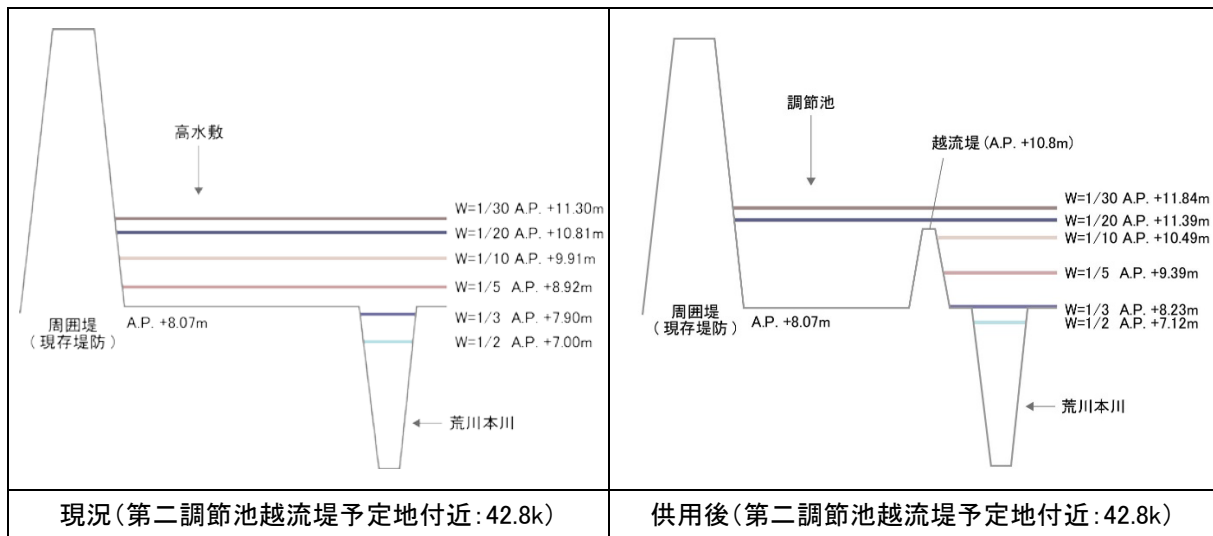


図 10.6-11(1) 冠水頻度の変化の想定 (第二調節池)

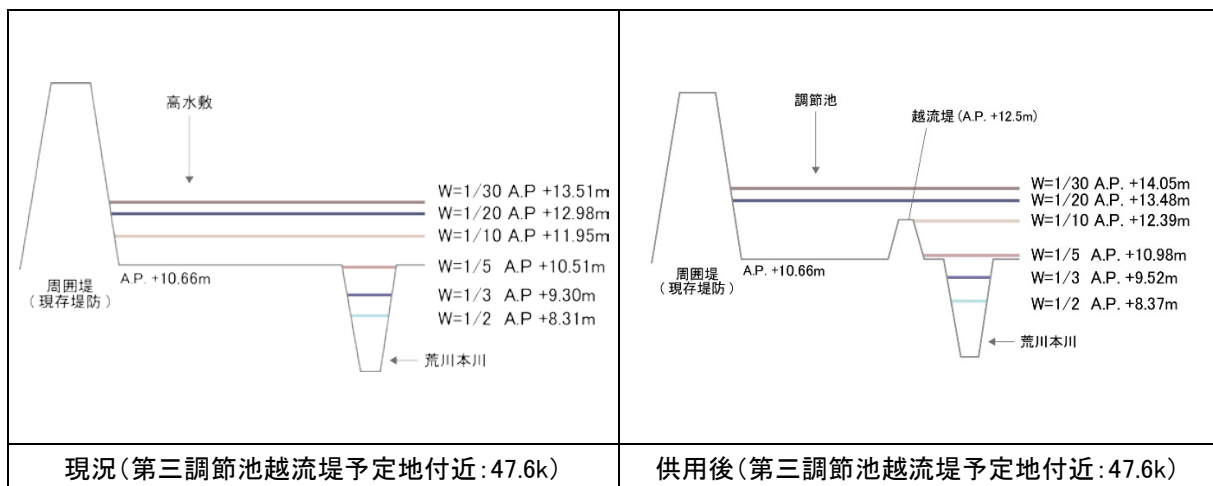


図 10.6-11(2) 冠水頻度の変化の想定 (第三調節池)

③ 調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度

予測にあたっては、「10.5 水象」の供用後の水象の予測結果等に基づき、生息環境の変化の程度を推定し、予測対象種への影響を予測した。

④ 調節池からの放水に伴う濁水の流出による生息環境の影響の程度

予測にあたっては、「10.4 水質」の供用後の水質の予測結果等に基づき、生息環境の変化の程度を推定し、予測対象種への影響を予測した。



### (3) 予測地域

予測地域は、対象事業の実施により、予測対象種が環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とし、調査計画書時点で地下水の水位低下の可能性が想定された範囲を包括した地域とした。

### (4) 予測対象時期

予測対象時期は、「工事の実施」については全ての改変区域が改変された状態である時期を想定した。「土地又は工作物の存在・供用」については、調節池の供用が定常状態となった時期とした。

## (5) 予測結果（鳥類）

### 1) クイナ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、湿性草地、水田と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-12 に示す。

#### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

#### ② 直接改変以外

【建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境への影響の程度】

騒音の予測結果から、対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境の変化が想定される。このことから、改変区域及びその周辺は本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

#### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし直接改変により改変される生息環境は予測地域の1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による影響は、建設機械の稼働時かつ稼働範囲の周辺のみ限定的な範囲であること、また、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、本種の生息は維持されると予測される。

地下水位の変化による生息環境への影響については、水田は灌漑が実施されること、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-12 クイナ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 2) ヒクイナ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、湿性草地、水田と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-13 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

【建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境への影響の程度】

騒音の予測結果から、対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境の変化が想定される。このことから、改変区域及びその周辺は本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生息環境は予測地域の 1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による影響は、建設機械の稼働時かつ稼働範囲の周辺のみ限定的な範囲であること、また、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、本種の生息は維持されると予測される。

地下水位の変化による生息環境への影響については、水田は灌漑が実施されること、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-13 ヒクイナ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果



### 3) バン

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、湿性草地、水田、本川・支川、池沼と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-14 に示す。

#### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

#### ② 直接改変以外

【建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境への影響の程度】

騒音の予測結果から、対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境の変化が想定される。このことから、改変区域及びその周辺は本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響の程度】

対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境の変化が想定される。

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

#### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生息環境は予測地域の1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による影響は、建設機械の稼働時かつ稼働

範囲の周辺のみ限定的な範囲であること、また、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、本種の生息は維持されると予測される。

工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響については、水質の予測結果を踏まえ、濁水及びアルカリ排水の流出はほとんど想定されないことから、濁水及びアルカリ排水の流出等による影響は小さいと予測される。

地下水位の変化による生息環境への影響については、水田は灌漑が実施されること、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-14 バン調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

#### 4) オオバン

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、湿性草地、水田、本川・支川、池沼と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-15 に示す。

##### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

##### ② 直接改変以外

【建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境への影響の程度】

騒音の予測結果から、対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境の変化が想定される。このことから、改変区域及びその周辺は本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響の程度】

対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境の変化が想定される。

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

##### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生息環境は予測地域の1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による影響は、建設機械の稼働時かつ稼働

範囲の周辺のみ限定的な範囲であること、また、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、本種の生息は維持されると予測される。

工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響については、水質の予測結果を踏まえ、濁水及びアルカリ排水の流出はほとんど想定されないことから、濁水及びアルカリ排水の流出等による影響は小さいと予測される。

地下水位の変化による生息環境への影響については、水田は灌漑が実施されること、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-15 オオバン調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 5) カンムリカイツブリ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、湿性草地、本川・支川、池沼と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-16 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、本川・支川、池沼の一部（2%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

【建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境への影響の程度】

騒音の予測結果から、対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境の変化が想定される。このことから、改変区域及びその周辺は本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響の程度】

対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境の変化が想定される。

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、本川・支川、池沼の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生息環境は予測地域の2%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による影響は、建設機械の稼働時かつ稼働



範囲の周辺のみ限定的な範囲であること、また、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、本種の生息は維持されると予測される。

工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響については、水質の予測結果を踏まえ、濁水及びアルカリ排水の流出はほとんど想定されないことから、濁水及びアルカリ排水の流出等による影響は小さいと予測される。

地下水位の変化による生息環境への影響については、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-16 カンムリカイツブリ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 6) アオバト

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-17 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと考えられる。

### ② 直接改変以外

【建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境への影響の程度】

騒音の予測結果から、対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境の変化が想定される。このことから、改変区域及びその周辺は本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による影響は、建設機械の稼働時かつ稼働範囲の周辺のみ限定的な範囲であること、また、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、本種の生息は維持されると予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-17 アオバト調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 7) ヨシゴイ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、湿性草地、水田と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-18 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

【建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境への影響の程度】

騒音の予測結果から、対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境の変化が想定される。このことから、改変区域及びその周辺は本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生息環境は予測地域の 1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による影響は、建設機械の稼働時かつ稼働範囲の周辺のみ限定的な範囲であること、また、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、本種の生息は維持されると予測される。

地下水位の変化による生息環境への影響については、水田は灌漑が実施されること、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-18 ヨシゴイ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 8) アマサギ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、乾性草地、畑、水田と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-19 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、乾性草地、畑、水田の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

【建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境への影響の程度】

騒音の予測結果から、対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境の変化が想定される。このことから、改変区域及びその周辺は本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、乾性草地、畑、水田の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生息環境は予測地域の1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による影響は、建設機械の稼働時かつ稼働範囲の周辺のみに限定的な範囲であること、また、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、本種の生息は維持されると予測される。



保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-19 アマサギ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 9) チュウサギ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、湿性草地、水田、本川・支川、池沼と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-20 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

【建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境への影響の程度】

騒音の予測結果から、対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境の変化が想定される。このことから、改変区域及びその周辺は本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響の程度】

対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境の変化が想定される。

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生息環境は予測地域の1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予想される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による影響は、建設機械の稼働時かつ稼働

範囲の周辺のみ限定的な範囲であること、また、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、本種の生息は維持されると予測される。

工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響については、水質の予測結果を踏まえ、濁水及びアルカリ排水の流出はほとんど想定されないことから、濁水及びアルカリ排水の流出等による影響は小さいと予測される。

地下水位の変化による生息環境への影響については、水田は灌漑が実施されること、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-20 チュウサギ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 10) コサギ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、湿性草地、水田、本川・支川、池沼と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-21 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

【建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境への影響の程度】

騒音の予測結果から、対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境の変化が想定される。このことから、改変区域及びその周辺は本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響の程度】

対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境の変化が想定される。

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生息環境は予測地域の1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予想される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による影響は、建設機械の稼働時かつ稼働

範囲の周辺のみ限定的な範囲であること、また、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、本種の生息は維持されると予測される。

工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響については、水質の予測結果を踏まえ、濁水及びアルカリ排水の流出はほとんど想定されないことから、濁水及びアルカリ排水の流出等による影響は小さいと予測される。

地下水位の変化による生息環境への影響については、水田は灌漑が実施されること、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-21 コサギ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果



## 11) ホトトギス

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、乾性草地、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、針葉樹林と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図10.6-22に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、乾性草地、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、針葉樹林の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

【建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境への影響の程度】

騒音の予測結果から、対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境の変化が想定される。このことから、改変区域及びその周辺は本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、乾性草地、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、針葉樹林の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生息環境は予測地域の1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による影響は、建設機械の稼働時かつ稼働範囲の周辺のみ限定的な範囲であること、また、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、本種の生息は維持されると予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-22 ホトトギス調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 12) カッコウ

既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、乾性草地、湿性草地、落葉広葉樹林と推定される。推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-23 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、乾性草地、湿性草地、落葉広葉樹林の一部（2%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

【建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境への影響の程度】

騒音の予測結果から、対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境の変化が想定される。このことから、改変区域及びその周辺は本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、乾性草地、湿性草地、落葉広葉樹林との一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生息環境は予測地域の2%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による影響は、建設機械の稼働時かつ稼働範囲の周辺のみに限定的な範囲であること、また、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、本種の生息は維持されると予測される。

地下水位の変化による生息環境への影響については、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-23 カッコウ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果（確認位置不明）

### 13) ヒメアマツバメ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、市街地、その他と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-24 に示す。

#### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、市街地、その他の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと考えられる。

#### ② 直接改変以外

【建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境への影響の程度】

騒音の予測結果から、対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境の変化が想定される。このことから、改変区域及びその周辺は本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

#### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、市街地、その他の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による影響は、建設機械の稼働時かつ稼働範囲の周辺のみ限定的な範囲であること、また、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、本種の生息は維持されると予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-24 ヒメアマツバメ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 14) タゲリ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、湿性草地、畑、水田と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-25 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、畑、水田の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

【建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境への影響の程度】

騒音の予測結果から、対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境の変化が想定される。このことから、改変区域及びその周辺は本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、畑、水田の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生息環境は予測地域の 1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による影響は、建設機械の稼働時かつ稼働範囲の周辺のみに限定的な範囲であること、また、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、本種の生息は維持されると予測される。

地下水位の変化による生息環境への影響については、水田は灌漑が実施されること、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。



保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-25 タゲリ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 15) ケリ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、乾性草地、湿性草地、畑、水田と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-26 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、乾性草地、湿性草地、畑、水田の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

【建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境への影響の程度】

騒音の予測結果から、対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境の変化が想定される。このことから、改変区域及びその周辺は本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、乾性草地、湿性草地、畑、水田の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生息環境は予測地域の1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による影響は、建設機械の稼働時かつ稼働範囲の周辺のみに限定的な範囲であること、また、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、本種の生息は維持されると予測される。

地下水位の変化による生息環境への影響については、水田は灌漑が実施されること、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-26 ケリ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 16) タシギ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、湿性草地、水田と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-27 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

【建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境への影響の程度】

騒音の予測結果から、対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境の変化が想定される。このことから、改変区域及びその周辺は本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生息環境は予測地域の 1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による影響は、建設機械の稼働時かつ稼働範囲の周辺のみ限定的な範囲であること、また、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、本種の生息は維持されると予測される。

地下水位の変化による生息環境への影響については、水田は灌漑が実施されること、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-27 タシギ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 17) トビ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、針葉樹林と推定される。

調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-28 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、針葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと考えられる。

### ② 直接改変以外

【建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境への影響の程度】

騒音の予測結果から、対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境の変化が想定される。このことから、改変区域及びその周辺は本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、針葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による影響は、建設機械の稼働時かつ稼働範囲の周辺のみ限定的な範囲であること、また、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、本種の生息は維持されると予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-28 トビ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 18) ハイタカ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、針葉樹林と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-29 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、針葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと考えられる。

### ② 直接改変以外

【建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境への影響の程度】

騒音の予測結果から、対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境の変化が想定される。このことから、改変区域及びその周辺は本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、針葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による影響は、建設機械の稼働時かつ稼働範囲の周辺のみ限定的な範囲であること、また、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、本種の生息は維持されると予測される。



保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-29 ハイタカ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 19) オオタカ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、針葉樹林と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-30 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、針葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと考えられる。

### ② 直接改変以外

【建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境への影響の程度】

騒音の予測結果から、対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境の変化が想定される。このことから、改変区域及びその周辺は本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、針葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による影響は、建設機械の稼働時かつ稼働範囲の周辺のみ限定的な範囲であること、また、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布すること、「10.8 生態系 10.8.3 予測（着目種）」の上位性陸域で示した予測結果から、本種の生息は維持されると予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-30 オオタカ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 20) サシバ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、針葉樹林と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-31 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、針葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと考えられる。

### ② 直接改変以外

【建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境への影響の程度】

騒音の予測結果から、対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境の変化が想定される。このことから、改変区域及びその周辺は本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、針葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による影響は、建設機械の稼働時かつ稼働範囲の周辺のみ限定的な範囲であること、また、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、本種の生息は維持されると予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-31 サシバ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 21) ノスリ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、針葉樹林と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-32 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、針葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと考えられる。

### ② 直接改変以外

【建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境への影響の程度】

騒音の予測結果から、対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境の変化が想定される。このことから、改変区域及びその周辺は本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、針葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による影響は、建設機械の稼働時かつ稼働範囲の周辺のみ限定的な範囲であること、また、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、本種の生息は維持されると予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-32 ノスリ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 22) フクロウ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、針葉樹林と推定される。

調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-33 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、針葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと考えられる。

### ② 直接改変以外

【建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境への影響の程度】

騒音の予測結果から、対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境の変化が想定される。このことから、改変区域及びその周辺は本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、針葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による影響は、建設機械の稼働時かつ稼働範囲の周辺のみ限定的な範囲であること、また、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、本種の生息は維持されると予測される。



保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-33 フクロウ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 23) カワセミ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、湿性草地、水田、本川・支川、池沼と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-34 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

【建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境への影響の程度】

騒音の予測結果から、対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境の変化が想定される。このことから、改変区域及びその周辺は本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響の程度】

対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境の変化が想定される。

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生息環境は予測地域の1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による影響は、建設機械の稼働時かつ稼働範囲の周辺のみ限定的な範囲であること、また、事業実施区域及びその周辺には本種

の主な生息環境が広く分布すること、「10.8 生態系 10.8.3 予測（着目種）」の上位性河川域で示した予測結果から、本種の生息は維持されると予測される。

工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響については、水質の予測結果を踏まえ、濁水及びアルカリ排水の流出はほとんど想定されないことから、濁水及びアルカリ排水の流出等による影響は小さいと予測される。

地下水位の変化による生息環境への影響については、水田は灌漑が実施されること、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-34 カワセミ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 24) アオゲラ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、落葉広葉樹林と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-35 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、落葉広葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと考えられる。

### ② 直接改変以外

【建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境への影響の程度】

騒音の予測結果から、対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境の変化が想定される。このことから、改変区域及びその周辺は本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、落葉広葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による影響は、建設機械の稼働時かつ稼働範囲の周辺のみ限定的な範囲であること、また、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、本種の生息は維持されると予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-35 アオゲラ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 25) チョウゲンボウ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、乾性草地、湿性草地、人工草地、畑、水田、市街地と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図10.6-36に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、乾性草地、湿性草地、人工草地、畑、水田、市街地の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと考えられる。

### ② 直接改変以外

【建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境への影響の程度】

騒音の予測結果から、対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境の変化が想定される。このことから、改変区域及びその周辺は本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、乾性草地、湿性草地、人工草地、畑、水田、市街地の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による影響は、建設機械の稼働時かつ稼働範囲の周辺のみ限定的な範囲であること、また、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、本種の生息は維持されると予測される。

地下水位の変化による生息環境への影響については、水田は灌漑が実施されること、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-36 チョウゲンボウ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果



## 26) ハヤブサ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、乾性草地、湿性草地、人工草地、畑、水田、市街地、池沼と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図10.6-37に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、乾性草地、湿性草地、人工草地、畑、水田、市街地、池沼の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと考えられる。

### ② 直接改変以外

【建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境への影響の程度】

騒音の予測結果から、対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境の変化が想定される。このことから、改変区域及びその周辺は本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、乾性草地、湿性草地、人工草地、畑、水田、市街地、池沼の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による影響は、建設機械の稼働時かつ稼働範囲の周辺のみ限定的な範囲であること、また、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、本種の生息は維持されると予測される。

地下水位の変化による生息環境への影響については、水田は灌漑が実施されること、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-37 ハヤブサ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 27) サンショウクイ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、落葉広葉樹林と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-38 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、落葉広葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと考えられる。

### ② 直接改変以外

【建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境への影響の程度】

騒音の予測結果から、対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境の変化が想定される。このことから、改変区域及びその周辺は本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、落葉広葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による影響は、建設機械の稼働時かつ稼働範囲の周辺のみ限定的な範囲であること、また、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、本種の生息は維持されると予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-38 サンショウクイ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 28) サンコウチョウ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、針葉樹林と推定される。

調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-39 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、針葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと考えられる。

### ② 直接改変以外

【建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境への影響の程度】

騒音の予測結果から、対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境の変化が想定される。このことから、改変区域及びその周辺は本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、針葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による影響は、建設機械の稼働時かつ稼働範囲の周辺のみ限定的な範囲であること、また、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、本種の生息は維持されると予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-39 サンコウチョウ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 29) ウグイス

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、乾性草地、湿性草地、人工草地、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、針葉樹林、竹林、植栽樹林と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-40 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち乾性草地、湿性草地、人工草地、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、針葉樹林、竹林、植栽樹林の一部（2%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

【建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境への影響の程度】

騒音の予測結果から、対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境の変化が想定される。このことから、改変区域及びその周辺は本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、乾性草地、湿性草地、人工草地、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、針葉樹林、竹林、植栽樹林の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生息環境は予測地域の 2%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による影響は、建設機械の稼働時かつ稼働範囲の周辺のみに限定的な範囲であること、また、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、本種の生息は維持されると予測される。

地下水位の変化による生息環境への影響については、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。



保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-40 ウグイス調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

### 30) オオヨシキリ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、湿性草地と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-41 に示す。

#### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地の一部（2%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

#### ② 直接改変以外

【建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境への影響の程度】

騒音の予測結果から、対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境の変化が想定される。このことから、改変区域及びその周辺は本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

#### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生息環境は予測地域の 2%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による影響は、建設機械の稼働時かつ稼働範囲の周辺のみ限定的な範囲であること、また、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、本種の生息は維持されると予測される。

地下水位の変化による生息環境への影響については、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-41 オオヨシキリ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

### 31) トラツグミ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、落葉広葉樹林と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-42 に示す。

#### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、落葉広葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと考えられる。

#### ② 直接改変以外

【建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境への影響の程度】

騒音の予測結果から、対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境の変化が想定される。このことから、改変区域及びその周辺は本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

#### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、落葉広葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による影響は、建設機械の稼働時かつ稼働範囲の周辺のみ限定的な範囲であること、また、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、本種の生息は維持されると予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-42 トラツグミ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 32) アカハラ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、落葉広葉樹林と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-43 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、落葉広葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと考えられる。

### ② 直接改変以外

【建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境への影響の程度】

騒音の予測結果から、対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境の変化が想定される。このことから、改変区域及びその周辺は本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、落葉広葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による影響は、建設機械の稼働時かつ稼働範囲の周辺のみ限定的な範囲であること、また、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、本種の生息は維持されると予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-43 アカハラ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

### 33) ルリビタキ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-44 に示す。

#### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと考えられる。

#### ② 直接改変以外

【建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境への影響の程度】

騒音の予測結果から、対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境の変化が想定される。このことから、改変区域及びその周辺は本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

#### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による影響は、建設機械の稼働時かつ稼働範囲の周辺のみ限定的な範囲であること、また、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、本種の生息は維持されると予測される。



保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-44 ルリビタキ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

### 34) キビタキ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、針葉樹林と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-45 示す。

#### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、針葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと考えられる。

#### ② 直接改変以外

【建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境への影響の程度】

騒音の予測結果から、対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境の変化が想定される。このことから、改変区域及びその周辺は本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

#### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、針葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による影響は、建設機械の稼働時かつ稼働範囲の周辺のみ限定的な範囲であること、また、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、本種の生息は維持されると予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-45 キビタキ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

### 35) ベニマシコ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、湿性草地、落葉広葉樹林と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-46 に示す。

#### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、落葉広葉樹林の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

#### ② 直接改変以外

【建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境への影響の程度】

騒音の予測結果から、対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境の変化が想定される。このことから、改変区域及びその周辺は本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

#### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、落葉広葉樹林の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生息環境は予測地域の 1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による影響は、建設機械の稼働時かつ稼働範囲の周辺のみに限定的な範囲であること、また、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、本種の生息は維持されると予測される。

地下水位の変化による生息環境への影響については、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-46 ベニマシコ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 36) ホオジロ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、乾性草地、湿性草地、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、針葉樹林、竹林、植栽樹林、果樹園と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-47 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、乾性草地、湿性草地、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、針葉樹林、竹林、植栽樹林、果樹園の一部（2%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

【建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境への影響の程度】

騒音の予測結果から、対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境の変化が想定される。このことから、改変区域及びその周辺は本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、乾性草地、湿性草地、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、針葉樹林、竹林、植栽樹林、果樹園の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生息環境は予測地域の 2%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による影響は、建設機械の稼働時かつ稼働範囲の周辺のみに限定的な範囲であること、また、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、本種の生息は維持されると予測される。

地下水位の変化による生息環境への影響については、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-47 ホオジロ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果



### 37) アオジ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、乾性草地、湿性草地、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、針葉樹林、竹林、植栽樹林、果樹園と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-48 に示す。

#### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、乾性草地、湿性草地、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、針葉樹林、竹林、植栽樹林、果樹園の一部（2%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

#### ② 直接改変以外

【建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境への影響の程度】

騒音の予測結果から、対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境の変化が想定される。このことから、改変区域及びその周辺は本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

#### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、乾性草地、湿性草地、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、針葉樹林、竹林、植栽樹林、果樹園の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生息環境は予測地域の 2%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による影響は、建設機械の稼働時かつ稼働範囲の周辺のみに限定的な範囲であること、また、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、本種の生息は維持されると予測される。

地下水位の変化による生息環境への影響については、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-48 アオジ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

### 38) クロジ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-49 に示す。

#### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと考えられる。

#### ② 直接改変以外

【建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境への影響の程度】

騒音の予測結果から、対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による生息環境の変化が想定される。このことから、改変区域及びその周辺は本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

#### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う騒音による影響は、建設機械の稼働時かつ稼働範囲の周辺のみ限定的な範囲であること、また、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、本種の生息は維持されると予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-49 クロジ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## (6) 予測結果（爬虫類）

### 1) ニホンイシガメ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、湿性草地、水田、本川・支川、池沼と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-50 に示す。

#### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

#### ② 直接改変以外

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響の程度】

対象事業の実施に伴い、工事区域及びその近傍では濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境の変化が想定される。このことから、これらの区域は本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

#### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生息環境は予測地域の1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響については、水質の予測結果を踏まえ、濁水及びアルカリ排水の流出はほとんど想定されないことから、濁水及びアルカリ排水の流出等による影響は小さいと予測される。

地下水位の変化による生息環境への影響については、水田は灌漑が実施されること、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-50 ニホンイシガメ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果



## 2) ニホンスッポン

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、湿性草地、水田、本川・支川、池沼と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-51 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事中道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事中道路等の設置工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響の程度】

対象事業の実施に伴い、工事区域及びその近傍では濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境の変化が想定される。このことから、これらの区域は本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生息環境は予測地域の1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響については、水質の予測結果を踏まえ、濁水及びアルカリ排水の流出はほとんど想定されないことから、濁水及びアルカリ排水の流出等による影響は小さいと予測される。

地下水位の変化による生息環境への影響については、水田は灌漑が実施されること、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-51 ニホンスッポン調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

### 3) ヒガシニホントカゲ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、乾性草地、湿性草地、人工草地、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、針葉樹林、竹林、植栽樹林、果樹園、畑、水田と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-52 に示す。

#### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち乾性草地、湿性草地、人工草地、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、針葉樹林、竹林、植栽樹林、果樹園、畑、水田の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

#### ② 直接改変以外

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

#### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、乾性草地、湿性草地、人工草地、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、針葉樹林、竹林、植栽樹林、果樹園、畑、水田の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生息環境は予測地域の1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、地下水位の変化による生息環境への影響については、水田は灌漑が実施されること、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-52 ヒガシニホントカゲ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

#### 4) ニホンカナヘビ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、乾性草地、湿性草地、人工草地、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、針葉樹林、竹林、植栽樹林、果樹園、畑、水田と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-53 に示す。

##### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち乾性草地、湿性草地、人工草地、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、針葉樹林、竹林、植栽樹林、果樹園、畑、水田の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

##### ② 直接改変以外

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

##### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、乾性草地、湿性草地、人工草地、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、針葉樹林、竹林、植栽樹林、果樹園、畑、水田の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生息環境は予測地域の1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、地下水位の変化による生息環境への影響については、水田は灌漑が実施されること、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-53 ニホンカナヘビ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 5) シマヘビ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、乾性草地、湿性草地、人工草地、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、針葉樹林、竹林、植栽樹林、果樹園、畑、水田と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-54 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち乾性草地、湿性草地、人工草地、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、針葉樹林、竹林、植栽樹林、果樹園、畑、水田の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、乾性草地、湿性草地、人工草地、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、針葉樹林、竹林、植栽樹林、果樹園、畑、水田の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生息環境は予測地域の1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、地下水位の変化による生息環境への影響については、水田は灌漑が実施されること、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-54 シマヘビ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果



## 6) アオダイショウ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、乾性草地、湿性草地、人工草地、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、針葉樹林、竹林、植栽樹林、果樹園、畑、水田と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-55 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち乾性草地、湿性草地、人工草地、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、針葉樹林、竹林、植栽樹林、果樹園、畑、水田の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、乾性草地、湿性草地、人工草地、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、針葉樹林、竹林、植栽樹林、果樹園、畑、水田の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生息環境は予測地域の1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、地下水位の変化による生息環境への影響については、水田は灌漑が実施されること、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-55 アオダイショウ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 7) ジムグリ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、針葉樹林、竹林、植栽樹林と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-56 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、針葉樹林、竹林、植栽樹林の一部（3%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

直接改変以外の影響は想定されない。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、針葉樹林、竹林、植栽樹林の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生息環境は予測地域の3%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響については想定されない。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-56 ジムグリ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 8) シロマダラ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、針葉樹林、竹林、植栽樹林と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-57 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、針葉樹林、竹林、植栽樹林の一部（3%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると予測される。

### ② 直接改変以外

直接改変以外の影響は想定されない。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、針葉樹林、竹林、植栽樹林の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生息環境は予測地域の3%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと考えられる。

また、直接改変以外の影響については想定されない。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-57 シロマダラ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 9) ヒバカリ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、乾性草地、湿性草地、人工草地、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、針葉樹林、竹林、植栽樹林、果樹園、畑、水田と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-58 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち乾性草地、湿性草地、人工草地、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、針葉樹林、竹林、植栽樹林、果樹園、畑、水田の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、乾性草地、湿性草地、人工草地、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、針葉樹林、竹林、植栽樹林、果樹園、畑、水田の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生息環境は予測地域の1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、地下水位の変化による生息環境への影響については、水田は灌漑が実施されること、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-58 ヒバカリ査結果と事業計画の重ね合わせ結果



## 10) ヤマカガシ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、乾性草地、湿性草地、人工草地、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、針葉樹林、竹林、植栽樹林、果樹園、畑、水田と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-59 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち乾性草地、湿性草地、人工草地、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、針葉樹林、竹林、植栽樹林、果樹園、畑、水田の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、乾性草地、湿性草地、人工草地、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、針葉樹林、竹林、植栽樹林、果樹園、畑、水田の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生息環境は予測地域の1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、地下水位の変化による生息環境への影響については、水田は灌漑が実施されること、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-59 ヤマカガシ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 11) ニホンマムシ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、乾性草地、湿性草地、人工草地、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、針葉樹林、竹林、植栽樹林、果樹園、畑、水田と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-60 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち乾性草地、湿性草地、人工草地、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、針葉樹林、竹林、植栽樹林、果樹園、畑、水田の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、乾性草地、湿性草地、人工草地、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、針葉樹林、竹林、植栽樹林、果樹園、畑、水田の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生息環境は予測地域の1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、地下水位の変化による生息環境への影響については、水田は灌漑が実施されること、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-60 ニホンマムシ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## (7) 予測結果（両生類）

### 1) ニホンアカガエル

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、湿性草地、落葉広葉樹林、水田、池沼と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-61 に示す。

#### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、落葉広葉樹林、水田、池沼の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

#### ② 直接改変以外

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

#### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、落葉広葉樹林、水田、池沼の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生息環境は予測地域の1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、地下水位の変化による生息環境への影響については、水田は灌漑が実施されること、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-61 ニホンアカガエル調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 2) トウキョウダルマガエル

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、湿性草地、水田、池沼と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-62 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、池沼の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、池沼の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生息環境は予測地域の1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、地下水位の変化による生息環境への影響については、水田は灌漑が実施されること、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-62 トウキョウダルマガエル調査結果と事業計画の重ね合わせ結果



### 3) シュレーゲルアオガエル

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、湿性草地、水田、池沼と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-63 に示す。

#### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、池沼の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

#### ② 直接改変以外

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

#### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、池沼の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

また、直接改変以外の影響により、改変区域及びその近傍は、本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。しかし、直接改変により改変される生息環境は予測地域の1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、地下水位の変化による生息環境への影響については、水田は灌漑が実施されること、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-63 シュレーゲルアオガエル調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## (8) 予測結果（昆虫類）

### 1) アカツキシロカゲロウ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、本川・支川と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-64 に示す。

#### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、本川・支川の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと考えられる。

#### ② 直接改変以外

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響の程度】

対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境の変化が想定される。

【調節池からの放水に伴う濁水の流出による生息環境の影響の程度】

対象事業の実施に伴い、本川では調節池からの放水に伴う濁水の流出による生息環境の影響が想定される。

#### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、本川・支川の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響については、水質の予測結果を踏まえ、濁水及びアルカリ排水の流出はほとんど想定されないことから、濁水及びアルカリ排水の流出等による影響は小さいと予測される。

調節池からの放水に伴う濁水の流出による生息環境への影響については、水質の予測結果から放水される濁水の浮遊物質量は流入時とほとんど変わらないことから、放水に伴う濁水の流出による本種への影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

## 2) キイトンボ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、湿性草地、水田、本川・支川、池沼と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-65 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響の程度】

対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境の変化が想定される。

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生育環境は予測地域の1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響については、水質の予測結果を踏まえ、濁水及びアルカリ排水の流出はほとんど想定されないことから、濁水及びアルカリ排水の流出等による影響は小さいと予測される。

地下水位の変化による生息環境への影響については、水田は灌漑が実施されること、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-65 キイトンボ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

### 3) アオヤンマ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、湿性草地、本川・支川、池沼と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-66 に示す。

#### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、本川・支川、池沼の一部（2%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

#### ② 直接改変以外

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響の程度】

対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境の変化が想定される。

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

#### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、本川・支川、池沼の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生育環境は予測地域の2%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響については、水質の予測結果を踏まえ、濁水及びアルカリ排水の流出はほとんど想定されないことから、濁水及びアルカリ排水の流出等による影響は小さいと予測される。

地下水位の変化による生息環境への影響については、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-66 アオヤンマ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果



#### 4) サラサヤンマ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、湿性草地、池沼と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-67 に示す。

##### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、池沼の一部（3%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

##### ② 直接改変以外

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

##### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、池沼の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生育環境は予測地域の 3%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、地下水位の変化による生息環境への影響については、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-67 サラサヤンマ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 5) ハラビロトンボ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、湿性草地、水田、本川・支川、池沼と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-68 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響の程度】

対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境の変化が想定される。

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生育環境は予測地域の1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響については、水質の予測結果を踏まえ、濁水及びアルカリ排水の流出はほとんど想定されないことから、濁水及びアルカリ排水の流出等による影響は小さいと予測される。

地下水位の変化による生息環境への影響については、水田は灌漑が実施されること、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-68 ハラビロトンボ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 6) キバネハサミムシ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、乾性草地、湿性草地、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、畑、水田と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-69 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、乾性草地、湿性草地、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、畑、水田の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、乾性草地、湿性草地、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、畑、水田の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生育環境は予測地域の1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、地下水位の変化による生息環境への影響については、水田は灌漑が実施されること、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-69 キバネハサミムシ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 7) クギヌキハサミムシ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、乾性草地、湿性草地、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、畑、水田と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-70 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、乾性草地、湿性草地、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、畑、水田の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、乾性草地、湿性草地、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林、畑、水田の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生育環境は予測地域の1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、地下水位の変化による生息環境への影響については、水田は灌漑が実施されること、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-70 クギヌキハサミムシ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果



## 8) ヒガシキリギリス

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、乾性草地と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-71 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、乾性草地の一部（2%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

直接改変以外の影響は想定されない。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、乾性草地の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生育環境は予測地域の 2%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響については想定されない。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-71 ヒガシキリギリス調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 9) ヒサゴクサキリ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、乾性草地、竹林と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-72 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、乾性草地、竹林の一部（2%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

直接改変以外の影響は想定されない。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、乾性草地、竹林の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生育環境は予測地域の 2%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響については想定されない。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-72 ヒサゴクサキリ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果（確認位置不明）

## 10) クマコオロギ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、湿性草地、畑、水田と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-73 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、畑、水田の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、畑、水田の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生育環境は予測地域の1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、地下水位の変化による生息環境への影響については、水田は灌漑が実施されること、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-73 クマコオロギ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 11) クルマバッタ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、乾性草地、湿性草地と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-74 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、乾性草地、湿性草地の一部（2%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、乾性草地、湿性草地の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生育環境は予測地域の2%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、地下水位の変化による生息環境への影響については、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-74 クルマバッタ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果



## 12) ヒナバタ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、乾性草地、湿性草地と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-75 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、乾性草地、湿性草地の一部（2%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、乾性草地、湿性草地の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生育環境は予測地域の2%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、地下水位の変化による生息環境への影響については、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-75 ヒナバッタ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

### 13) ショウリョウバッタモドキ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、乾性草地、湿性草地と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-76 に示す。

#### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、乾性草地、湿性草地の一部（2%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

#### ② 直接改変以外

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

#### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、乾性草地、湿性草地の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生育環境は予測地域の2%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、地下水位の変化による生息環境への影響については、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-76 ショウリョウバッターモドキ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 14) ハネナガイナゴ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、湿性草地、水田と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-77 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち湿性草地、水田の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生育環境は予測地域の 1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、地下水位の変化による生息環境への影響については、水田は灌漑が実施されること、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-77 ハネナガイナゴ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 15) ビロウドサシガメ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、乾性草地、湿性草地、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図10.6-78に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち乾性草地、湿性草地、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林の一部（2%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、乾性草地、湿性草地、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生育環境は予測地域の2%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、地下水位の変化による生息環境への影響については、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-78 ビロウドサシガメ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果



## 16) キイロサシガメ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、湿性草地と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-79 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち湿性草地の一部（2%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生育環境は予測地域の 2%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、地下水位の変化による生息環境への影響については、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-79 キイロサシガメ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 17) リンゴクロカスミカメ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、落葉広葉樹林と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-80 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、落葉広葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと予測される。

### ② 直接改変以外

直接改変以外の影響は想定されない。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、落葉広葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと考えられる。

また、直接改変以外の影響については想定されない。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-80 リンゴクロカスミカメ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 18) ヒメナガメ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、乾性草地、畑と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-81 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち乾性草地、畑の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

直接改変以外の影響は想定されない。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、乾性草地、畑の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生育環境は予測地域の 1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響については想定されない。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-81 ヒメナガメ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 19) オオアメンボ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、湿性草地、本川・支川、池沼と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-82 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、本川・支川、池沼の一部（2%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響の程度】

対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境の変化が想定される。

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、本川・支川、池沼の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生育環境は予測地域の2%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響については、水質の予測結果を踏まえ、濁水及びアルカリ排水の流出はほとんど想定されないことから、濁水及びアルカリ排水の流出等による影響は小さいと予測される。

地下水位の変化による生息環境への影響については、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-82 オオアメンボ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果



## 20) エサキアメンボ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、湿性草地、水田、本川・支川、池沼と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-83 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響の程度】

対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境の変化が想定される。

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生育環境は予測地域の1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響については、水質の予測結果を踏まえ、濁水及びアルカリ排水の流出はほとんど想定されないことから、濁水及びアルカリ排水の流出等による影響は小さいと予測される。

地下水位の変化による生息環境への影響については、水田は灌漑が実施されること、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-83 エサキアメンボ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 21) モンシロミズギワカメムシ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、湿性草地、水田、本川・支川、池沼と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-84 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響の程度】

対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境の変化が想定される。

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生育環境は予測地域の1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響については、水質の予測結果を踏まえ、濁水及びアルカリ排水の流出はほとんど想定されないことから、濁水及びアルカリ排水の流出等による影響は小さいと予測される。

地下水位の変化による生息環境への影響については、水田は灌漑が実施されること、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-84 モンシロミズギワカメムシ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 22) ミゾナシミズムシ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、湿性草地、水田、本川・支川、池沼と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-85 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響の程度】

対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境の変化が想定される。

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生育環境は予測地域の1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響については、水質の予測結果を踏まえ、濁水及びアルカリ排水の流出はほとんど想定されないことから、濁水及びアルカリ排水の流出等による影響は小さいと予測される。

地下水位の変化による生息環境への影響については、水田は灌漑が実施されること、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-85 ミゾナシミズムシ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 23) エノキカイガラキジラミ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、落葉広葉樹林と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-86 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、落葉広葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと考えられる。

### ② 直接改変以外

直接改変以外の影響は想定されない。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、落葉広葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響については想定されない。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-86 エノキカイガラキジラミ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果



## 24) ハイイロボクトウ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、湿性草地と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-87 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち湿性草地の一部（2%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生育環境は予測地域の 2%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、地下水位の変化による生息環境への影響については、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-87 ハイイロボクトウ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 25) ギンイチモンジセセリ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、乾性草地、湿性草地と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-88 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち乾性草地、湿性草地の一部（2%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、乾性草地、湿性草地の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生育環境は予測地域の2%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、地下水位の変化による生息環境への影響については、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-88 ギンイチモンジセセリ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 26) コチャバナセセリ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、乾性草地と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-89 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち乾性草地の一部（2%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

直接改変以外の影響は想定されない。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、乾性草地の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生育環境は予測地域の 2%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響については想定されない。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-89 コチャバネセセリ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果（確認位置不明）

## 27) ミドリシジミ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、落葉広葉樹林と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-90 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、落葉広葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと考えられる。

### ② 直接改変以外

直接改変以外の影響は想定されない。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、落葉広葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響については想定されない。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-90 ミドリシジミ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果



## 28) アサマイチモンジ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、乾性草地、落葉広葉樹林と推定される。

調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-91 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち乾性草地、落葉広葉樹林の一部（2%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

直接改変以外の影響は想定されない。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、乾性草地、落葉広葉樹林の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生育環境は予測地域の 2%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響については想定されない。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-91 アサマイチモンジ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 29) スゲドクガ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、湿性草地と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-92 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち湿性草地の一部（2%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生育環境は予測地域の 2%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、地下水位の変化による生息環境への影響については、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-92 スゲドクガ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

### 30) コシロシタバ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、落葉広葉樹林と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-93 に示す。

#### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、落葉広葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと考えられる。

#### ② 直接改変以外

直接改変以外の影響は想定されない。

#### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、落葉広葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響については想定されない。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

### 31) イチモジヒメヨトウ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、湿性草地と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-94 に示す。

#### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち湿性草地の一部（2%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

#### ② 直接改変以外

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

#### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生育環境は予測地域の 2%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、地下水位の変化による生息環境への影響については、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-94 イチモジヒメヨトウ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果



### 32) ハチモドキハナアブ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、落葉広葉樹林と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-95 に示す。

#### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、落葉広葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと考えられる。

#### ② 接改変以外

直接改変以外の影響は想定されない。

#### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、落葉広葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響については想定されない。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-95 ハチモドキハナアブ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

### 33) アリスアトキリゴミムシ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、乾性草地、湿性草地と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-96 に示す。

#### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち乾性草地、湿性草地の一部（2%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

#### ② 直接改変以外

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

#### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、乾性草地、湿性草地の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生育環境は予測地域の2%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、地下水位の変化による生息環境への影響については、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-96 アリスアトキリゴミムシ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

### 34) キベリマメゲンゴロウ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、湿性草地、水田、本川・支川、池沼と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-97 に示す。

#### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

#### ② 直接改変以外

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響の程度】

対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境の変化が想定される。

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

【調節池からの放水に伴う濁水の流出による生息環境の影響の程度】

対象事業の実施に伴い、本川では調節池からの放水に伴う濁水の流出による生息環境の影響が想定される。

#### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生育環境は予測地域の1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響については、水質の予測結果を踏まえ、濁水及びアルカリ排水の流出はほとんど想定されないことから、濁水及びアルカリ排水の流出等による影響は小さいと予測される。

地下水位の変化による生息環境への影響については、水田は灌漑が実施されること、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種

の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

調節池からの放水に伴う濁水の流出による生息環境への影響については、水質の予測結果から放水される濁水の浮遊物質量は流入時とほとんど変わらないことから、放水に伴う濁水の流出による本種への影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-97 キベリマメゲンゴロウ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

### 35) マダラコガシラミズムシ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、湿性草地、水田、本川・支川、池沼と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-98 に示す。

#### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

#### ② 直接改変以外

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響の程度】

対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境の変化が想定される。

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

#### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生育環境は予測地域の1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響については、水質の予測結果を踏まえ、濁水及びアルカリ排水の流出はほとんど想定されないことから、濁水及びアルカリ排水の流出等による影響は小さいと予測される。

地下水位の変化による生息環境への影響については、水田は灌漑が実施されること、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。



保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-98 マダラコガシラミズムシ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 36) コガムシ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、湿性草地、水田、本川・支川、池沼と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-99 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響の程度】

対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境の変化が想定される。

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生育環境は予測地域の1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響については、水質の予測結果を踏まえ、濁水及びアルカリ排水の流出はほとんど想定されないことから、濁水及びアルカリ排水の流出等による影響は小さいと予測される。

地下水位の変化による生息環境への影響については、水田は灌漑が実施されること、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-99 コガムシ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

### 37) クナシリシジミガムシ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、湿性草地、水田、本川・支川、池沼と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-100 に示す。

#### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

#### ② 直接改変以外

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響の程度】

対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境の変化が想定される。

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

#### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生育環境は予測地域の1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響については、水質の予測結果を踏まえ、濁水及びアルカリ排水の流出はほとんど想定されないことから、濁水及びアルカリ排水の流出等による影響は小さいと予測される。

地下水位の変化による生息環境への影響については、水田は灌漑が実施されること、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-100 クナシリシジミガムシ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果（確認位置不明）

### 38) ムモンチャイロテントウ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、湿性草地と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-101 に示す。

#### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち湿性草地の一部（2%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

#### ② 直接改変以外

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

#### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生育環境は予測地域の 2%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、地下水位の変化による生息環境への影響については、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-101 ムモンチャイロテントウ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

### 39) モンスズメバチ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-102 に示す。

#### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと考えられる。

#### ② 直接改変以外

直接改変以外の影響は想定されない。

#### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響については想定されない。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。



保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-102 モンスズメバチ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

#### 40) クズハキリバチ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、乾性草地と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-103 に示す。

##### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、乾性草地の一部（2%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

##### ② 直接改変以外

直接改変以外の影響は想定されない。

##### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、乾性草地の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生育環境は予測地域の 2%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。また、直接改変以外の影響については想定されない。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-103 クズハキリバチ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## (9) 予測結果（魚類）

### 1) キンブナ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、水田、本川・支川、池沼と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-104 に示す。

#### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、水田、本川・支川、池沼の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

#### ② 直接改変以外

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響の程度】

対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境の変化が想定される。

【調節池からの放水に伴う濁水の流出による生息環境の影響の程度】

対象事業の実施に伴い、本川では調節池からの放水に伴う濁水の流出による生息環境の影響が想定される。

#### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、水田、本川・支川、池沼の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生育環境は予測地域の 1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響については、水質の予測結果を踏まえ、濁水及びアルカリ排水の流出はほとんど想定されないことから、濁水及びアルカリ排水の流出等による影響は小さいと予測される。

調節池からの放水に伴う濁水の流出による生息環境への影響については、水質の予測結果から放水される濁水の浮遊物質量は流入時とほとんど変わらないことから、放水に伴う濁水の流出による本種への影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

## 2) ドジョウ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、湿性草地、水田、本川・支川、池沼と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-105 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響の程度】

対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境の変化が想定される。

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

【調節池からの放水に伴う濁水の流出による生息環境の影響の程度】

対象事業の実施に伴い、本川では調節池からの放水に伴う濁水の流出による生息環境の影響が想定される。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生育環境は予測地域の1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響については、水質の予測結果を踏まえ、濁水及びアルカリ排水の流出はほとんど想定されないことから、濁水及びアルカリ排水の流出等による影響は小さいと予測される。

地下水位の変化による生息環境への影響については、水田は灌漑が実施されること、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種

の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

調節池からの放水に伴う濁水の流出による生息環境への影響については、水質の予測結果から放水される濁水の浮遊物質量は流入時とほとんど変わらないことから、放水に伴う濁水の流出による本種への影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。



### 3) ホトケドジョウ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、湿性草地、水田、本川・支川、池沼と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-106 に示す。

#### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

#### ② 直接改変以外

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響の程度】

対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境の変化が想定される。

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

【調節池からの放水に伴う濁水の流出による生息環境の影響の程度】

対象事業の実施に伴い、本川では調節池からの放水に伴う濁水の流出による生息環境の影響が想定される。

#### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生育環境は予測地域の1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響については、水質の予測結果を踏まえ、濁水及びアルカリ排水の流出はほとんど想定されないことから、濁水及びアルカリ排水の流出等による影響は小さいと予測される。

地下水位の変化による生息環境への影響については、水田は灌漑が実施されること、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種

の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

調節池からの放水に伴う濁水の流出による生息環境への影響については、水質の予測結果から放水される濁水の浮遊物質量は流入時とほとんど変わらないことから、放水に伴う濁水の流出による本種への影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-106 ホトケドジョウ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

#### 4) ミナミメダカ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、湿性草地、水田、本川・支川、池沼と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-107 に示す。

##### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

##### ② 直接改変以外

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響の程度】

対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境の変化が想定される。

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

【調節池からの放水に伴う濁水の流出による生息環境の影響の程度】

対象事業の実施に伴い、本川では調節池からの放水に伴う濁水の流出による生息環境の影響が想定される。

##### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生育環境は予測地域の1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響については、水質の予測結果を踏まえ、濁水及びアルカリ排水の流出はほとんど想定されないことから、濁水及びアルカリ排水の流出等による影響は小さいと予測される。

地下水位の変化による生息環境への影響については、水田は灌漑が実施されること、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種

の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

調節池からの放水に伴う濁水の流出による生息環境への影響については、水質の予測結果から放水される濁水の浮遊物質量は流入時とほとんど変わらないことから、放水に伴う濁水の流出による本種への影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-107 ミナミメダカ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## (10) 予測結果（底生動物）

### 1) ナミウズムシ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、本川・支川と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10. 6-108 に示す。

#### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、本川・支川の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと考えられる。

#### ② 直接改変以外

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響の程度】

対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境の変化が想定される。

【調節池からの放水に伴う濁水の流出による生息環境の影響の程度】

対象事業の実施に伴い、本川では調節池からの放水に伴う濁水の流出による生息環境の影響が想定される。

#### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、本川・支川の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響については、水質の予測結果を踏まえ、濁水及びアルカリ排水の流出はほとんど想定されないことから、濁水及びアルカリ排水の流出等による影響は小さいと予測される。

調節池からの放水に伴う濁水の流出による生息環境への影響については、水質の予測結果から放水される濁水の浮遊物質量は流入時とほとんど変わらないことから、放水に伴う濁水の流出による本種への影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。



## 2) オオタニシ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、湿性草地、水田、本川・支川、池沼と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-109 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響の程度】

対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境の変化が想定される。

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

【調節池からの放水に伴う濁水の流出による生息環境の影響の程度】

対象事業の実施に伴い、本川では調節池からの放水に伴う濁水の流出による生息環境の影響が想定される。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生育環境は予測地域の1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響については、水質の予測結果を踏まえ、濁水及びアルカリ排水の流出はほとんど想定されないことから、濁水及びアルカリ排水の流出等による影響は小さいと予測される。

地下水位の変化による生息環境への影響については、水田は灌漑が実施されること、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種

の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

調節池からの放水に伴う濁水の流出による生息環境への影響については、水質の予測結果から放水される濁水の浮遊物質量は流入時とほとんど変わらないことから、放水に伴う濁水の流出による本種への影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-109 オオタニシ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

### 3) コシダカヒメモノアラガイ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、湿性草地、水田、本川・支川、池沼と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-110 に示す。

#### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

#### ② 直接改変以外

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響の程度】

対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境の変化が想定される。

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

【調節池からの放水に伴う濁水の流出による生息環境の影響の程度】

対象事業の実施に伴い、本川では調節池からの放水に伴う濁水の流出による生息環境の影響が想定される。

#### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生育環境は予測地域の1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響については、水質の予測結果を踏まえ、濁水及びアルカリ排水の流出はほとんど想定されないことから、濁水及びアルカリ排水の流出等による影響は小さいと予測される。

地下水位の変化による生息環境への影響については、水田は灌漑が実施されること、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種

の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

調節池からの放水に伴う濁水の流出による生息環境への影響については、水質の予測結果から放水される濁水の浮遊物質量は流入時とほとんど変わらないことから、放水に伴う濁水の流出による本種への影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-110 コシダカヒメモノアラガイ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

#### 4) モノアラガイ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、湿性草地、水田、本川・支川、池沼と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-111 に示す。

##### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

##### ② 直接改変以外

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響の程度】

対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境の変化が想定される。

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

【調節池からの放水に伴う濁水の流出による生息環境の影響の程度】

対象事業の実施に伴い、本川では調節池からの放水に伴う濁水の流出による生息環境の影響が想定される。

##### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生育環境は予測地域の1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響については、水質の予測結果を踏まえ、濁水及びアルカリ排水の流出はほとんど想定されないことから、濁水及びアルカリ排水の流出等による影響は小さいと予測される。

地下水位の変化による生息環境への影響については、水田は灌漑が実施されること、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種

の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

調節池からの放水に伴う濁水の流出による生息環境への影響については、水質の予測結果から放水される濁水の浮遊物質量は流入時とほとんど変わらないことから、放水に伴う濁水の流出による本種への影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。



保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

## 5) カワコザラガイ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、湿性草地、水田、本川・支川、池沼と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-112 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響の程度】

対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境の変化が想定される。

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

【調節池からの放水に伴う濁水の流出による生息環境の影響の程度】

対象事業の実施に伴い、本川では調節池からの放水に伴う濁水の流出による生息環境の影響が想定される。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生育環境は予測地域の1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響については、水質の予測結果を踏まえ、濁水及びアルカリ排水の流出はほとんど想定されないことから、濁水及びアルカリ排水の流出等による影響は小さいと予測される。

地下水位の変化による生息環境への影響については、水田は灌漑が実施されること、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種

の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

調節池からの放水に伴う濁水の流出による生息環境への影響については、水質の予測結果から放水される濁水の浮遊物質量は流入時とほとんど変わらないことから、放水に伴う濁水の流出による本種への影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-112 カワコザラガイ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 6) ドブガイ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、水田、本川・支川、池沼と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-113 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、水田、本川・支川、池沼の一部（2%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響の程度】

対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境の変化が想定される。

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

【調節池からの放水に伴う濁水の流出による生息環境の影響の程度】

対象事業の実施に伴い、本川では調節池からの放水に伴う濁水の流出による生息環境の影響が想定される。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、水田、本川・支川、池沼の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生育環境は予測地域の 2%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響については、水質の予測結果を踏まえ、濁水及びアルカリ排水の流出はほとんど想定されないことから、濁水及びアルカリ排水の流出等による影響は小さいと予測される。

地下水位の変化による生息環境への影響については、水田は灌漑が実施されること、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種

の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

調節池からの放水に伴う濁水の流出による生息環境への影響については、水質の予測結果から放水される濁水の浮遊物質量は流入時とほとんど変わらないことから、放水に伴う濁水の流出による本種への影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

## 7) ドブシジミ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、湿性草地、水田、本川・支川、池沼と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-114 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響の程度】

対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境の変化が想定される。

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

【調節池からの放水に伴う濁水の流出による生息環境の影響の程度】

対象事業の実施に伴い、本川では調節池からの放水に伴う濁水の流出による生息環境の影響が想定される。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生育環境は予測地域の1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響については、水質の予測結果を踏まえ、濁水及びアルカリ排水の流出はほとんど想定されないことから、濁水及びアルカリ排水の流出等による影響は小さいと予測される。

地下水位の変化による生息環境への影響については、水田は灌漑が実施されること、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種



の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

調節池からの放水に伴う濁水の流出による生息環境への影響については、水質の予測結果から放水される濁水の浮遊物質量は流入時とほとんど変わらないことから、放水に伴う濁水の流出による本種への影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-114 ドブシジミ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 8) ババアメンボ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、湿性草地、水田、本川・支川、池沼と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-115 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響の程度】

対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境の変化が想定される。

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

【調節池からの放水に伴う濁水の流出による生息環境の影響の程度】

対象事業の実施に伴い、本川では調節池からの放水に伴う濁水の流出による生息環境の影響が想定される。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生育環境は予測地域の1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響については、水質の予測結果を踏まえ、濁水及びアルカリ排水の流出はほとんど想定されないことから、濁水及びアルカリ排水の流出等による影響は小さいと予測される。

地下水位の変化による生息環境への影響については、水田は灌漑が実施されること、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種

の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

調節池からの放水に伴う濁水の流出による生息環境への影響については、水質の予測結果から放水される濁水の浮遊物質量は流入時とほとんど変わらないことから、放水に伴う濁水の流出による本種への影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-115 ババアメンボ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

(11) 予測結果（陸産貝類）

1) ミジンヤマタニシ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、落葉広葉樹林と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-116 に示す。

① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、落葉広葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと考えられる。

② 直接改変以外

直接改変以外の影響は想定されない。

③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、落葉広葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響については想定されない。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-116 ミジンヤマトニシ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 2) コウフオカモノアラガイ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、湿性草地、水田、本川・支川、池沼と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-117 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響の程度】

対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境の変化が想定される。

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生育環境は予測地域の1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響については、水質の予測結果を踏まえ、濁水及びアルカリ排水の流出はほとんど想定されないことから、濁水及びアルカリ排水の流出等による影響は小さいと予測される。

地下水位の変化による生息環境への影響については、水田は灌漑が実施されること、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。



保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

### 3) ナガオカモノアラガイ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、湿性草地、水田、本川・支川、池沼と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-118 に示す。

#### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

#### ② 直接改変以外

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響の程度】

対象事業の実施に伴い、改変区域及びその周辺では濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境の変化が想定される。

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

#### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、水田、本川・支川、池沼の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生育環境は予測地域の1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、工事の実施に伴う濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響については、水質の予測結果を踏まえ、濁水及びアルカリ排水の流出はほとんど想定されないことから、濁水及びアルカリ排水の流出等による影響は小さいと予測される。

地下水位の変化による生息環境への影響については、水田は灌漑が実施されること、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-118 ナガオカモノアラガイ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

#### 4) スナガイ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、湿性草地、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林と推定される。

調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-119 に示す。

##### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

##### ② 直接改変以外

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

##### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生育環境は予測地域の 1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、地下水位の変化による生息環境への影響については、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

## 5) ナタネキバサナギガイ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、湿性草地、落葉広葉樹林と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-120 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、落葉広葉樹林の一部（1%程度）が改変される。このことから、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。

### ② 直接改変以外

【調節池の存在・供用に伴う地下水位の変化による生息環境の影響の程度】

水象の予測結果から、対象事業の実施に伴い、事業実施区域及びその周辺では地下水位の低下による生息環境の変化が想定される。このことから、事業実施区域及びその周辺のうち、一部の地域が本種の生息環境として適さなくなる可能性があると考えられる。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、湿性草地、落葉広葉樹林の一部が改変され、これらの改変区域は本種の生息環境として適さなくなると考えられる。しかし、直接改変により改変される生育環境は予測地域の1%程度であり、改変区域の周辺には本種の生息環境が広く分布する。このことから、直接改変による影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響について、生息環境への影響が想定されたが、地下水位の変化による生息環境への影響については、影響が及ぶ可能性のある範囲は一部の地域であり、事業実施区域及びその周辺には本種の主な生息環境が広く分布することから、地下水位の低下による影響は小さいと予測される。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-120 ナタネキバサナギガイ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 6) マルナタネガイ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、常緑広葉樹林と推定される。

調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-121 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、常緑広葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと考えられる。

### ② 直接改変以外

直接改変以外の影響は想定されない。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、常緑広葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響については想定されない。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。



保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-121 マルナタネガイ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 7) ナミコギセル

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、落葉広葉樹林と推定される。

調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-122 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、落葉広葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと考えられる。

### ② 直接改変以外

直接改変以外の影響は想定されない。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、落葉広葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響については想定されない。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-122 ナミコギセル調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 8) ヒメハリマキビ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、落葉広葉樹林と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-123 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、落葉広葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと考えられる。

### ② 直接改変以外

直接改変以外の影響は想定されない。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、落葉広葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響については想定されない。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-123 ヒメハリマキビ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 9) マルシタラガイ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、落葉広葉樹林と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10. 6-124 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、落葉広葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと考えられる。

### ② 直接改変以外

直接改変以外の影響は想定されない。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、落葉広葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響については想定されない。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-124 マルシタラガイ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 10) ウメムラシタラガイ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、落葉広葉樹林と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10. 6-125 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、落葉広葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと考えられる。

### ② 直接改変以外

直接改変以外の影響は想定されない。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、落葉広葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響については想定されない。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。



保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-125 ウメムラシタラガイ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 11) オオウエキビ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、落葉広葉樹林と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-126 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、落葉広葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと考えられる。

### ② 直接改変以外

直接改変以外の影響は想定されない。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、落葉広葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響については想定されない。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-126 オオウエキビ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

## 12) トウキョウコオオベソマイマイ

現地調査結果及び既存文献調査結果から、予測地域における本種の主要な生息環境は、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林と推定される。調査の結果得られた本種の確認地点、推定された主要な生息環境及び事業計画を重ね合わせた結果を図 10.6-127 に示す。

### ① 直接改変

【堤体等の工事（掘削含む）及び工事用道路等の設置工事の実施に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度・調節池の存在・供用に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度】

対象事業の実施により、推定された本種の主な生息環境のうち、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと考えられる。

### ② 直接改変以外

直接改変以外の影響は想定されない。

### ③ まとめ

直接改変により推定された本種の主な生息環境のうち、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林の一部が改変されるが、改変割合は1%未満であり、本種への影響は小さいと予測される。

また、直接改変以外の影響については想定されない。

以上のことから、対象事業の実施による本種への影響は小さいと予測される。

保全すべき種の確認位置については、  
種の保全の観点から表示しない。

図 10.6-127 トウキョウコオオベソマイマイ調査結果と事業計画の重ね合わせ結果

### 10.6.3 評価

#### (1) 工事の実施及び土地又は工作物の存在・供用に伴う影響

##### 1) 評価方法

###### ① 回避・低減

工事の実施及び土地又は工作物の存在・供用に伴う動物への影響が、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避され、又は低減されているかどうかについて評価した。

##### 2) 評価結果

###### ① 回避・低減

予測の結果、本事業では、直接改変により保全すべき種への影響が生じる可能性があるとして予測されたが、いずれの種においても影響は小さいと予測され、さらに表 10.6-21 に示す環境の保全のための措置として、「湿地環境等の自然豊かな環境の代償・創出について、必要に応じて検討を行う」を講じることで、直接改変による動物への影響の低減に努める。

直接改変以外では、建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う生息環境への影響が想定されたが、表 10.6-21 に示す環境の保全のための措置として、「低騒音型建設機械を採用する」、「工事の平準化を図り、建設機械の集中的な稼働を避ける」を講じることで、建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に伴う動物への影響の低減に努める。

また、工事中の濁水及びアルカリ排水の流出等による生息環境への影響については、影響は小さいと予測されたが、環境の保全のための措置として、「工事中の降雨に伴い発生する濁水のSS濃度を「さいたま市生活環境の保全に関する条例」に基づく、指定土木建設作業に適用するその他の排出水の汚染状態に係る規制基準である180mg/L以下に処理してから、公共用水域に排水する」、「コンクリート工事の実施に伴い発生する濁水のpHを「さいたま市生活環境の保全に関する条例」に基づく、指定土木建設作業に適用するその他の排出水の汚染状態に係る規制基準である5.8～8.6に処理してから、公共用水域に排水する」を講じることで、工事中の濁水及びアルカリ排水の流出等に伴う動物への影響の更なる低減に努める。

供用後の地下水位の低下に伴い保全すべき種への影響が生じる可能性があるとして予測されたが、いずれの種においても影響は小さいと予測され、さらに表 10.6-21 に示す環境の保全のための措置として、「地下水位のモニタリングを行い、その結果を踏まえ必要に応じて専門家に相談し、事業による動物の生息環境への影響が確認された場合には、対策を必要に応じて検討する」を講じることで、地下水位の変化に伴う動物への影響の更なる低減に努める。

この他、供用後の放水に伴う濁水の流出による生息環境の影響についても、影響は小さいと予測された。

以上のことから、工事の実施及び土地又は工作物の存在・供用に伴う動物への影響は、事業者により実行可能な範囲内でできる限り低減が図られていると評価する。

表 10.6-21 環境の保全のための措置

影響要因	影響	検討の視点	環境の保全のための措置	措置の区分
工事の実施 及び土地又は 工作物の存在・供用	土地の改変	環境の創出	・湿地環境等の自然豊かな環境の代償・創出について、必要に応じて検討を行う。	低減
	地下水の 水位の変化	環境の監視	・地下水位のモニタリングを行い、その結果を踏まえ 必要に応じて専門家に相談し、事業による動物の生息環境への影響が確認された場合には、対策を必要に応じて検討する。	低減
建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行	騒音の発生	発生源対策	・低騒音型建設機械を採用する。 ・工事の平準化を図り、建設機械の集中的な稼働を避ける。 ・作業方法の改善(高負荷運転の抑制、アイドリングストップ等)に努める。	低減
堤体等の工事(掘削含む)及び工食用道路等の設置工事の実施	濁水の流出	発生源対策	・工事中の降雨に伴い発生する濁水のSS濃度を「さいたま市生活環境の保全に関する条例」に基づく、指定土木建設作業に適用するその他の排出水の汚染状態に係る規制基準である 180mg/L 以下に処理してから、公共用水域に排水する。	低減
堤体等の工事(掘削含む)	アルカリ分の流出	発生源対策	・コンクリート工事の実施に伴い発生する濁水のpHを「さいたま市生活環境の保全に関する条例」に基づく、指定土木建設作業に適用するその他の排出水の汚染状態に係る規制基準である 5.8～8.6 に処理してから、公共用水域に排水する。	低減